

# 人口動態

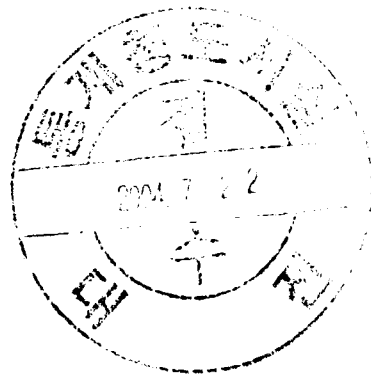
昭和五年

出生、死亡、死産、婚姻、離婚、

配偶数。(大正10年～昭和5年)

出生と死産別表

出生比較表(大正10年～昭和5年)



B45768

9.80	31.69
10.46	43.44
9.08	19.14
16.25	51.87
17.43	69.32
15.01	33.75
8.07	26.24
8.77	37.44
7.36	15.05
10.01	29.63
11.97	44.23
7.91	14.00
10.38	29.28
11.62	46.01
9.12	12.28
8.52	20.31
8.37	27.54
8.67	12.83

312.4  
5540

## 人口動態

昭和五年, 出生, 死亡, 死産, 婚姻, 離婚, 配偶数  
(大正10年 ~ 昭和5年)

昭和六年 出生, 死産, 出生, 累年比較表  
(大正12年 ~ 昭和7年)

昭和八年 出生, 出生, 死産, 死亡数  
(大正13年 ~ 昭和8年)

昭和九年 出生, 出生, 死産, 死亡總数  
(大正14年 ~ 昭和9年)

昭和十年 出生, 出生, 死産, 婚姻, 離婚,  
(昭和1年 ~ 昭和10年)

" 人口動態の対比, 南總督聲明  
" " 井坂口勢調査課長人事

昭和十一年, 出生, 出生, 死産,  
(昭和2年 ~ 昭和11年)

昭和十二年 婚姻, 離婚, 配偶数  
(昭和8年 ~ 昭和12年)

昭和十三年 出生, 死亡 (4月 ~ 9月)

昭和十四年 出生, 死亡 (1月 ~ 3月)

B 45168

# 昭和五年の死亡

昭和五年中朝鮮に於ける、死亡者は三十八萬一千八百七十七人（内地人七千六百八十一人朝鮮人三十七萬三千七百三十二人外國人四百七十四人）にして、一日平均一千四十六人、人口千に付一八・九人なり、之を前年に比するに、七萬九千八百五十二人、人口千に付五・〇人を減少せり。

死亡率を既往十箇年に遡つて見るに左表の如く、最高は昭和四年の人口千に付二三・九人、最低は昭和五年の一八・九人にして、平均二一・二人なり。

年次	實數	人口千に付	年次	實數	人口千に付
大正十年（昭和十一年）	三四五、二六二	一九・八	昭和元年（昭和十一年）	三八七、七四三	二〇・三
同 十一年（昭和十二年）	三七七、七五〇	二一・四	同 二年（昭和十二年）	四一、〇一五	二一・五
同 十二年（昭和十三年）	三六七、一二〇	二〇・五	同 三年（昭和十三年）	四三三、三七五	二三・一
同 十三年（昭和十四年）	三八七、五八六	二一・五	同 四年（昭和十四年）	四六一、七二九	二三・九
同 十四年（昭和十五年）	三九二、四九七	二〇・六	同 五年（昭和十五年）	三八一、八七七	一八・九

昭和五年に於ける死亡率を道別に見るに、最高は平北の人口千に付二五・五人、最低は全南の一三・〇人にして、其の差一二・五人、即ち平北は全南に殆んど二倍する死亡率を有す、死亡率は、平南・平北・咸南・咸北等の北鮮及京畿・黄海・江原等の中鮮に高く、忠北・忠南・全北・全南・慶北・慶南等南鮮に低し、即ち次表の如し。



道	實數	人口千=付	道	實數	人口千=付
京畿道	四四、四三七	二一・八	忠清南道	二〇、二五二	一五・〇
忠清北道	一五、二三二	一七・四	全羅北道	一九、二八三	一三・二
全羅南道	二九、〇九一	一三・〇	平安北道	三八、一五八	二五・五
慶尙北道	三八、三九九	一六・四	江原道	三二、四三三	二三・〇
慶尙南道	三五、六〇三	一七・三	咸鏡南道	三二、二〇七	二一・七
黃海道	三二、七七〇	二二・〇	咸鏡北道	一四、五三七	二〇・三
平安南道	二九、四七五	二二・七	總計	三八一、八七七	一八九

死亡の月は一月乃至三月及十二月に最も多く、四月乃至八月之に次ぎ、九月乃至十一月に於て最も少し、即ち冬期に最も多く、春期及夏期之に次ぎ、秋期に於て最も少し。

月	實數	千分比例	月	實數	千分比例
一月	三六、五四九	九五・七	八月	三〇、九三七	八一・一
二月	三六、四四一	九五・四	九月	二八、三二三	七四・二
三月	三九、四二四	一〇三・二	十月	二五、四三四	六六・六
四月	三二、三二〇	八四・六	十一月	二六、八七五	七〇・三
五月	三一、四六九	八二・四	十二月	三三、五六一	八七・九
六月	二九、六九七	七七・八	總計	三八一、八七七	一〇〇〇・〇
七月	三〇、八四七	八〇・八			

死亡者の年齢別は五歳未満の小兒最も多く、死亡全體の三割四分を占め、五歳—九歳は急激に減少して六分

五厘となり「十歳—十四歳」及「十五歳—十九歳」は最も少く、三分七厘を示す。二十歳より三十九歳は著しき増減なく。四分強の状態を示し、「四十歳—四十九歳」の六分二厘より漸次増加して、五十歳—五十九歳は六分八厘、六十歳—六十九歳は九分五厘となるも、七十歳—七十九歳は稍低下して八分四厘、八十歳以上は三分六厘に減少す、即ち次表の如し。

	實 數	千 分 比 例		實 數	千 分 比 例
一年未滿	四六、二三九	一二・一	三十五年以上	一五、五〇一	四〇・六
一年以上	四〇、九六八	一〇七・三	四十年以上	二三、七五〇	六二・二
二年以上	四四、六五九	一一六・九	五十年以上	二五、八八〇	六七・八
五年以上	二四、九四八	六五・三	六十年以上	三六、〇八七	九四・五
十年以上	一四、二一六	三七・二	七十年以上	三一、九〇八	八三・五
十五生以上	一四、四七二	三七・九	八十年以上	一三、六二四	三五・七
二十年以上	一六、三〇〇	四二・七	年 齡 不 詳	一、四〇七	三・七
二十五年以上	一五、三〇八	四〇・一	總 計	三八一、八七七	一〇〇〇・〇
三十年以上	一六、六一〇	四三・五			

死亡の原因たる疾病別を見るに左表の如く、神経系病の二割、消化器病の一割八分、呼吸器病の一割四分感冒の九分及傳染性病の八分等最も著しく、之に次ぐは老衰病の六分五厘、循環器病の四分八厘、全身病及泌尿生殖器病の二分七厘なり。

比し男の割合三・二を増加せり。

死亡者の性別は男二十萬五千百六十四人、女十七萬六千七百十三人、女百に付男一二六・一にして、前年に

	男		女	
	實數	千分比例	實數	千分比例
全身病	一〇、三六三	二七・一	六九、七一九	一八二・六
精神病	六、五八六	一七・二	六九三	一・八
神経系病	七四、六九三	一九五・六	四、四二七	一一・六
循環器病	一八、四九五	四八・四	六、八六〇	一八・〇
眼及其の附屬器病	七七三	二・〇	一〇、四七五	二七・四
耳鼻咽喉病	七二二	一・九	二、九六一	七・八
呼吸器病	六、七四一	一七・六	四、六〇〇	一二・一
老衰	五四、三五五	一四二・三	三、二六七	八・六
妊娠及産	二四、六六九	六四・六	一、〇九一	二・九
中毒	三、三九八	八・九	三四、九〇三	九一・四
新生物	三、六〇四	九・四	二九、六〇三	七七・五
寄生蟲病	七四〇	一・九	四、一五〇	一〇・九
	三、九八九	一〇・五	總計	一〇〇〇・〇
<p>死亡者の性別は男二十萬五千百六十四人、女十七萬六千七百十三人、女百に付男一二六・一にして、前年に比し男の割合三・二を増加せり。</p>				
大正十年	一八二、〇五六	一六三、二〇六	女百に付男	一一五・四
大正十一年	二〇〇、〇〇〇	一七七、七五〇		一一二・一
大正十二年	一九四、四九三	一七二、六二七		一一二・七

大正十三年	二〇五、八六四	一八一、七二二	一一二・七
大正十四年	二〇九、六一五	一八二、八八二	一二四・六
昭和元年	二〇六、〇九〇	一八一、六五三	一一三・五
昭和二年	二一八、七三五	一九二、二九〇	一一三・七
昭和三年	二三〇、二一九	二〇三、一五六	一一三・三
昭和四年	二四四、八〇八	二一六、九二一	一一二・九
昭和五年	二〇五、一六四	一七六、七一三	一一六・一

次に死亡者の體性を年齢別に見るに、女に對する男の割合は、「五歳未満」及「五十歳—五十九歳」を山とし、「十五歳—二十四歳」及「八十歳以上」を谷とする波狀を形成す。即ち「五歳未満」に於ては、女百に付男一一九・六を占むるも、それより年齢の長するに従ひ、男の割合を遞減し、「十五歳—十九歳」に於ては、男は女より少く、女百に付男九九・九を示し、「二十歳—二十四歳」は更に減少して九九・〇を有す、二十五歳以上は漸次男の割合を増加し、「五十歳—五十九歳」は一四〇・六の高率を示すも、六十歳以上は再び遞減し、八十歳以上は九四・二に減少す、即ち次表の如し。

	男	女	女百 = 付男
一年 未満	二五、四八二	二〇、七五七	一二二・八
一年 以上	二二、四三六	一八、五三二	一二二・九
二年 以上	二三、九一〇	二〇、七四九	一一五・二
(五年 未満計)	七一、八二八	六〇、〇三八	一一九・六
五年 以上	一三、一九五	一一、七五三	一一二・三

尙詳細は以下四表の通りなり。

	十年以上		十五年以上		二十年以上		二十五年以上		三十年以上		三十五年以上		四十年以上		五十年以上		六十年以上		七十年以上		八十年以上		年齢不詳		總計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
京畿道	1,633	95	3,519	1,911	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	11,011
忠清北道	1,633	95	3,519	1,911	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	11,011
忠清南道	1,633	95	3,519	1,911	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	11,011
内地人	1,633	95	3,519	1,911	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	11,011
朝鮮人	1,633	95	3,519	1,911	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	11,011
外國人	1,633	95	3,519	1,911	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	11,011
合計	1,633	95	3,519	1,911	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	11,011
計	1,633	95	3,519	1,911	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	1,900	714	11,011

現住内地人朝鮮人外國人死亡者道別表

(昭和五年)

全羅北道	三八八	一〇、四三三	八、四三六	八	一	一〇、六五八	八、六五五	一九、二六三
全羅南道	二五二	三六	一五、六四六	二四	三	一五、九二二	一三、一七九	二九、〇九一
慶尙北道	二四四	三三	二〇、六六八	一七、五三六	四	二〇、六三七	一七、七六二	三八、三九九
慶尙南道	八七九	七四四	一八、四九一	一五、四九六	一	一九、三三七	一六、三三三	三五、六〇三
黃海道	一一七	一一三	一七、六九九	一五、二二〇	三〇	一七、四一六	一五、五五四	三三、七三〇
平安南道	三九三	三二四	一五、一四四	一三、三八一	五十一	一五、七五八	一三、七七七	二九、四七五
平安北道	一六	一一	九、九四四	一七、七六六	八〇	一〇、三三〇	一七、九四八	三八、一五八
江原道	七三	四八	一七、五五五	一四、九四五	二	一七、四三九	一四、九四〇	三三、四〇三
咸鏡南道	三九	三三七	一六、五八八	一四、六五五	四三	一七、三三九	一四、八八八	三三、四〇七
咸鏡北道	三三	二〇〇	七、六八八	六、四三三	四八	七、九八八	六、六六八	一四、五五七
總計	四、一〇三	三、七六六	二〇、七三〇	一七、九三三	三三	二〇、一六四	一七、七三三	三八、八七七

內 地 人				朝鮮 人				外國 人				合 計			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
三八四	三六六	一九、二五五	一六、五三四	二	一四	一九、六六五	一六、八八四	三八、五四九	三六、四四一	二	一四	一九、六六五	一六、八八四	三八、五四九	三六、四四一
二九二	二五二	一九、〇二二	一六、八六六	二	二	一九、〇四〇	一七、一〇一	二	二	一九、〇四〇	一七、一〇一	二	二	一九、〇四〇	一七、一〇一
四〇一	三三一	二〇、八八五	一七、七七七	六	六	二一、三二五	一八、一〇九	六	六	二一、三二五	一八、一〇九	六	六	二一、三二五	一八、一〇九
三八	二五〇	一七、〇八五	一四、六六六	一〇	一〇	一七、四三三	一四、八八八	一〇	一〇	一七、四三三	一四、八八八	一〇	一〇	一七、四三三	一四、八八八
三九	二五九	一六、五九九	一四、三三三	一五	一五	一六、九四三	一四、五三六	一五	一五	一六、九四三	一四、五三六	一五	一五	一六、九四三	一四、五三六
六五	三二〇	一五、六〇九	一三、四四〇	一七	一六	一五、九三三	一三、七六六	一七	一六	一五、九三三	一三、七六六	一七	一六	一五、九三三	一三、七六六
總計	四、一〇三	三、七六六	二〇、七三〇	一七、九三三	三三	二〇、一六四	一七、七三三	三八、八七七	三八、八七七	三三	二〇、一六四	一七、七三三	三八、八七七	三八、八七七	三八、八七七

現住內地人朝鮮人外國人死亡者月別表

(昭和五年)

七 月  
八 月  
九 月  
十 月  
十 月  
十 月  
總 計

現住內地人朝鮮人外國人死亡者年齡別表 (昭和五年)

年齡	內地人		朝鮮人		外國人		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
一年未滿	五九〇	五〇〇	三〇、八五六	三〇、一九五	四三	四二	三三、四八二	三〇、七五七
一年以上	三九七	二六二	三三、一二七	一八、二五四	一六	一六	三三、四三六	一八、五三三
二年以上	三六	三〇〇	三三、五〇〇	二〇、三六九	一〇	一〇	三三、九一〇	二〇、七四九
五年以上	三六	二九	二二、九五五	一一、五二七	一七	一七	二二、一九五	一一、七五四
十年以上	一四	一六	七、四九	六、五四七	三	三	七、五二九	六、七二七
十五年以上	三六	二四	七、〇〇六	七、〇一三	七	七	七、〇二二	七、〇二一
二十年以上	一六	一五	七、八三九	七、九六八	三	三	八、〇一八	八、一九二
二十五年以上	二七	三三	七、八〇〇	七、〇一〇	六	六	八、〇〇八	七、二六〇
三十年以上	一九	三三	八、三三	七、八六	三	三	八、三五四	八、〇六六
三十五年以上	一六	一六	八、二八	七、〇〇	一〇	一〇	八、三三九	七、一八二
總 計	四、一〇三	三、七七八	一〇〇、七三〇	一七、三九一	三三	三三	一〇一、一六三	一七、六二三
十 月	三〇一	三〇五	一七、三八	一五、五四四	二	九	一七、七〇三	一五、八五八
十 月	三三九	三〇七	一四、一〇七	一一、九五四	四	一四	一四、六〇六	一二、三七五
十 月	三三	二九〇	一三、四四三	一一、三五二	四	一四	一三、七八二	一一、六五二
九 月	三三	三三	一四、九〇一	一二、二四	一〇	一〇	一五、二六四	一三、〇三九
八 月	三三	三三	一五、八七七	一四、四四五	二七	二二	一六、二六七	一四、六七〇
七 月	三三	三〇九	一六、五二一	一三、六一一	一五	一五	一六、九一二	一三、九三三
總 計	三三	三三	一五、八七七	一四、四四五	二七	二二	一六、二六七	一四、六七〇
十 月	三三	三三	一四、九〇一	一二、二四	一〇	一〇	一五、二六四	一三、〇三九
十 月	三三	三三	一三、四四三	一一、三五二	四	一四	一三、七八二	一一、六五二
十 月	三三	三〇七	一四、一〇七	一一、九五四	四	一四	一四、六〇六	一二、三七五
十 月	三〇一	三〇五	一七、三八	一五、五四四	二	九	一七、七〇三	一五、八五八
總 計	四、一〇三	三、七七八	一〇〇、七三〇	一七、三九一	三三	三三	一〇一、一六三	一七、六二三
總 計	三三	三三	一五、八七七	一四、四四五	二七	二二	一六、二六七	一四、六七〇
總 計	三三	三〇九	一六、五二一	一三、六一一	一五	一五	一六、九一二	一三、九三三
總 計	三三	三三	一五、八七七	一四、四四五	二七	二二	一六、二六七	一四、六七〇
總 計	三三	三三	一四、九〇一	一二、二四	一〇	一〇	一五、二六四	一三、〇三九
總 計	三三	三三	一三、四四三	一一、三五二	四	一四	一三、七八二	一一、六五二
總 計	三三	三〇七	一四、一〇七	一一、九五四	四	一四	一四、六〇六	一二、三七五
總 計	三〇一	三〇五	一七、三八	一五、五四四	二	九	一七、七〇三	一五、八五八
總 計	四、一〇三	三、七七八	一〇〇、七三〇	一七、三九一	三三	三三	一〇一、一六三	一七、六二三

[illegible]



總計	不明原因及 診斷困難	傳染性病	感冒	脚氣	寄生蟲病	新生物	中毒	妊娠及產後	老年衰弱	畸形及幼年	溺死及縊死	外傷	泌尿生殖器病	皮膚及其附屬器病	運動器病
四、〇三	三	六六	六三	五	四	五	五	一	一〇	二五	八四	二二	二五	三	四
三、五七六	六六	六四	六四	三	九	四	四〇	六六	二七	九三	元	七五	一八一	二四	五九
三〇、七〇〇	二、一九	一、一四	一、八、四四	一七	二、〇六	一、〇九	一、九、九	一	三、三七	一、六〇	二、八八	一、六五九	五、〇六一	三、八三四	二、三四五
一五、九三	一、八六	一、三六	一、六、〇四	〇三	一、三〇	〇〇	一、四、二	三、三七	一、九二五	一、三九七	一、六五三	一、〇九〇	五、〇八〇	二、九六五	一、七九九
三三	三	二七	三	一	一	一	七	一	三	二	六	二五	一〇	三	三
一四	一	一	六	一	一	一	三	三	二	一	一	一	四	一	一
四、四四	四〇、三	四〇、三	一、八、五二	七	二、〇四	三、九六	三、〇二九	一	二、三、三	一、七七七	二、九八	一、七九六	五、二一〇	三、八七〇	二、五六八
一、七、七三	一、四、一	一、三、六六	一、六、三七四	五	一、九三九	一、五八五	三、三九八	二、〇三三	一、〇三三	一、四九〇	一、六二二	一、一六五	五、二六五	二、九九〇	一、八三八
三、一、八七七	三、一、五〇	二、九、〇〇	三、四、九〇三	一、〇、一	三、九六九	七〇〇	三、六〇四	三、三九八	二、四、六六九	三、二六七	四、六〇〇	二、九六一	一〇、四七五	六、八六〇	四、四二七

# 昭和五年の出産

昭和五年中朝鮮に於ける出産、即ち出生と死産との合計は七十七萬六千七百八十一人にして、内出生七十七萬二千二百七十人、死産四千四百三十人にして、出産百に付出生九十九・四、死産〇・六なり。

而して過去十箇年間に於ける、出生と死産との割合を示せば、次の如く著しき變動なきも、漸次死産減少の傾向あり。

年次	實數			百分率	
	出産總數	出生數	死産數	出生に付	死産に付
大正十年	五二二、一四四	五一八、〇六三	四、〇八一	九九・二	〇・八
大正十一年	五九九、五一八	五九五、〇〇五	四、五一三	九九・二	〇・八
大正十二年	七二三、〇三一	七一九、一六一	三、八七〇	九九・五	〇・五
大正十三年	六九四、八五一	六九〇、六二二	四、二二九	九九・三	〇・七
大正十四年	七二五、九四三	七二二、四九三	三、四五〇	九九・五	〇・五
昭和元年	六八〇、〇〇二	六七六、一七六	三、八二六	九九・四	〇・六
昭和二年	七〇一、八五三	六九八、一八九	三、六六四	九九・五	〇・五
昭和三年	七二五、二一四	七二一、五九四	三、六二〇	九九・五	〇・五
昭和四年	七三三、七七六	七三〇、一七九	三、五九七	九九・五	〇・五
昭和五年	七七六、七〇〇	七七二、二七〇	四、四三〇	九九・四	〇・六

今出生及死産に付、各別に見れば左の如し。

# 一 出 生

出生總數 昭和五年中朝鮮に於ける出生は、七十七萬二千二百七十人（内地人一萬一千四百三十二人、朝鮮人七十六萬六百三十八人、外國人二百三十六人）にして一日平均二千百十六人、人口に對比するに千に付三八・一に當り、内地に於ける三三・〇（昭和四年）に比し五・一高し、之を前年に比較するに、實數に於て四萬二千九十一人を増加せるも、率に於ては増減なし。

出生累年比較 出生率を既往十箇年に遡つて見るに、最高は人口千に付、大正十二年の四〇・二、最低は大正十年の二九・七にして、平均三六・六なり、

年 次	實 數	人口千に付	年 次	實 數	人口千に付
大正十年	五一八、〇六三	二九・七	昭和元年	六七六、一七六	三五・四
大正十一年	五九五、〇〇五	三三・八	昭和二年	六九八、一八九	三六・五
大正十二年	七一九、一六一	四〇・二	昭和三年	七二一、五九四	三七・六
大正十三年	六九〇、六二二	三八・二	昭和四年	七三〇、一七九	三八・一
大正十四年	七二二、四九三	三八・〇	昭和五年	七七二、二七〇	三八・一

出生率道別 出生率を道別に見るに、最高は人口千に付、平北の四八・八、最低は全北の二五・五にして、

其の差二三・三、即ち平北は全北に殆んど二倍する出生率を有す、出生率高きは平北、平南、咸南、咸北の諸道、低きは全北、忠南、慶南にして大體南鮮に低く、北鮮に高し。

出生児の體性 昭和五年に於ける出生児は、男四十萬六千四百三十八人、女三十六萬五千八百三十二人、其の割合は女一〇〇に付、男一一・一にして、前年に比し男の割合一・五を減少せり、之を既往十箇年に遡り比較するに、多少の高低あるも、常に一二以上の割合を示し、内地の女百に付男一〇・四・四（昭和三年）の割合を有するに比し男の數著しく多し。

道名	實數	人口千に付	道名	實數	人口千に付
京畿道	七七、七三二	三八・一	黃海道	五四、二八三	三六・四
忠清北道	三二、八四五	三七・五	平安南道	五九、四四三	四五・八
忠清南道	四五、一二四	三三・四	平安北道	七三、〇二五	四八・八
全羅北道	三七、一八九	二五・五	江原道	六〇、八四七	四三・一
全羅南道	八八、一六一	三九・四	咸鏡南道	六四、三六〇	四三・三
慶尙北道	八一、八九二	三五・一	咸鏡北道	二八、四二七	三九・七
慶尙南道	六八、九四二	三三・五	總計	七七二、二七〇	三八・二

出生兒の體性。昭和五年に於ける出生兒は、男四十萬六千四百三十八人、女三十六萬五千八百三十二人、其の割合は女一〇〇に付、男一一・一にして、前年に比し男の割合一・五を減少せり、之を既往十箇年に遡りて比較するに、多少の高低あるも、常に一二以上の割合を示し、内地の女育に付男一〇四・四（昭和三年）の割合を越するに比し男の數著しく多し。

年次	男	女	女育に付男
大正十年	二七九、二〇三	二三八、八六〇	一一六・九
大正十一年	三一三、八九四	二八一、一一一	一一一・六
大正十二年	三七五、三一六	三四三、八四五	一〇九・二
大正十三年	三六八、六〇九	三二二、〇一三	一一四・四
大正十四年	三八一、九七七	三四〇、五一六	一一二・一
昭和元年	三六一、一二二	三一五、〇五四	一一四・六

年次

男

女

女百に付男

昭 和 二 年	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年
三七一、六七五	三八三、三一五	三八六、七〇〇	四〇六、四三八
三二六、五一四	三三八、二七九	三四三、四七九	三六五、八三二
一一三八	一一三三	一一二六	一一二一

出生の季節 昭和五年に於ける出生は一月が最も多く、三月之に次ぎ多く、之に反し六月が最も少く、七月之に次ぎ少なく、大體に於て冬期より初春にかけて多く、夏季及秋季に少し。

月 次	實 數	一年平均一箇月 出生百に付	月 次	實 數	一年平均一箇月 出生百に付
一 月	八二、二六七	一二七・八	八 月	五九、五一九	九二・五
二 月	七四、五〇四	一一五・八	九 月	七六、一〇一	一一八・二
三 月	七八、五七一	一二二・一	十 月	五七、一〇三	八八・七
四 月	六五、九五二	一〇二・五	十一 月	五四、三五二	八四・五
五 月	六〇、四一三	九三・八	十二 月	六八、三二七	一〇六・二
六 月	四六、二〇六	七一・八	總 計	七七二、二七〇	一一二〇・〇
七 月	四八、九五五	七六・一	一年平均一箇月の出生	六四、三五六	一〇〇・〇

## 二 死 産

死産總數 昭和五年中朝鮮に於ける死産は四千四百三十人にして、人口に對する割合は千人に付、〇・二二なり。之を前年に比較するに、實數に於て八三三人、割合に於て〇・〇三を増加せり。

死産累年比較 死産率を既往十箇年に遡つて見るに、人口千に付大正十一年の〇・二六を最高とし、爾後漸次減少して〇・一九を示せるも、昭和五年は再び〇・二二に増加せり。之を内地に於ける死産率減少の傾向あるに不拘、一・九〇(昭和三年)を示すに比し、著しく低率なり。

年次	實數	人口千に付	年次	實數	人口千に付
大正十年	四、〇八一	〇・二三	昭和元年	三、八二六	〇・二〇
大正十一年	四、五一三	〇・二六	昭和二年	三、六六四	〇・一九
大正十二年	三、八七〇	〇・二二	昭和三年	三、六二〇	〇・一九
大正十三年	四、二二九	〇・二三	昭和四年	三、五九七	〇・一九
大正十四年	三、四五〇	〇・一八	昭和五年	四、四三〇	〇・二二

死産道別 死産率を道別に見るに、最高は人口千に付、平南の〇・四七、最低は全南の〇・一一にして、其の差は〇・三六なり。

道名	實數	人口千に付	道名	實數	人口千に付
京畿道	八八九	〇・四四	黃海道	二七四	〇・一八
忠清北道	五九	〇・〇七	平安南道	六〇四	〇・四七
忠清南道	二〇五	〇・一五	平安北道	四〇〇	〇・二七
全羅北道	一七九	〇・一二	江原道	二〇六	〇・一五
全羅南道	二五〇	〇・一一	咸鏡南道	二六〇	〇・一八
慶尙北道	一七三	〇・〇七	咸鏡北道	三三〇	〇・四六
慶尙南道	六〇一	〇・二九	總計	四、四三〇	〇・二二

死産體例 昭和五年の死産見数、男は二、四八五人、女は一、九四五人にして、女百に對する男の割合は一

二七・八にして、出生兒に於ける場合に比し、男の割合著しく大なり。

死産月別 昭和五年に於ける、死産は季節により著しき相異なきも、最も多きは七月及八月にして、最も少

きは四月なり。

備考 死産は妊娠後四箇月以上の死胎を分曉したものでなり。

出生月別表 昭和五年

		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
内地人	男	六七	五三	五七	四八	四九	六二	四四	四九	五七	五三	五八	四三	六、〇五九
	女	六三	五四	五九	四二	五二	五三	三七	四一	五三	四三	四八	五二	五、三五四
朝鮮人	男	四、七七	八、四三	四、四七	三、九七	三、三二	二、四一	三、八二	三、七九	八、四九	二、六九	六、八二	四、〇、七五	四〇、〇、七五
	女	六、三三	四、九三	五、〇七	三、二三	二、六六	三、五五	三、三七	七、七〇	六、四九	六、三九	三、八四	三、八四	三六、〇、三三
外國人	男	七	一六	九	二	九	一四	一三	九	七	一四	九	一〇	一六
	女	二	六	三	八	六	七	九	一〇	一六	七	七	九	二〇
計	男	四、八二	九、〇二	四、〇三	三、六六	三、六六	二、六二	三、六三	三、九八	九、〇八	二、八三	六、八三	四、〇、六八	四〇、〇、六八
	女	六、八六	五、三三	五、八八	三、五三	二、七三	三、七五	三、七三	六、三〇	七、〇八	三、五八	三、八四	三、八四	三六、〇、八三
計		一、六、七	一、四、三	一、六、一	一、五、五	一、六、四	一、六、四	一、六、四	一、六、四	一、六、四	一、六、四	一、六、四	一、六、四	一、六、四

出生道別表 昭和五年

道名	一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月												計
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
内地人	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四	男 四
朝鮮人	女 一七五	女 一五二	女 一七五	女 一七五	女 一六八	女 一七	女 一八八	女 一三	女 一五	女 一七〇	女 一六三	女 一七〇	女 一七〇
外國人	女 二	女 一	女 一	女 一	女 一	女 一	女 一	女 一	女 一	女 一	女 一	女 一	女 一
計	計 三三	計 一六	計 一	計 一	計 一	計 一	計 一	計 一	計 一	計 一	計 一	計 一	計 一
京畿道	七、六九	六、八八七	七、五八	五、九三	五、五八四	四、五九	四、八五六	六、九三	九、六五三	五、九八八	五、六六〇	六、八三	七、七三
忠清北道	三、六六七	三、三九	三、七五二	二、九〇	二、八二七	一、六六八	一、五三七	二、三五四	三、七五五	二、五三三	二、二二七	二、六一九	三、八四五
忠清南道	四、八六〇	四、四三	四、七五六	三、八六八	三、八〇一	二、二六七	二、五四〇	三、六四八	四、六四一	三、六六	二、八四二	三、七九三	四、二四
全羅北道	四、三二七	三、七六六	三、八二〇	三、七六	二、七五	一、九九	二、四七〇	二、八六	三、六八七	三、〇八	二、五六二	二、九三三	三、七八九
全羅南道	一、七六五	一、〇四三	一、〇六一	八、一五四	六、七六三	四、七六	五、〇七四	五、五九四	七、一五七	五、〇三八	五、三六	七、二〇一	八、八六一
慶尙北道	九、〇七五	八、一八九	八、三三五	七、五〇	六、三六二	四、八七	五、〇七四	六、三九〇	八、六七	六、一六	五、六九	七、一七三	八、八三
慶尙南道	六、三〇〇	六、五五	六、〇二六	五、二八	五、〇三九	五、六五	五、九九	五、三三	五、七九〇	五、六〇七	五、一三	六、五二二	六、九四三
黃海道	五、八四六	四、九三	五、一五六	四、三八	四、二五	三、三七	三、四九八	四、二八	五、四九	四、二四一	三、九九九	五、〇七五	五、四二



死産道別表 昭和五年

道名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
平安南道	六〇六	五、三〇	五、七二	四、九八	四、九二	三、八七	三、八七	四、八〇	五、六四	四、二六	四、六四	五、三七	五九、四四三
平安北道	七、三〇九	六、三三	六、八八	六、六三	六、三六	四、七四	四、九四	五、九〇	六、八六	五、三三	五、四四二	六、四八九	七三、〇三
江原道	六、三六八	五、五五	六、二九	五、〇九	四、七九	三、九三	三、七四	四、七七	六、三六	四、七六	四、〇七	五、六六	六〇、八四七
咸鏡南道	六、六八	六、〇四	六、七二	五、四四	四、八七	三、九三	四、三九	四、八七	五、八六	四、七九	四、九三	六、一〇五	六四、三六〇
咸鏡北道	二、七二	二、六二	三、一四	二、六五	二、三二	一、八二	一、七〇	一、九二	二、六四	二、〇四	二、三三	二、六三	二六、四三七
總計	八二、六七	七四、五四	七六、七二	六九、九三	六八、四三	四六、〇六	四八、九五	五九、五九	七六、一〇	五七、〇三	四四、三三	六八、三三七	七三、一七〇

道名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
京畿道	六	七	六	六	六	九	七	六	六	七	六	七	八八
忠清北道	四	三	五	六	六	一	八	三	五	五	二〇	三	五九
忠清南道	三〇	三〇	三二	二八	二四	三二	二五	二八	二〇	二〇	二六	三三	二〇五
全羅北道	二六	一九	三〇	二二	七	二二	三	二六	二	一八	二二	二五	二七九
全羅南道	三三	二二	一九	一六	三三	二四	元	三三	三	二五	二六	三二	二五〇
慶尙北道	五	二	一五	一四	二	一七	元	二	一四	三〇	九	一六	一七三
慶尙南道	五〇	四二	四三	四三	四六	五二	五二	七	五五	四八	四六	五七	六二一
黃海道	七	八	三	三	二	三	三	三	三	四	二六	一六	二七四
平安南道	四	四	四	六	四	五	四	四	四	六	五	二	六四
平安北道	三	三	元	元	四〇	三	三	元	三〇	四三	二六	四	四〇〇
江原道	三〇	三	六	二	三	八	三〇	一五	二	三〇	一〇	二五	二〇六
咸鏡南道	二四	三	六	一九	三	三	元	三〇	七	三	二五	三〇	三〇〇
咸鏡北道	三	八	六	元	元	三〇	四〇	八	三	一	二五	三	三〇〇
總計	三六七	三五四	三六七	三六	三六	三八	四二	四六	三七	三八	四四	五九	四、四〇〇

# 昭和五年の結婚、離婚及配偶數

## 一、結 婚

結婚總數 昭和五年中に行はれたる結婚は、十九萬九千二百八十一件（内地人千六百八十三件、朝鮮人十九萬）にして一日平均五百四十六件、人口千に付九・八四件なり。之を前年に比較するに、五千十六件を増加せるも、割合に於ては人口千に付〇・二一件を減少せり。

結婚率累年比較 結婚率を既往十箇年に就きて見るに、最高は大正十二年の人口千に付一四・四九件、最低は大正十三年の八・六件にして、平均一〇・〇二件なり。

年 次	實 數	人口千ニ付	年 次	實 數	人口千ニ付
大 正 十 年	一五六、三四三	八・九六	昭 和 元 年	一六八、五九八	八・八三
大 正 十 一 年	一九四、七九三	一一・〇五	昭 和 二 年	一七五、九五三	九・一九
大 正 十 二 年	二五九、〇九六	一四・四九	昭 和 三 年	一九三、一六五	一〇・〇七
大 正 十 三 年	一五五、九三五	八・六三	昭 和 四 年	一九四、二六五	一〇・〇五
大 正 十 四 年	一七二、二五九	九・〇六	昭 和 五 年	一九九、二八一	九・八四

結婚率道別 道別に結婚率を見るに、最高は江原の人口千に付一一・八件、最低は慶南の五・七件にして、其の差六・一件なり、結婚率は概して平南、平北、江原、咸南等北鮮に高く、全北、慶北、慶南等南鮮に低し。

道 別	實 數	人口千ニ付	道 別	實 數	人口千ニ付
京 畿 道	一九、四五七	九・五	黃 海 道	一五、一八一	一〇・二
忠 清 北 道	一〇、七〇二	一二・二	平 安 南 道	一五、〇五六	一一・六
忠 清 南 道	一二、九九一	九・六	平 安 北 道	一六、七七〇	一一・二
全 羅 北 道	一〇、五六六	七・三	江 原 道	一六、六七六	一一・八
全 羅 南 道	二五、二四九	一一・三	咸 鏡 南 道	一六、八五四	一一・四
慶 尙 北 道	二一、一二二	九・〇	咸 鏡 北 道	六、九九〇	九・八
慶 尙 南 道	一一、六七七	五・七	總 計	一九九、二八一	九・八

結婚の年齢 昭和五年に於ける内地人及朝鮮人、結婚者の年齢を先づ夫に就きて見るに、内地人は(満二十五歳以上)最も多く、總數の四・四割を占め、之に次ぐは(満三十歳以上)の二・四割、(満二十歳以上)の一・九割にして、他は一割に足らず。朝鮮人は(満二十歳未満)のもの最も多く、總數の三・八割を占め、之に次ぐは(満二十五歳未満)の三・二割及(満三十歳未満)の一・七割にして、爾余は年齢の長するに従ひ、順次其の割合を減ず。

夫ノ年齢	内地人	朝鮮人
十 七 歳 未 滿	一	一三、〇五九
滿十七歳以上二十歳未滿	一一	六一、五三八
滿二十歳以上二十五歳未滿	三一九	六三、四四三
滿二十五歳以上三十歳未滿	七三七	三三、一五四
滿三十歳以上三十五歳未滿	四〇二	一五、二八五
	百分比例	百分比例
	〇・一	六・六
	一・三	三一・一
	一八・九	三二・一
	四三・八	一六・八
	二三・九	七・七

滿三十五歲以上四十歲未滿 一三五  
 滿四十歲以上五十歲未滿 五〇  
 滿五十歲以上六十歲未滿 一四  
 滿六十歲以上 四  
 總計 一、六八三

八・〇 六、二四五 三・二  
 三・〇 三、六三五 一・九  
 〇・八 九六七 〇・五  
 〇・二 二三七 〇・一  
 一〇〇・〇 一九七、五六三 一〇〇・〇

更に妻に就て見るに、内地人は(滿二十歲以上)が總數の五・二割を占めて最も多く、(未滿)の二・三割之に次ぎ、(滿二十五歲以上)は一・七割なり。朝鮮人は(二十歲)のもの總數の六割に達し、壓倒的多數を占め、(滿二十五歲以上)の三割、(滿二十五歲以上)の〇・七割之に次ぎ、之より年齢の長するに従ひ急激に減少す。

妻ノ年齢	内地人		朝鮮人	
	實數	百分比	實數	百分比
十五歲未滿	五	〇・三	一〇、六八三	五・四
滿十五歲以上二十歲未滿	三九〇	二三・二	一〇五、九八〇	五三・七
滿二十歲以上二十五歲未滿	八七〇	五一・七	五八、八八一	二九・八
滿二十五歲以上三十歲未滿	二九二	一七・三	一三、六五五	六・九
滿三十歲以上三十五歲未滿	八三	四・九	五、一二五	二・六
滿三十五歲以上四十歲未滿	二六	一・五	一、九八八	一・〇
滿四十歲以上五十歲未滿	一一	〇・七	九七九	〇・五
滿五十歲以上六十歲未滿	六	〇・四	二二四	〇・一
滿六十歲以上	一	〇・〇	四八	〇・〇

昭和五年の結婚者に就き、平均結婚年齢を見るに、内地人は夫二十九・三歳、妻二十三・一歳にして、内地に於ける平均結婚年齢(昭和四年)夫二十九・〇歳、妻二十四・二歳に略相當せり、朝鮮人は夫二十三・六歳、妻二十・三歳にして、内地人に比し著しく低し。

昭和五年の結婚者に就き男女年齢組合せを見るに、内地人に在りは、夫(満二十五歳以上、妻(満二十歳以上)の二・七割最も多く、夫(満三十歳以上、妻(満二十五歳以上)の一・二割、及び夫(満二十五歳以上、妻(満二十歳以上)の一・一割之に次ぐ、朝鮮人に在りては、夫(満十七歳以上、妻(満十五歳以上)の二・二割最も多く、夫(満二十歳以上、妻(満十五歳以上)の一・七割、及び夫妻共に(満二十歳以上、妻(満二十歳以上)の一・三割之に次ぎ、他は一割に達せず。

次に朝鮮人に就き、夫妻各年齢級の一方を標準として、相手方の年齢を見るに、各年齢ともに同等年齢級のものと、結婚するもの最も多き定型を有す。之を昭和四年内地婚姻統計に於て、(二十歳未満)及(二十歳以上、二十五歳未満)の各年齢階級の男は、同等の年齢階級の女と結婚するもの最も多きも、其の他に於ては各年齢階級ともに、男は一階級乃至三階級下の女と、結婚するもの最も多きを示すに比較して、著しき異現象にして、朝鮮人の夫妻の年齢は内地人の其れよりも接近せるを示す、是朝鮮人が内地人に比し、早婚の傾向多きに原因するものと認めらる。

昭和五年朝鮮人結婚者中、法定結婚年齢に達せざるものは、夫一萬三千五十九人即總數の六分六厘にして、妻一萬六百八十三人、即總數の五分四厘に當る。之を前年に比較するに、夫は四厘、妻は八厘、夫々減少せり、既往十箇箇年に遡つて見るに、多少の變動あるも、總數に對する割合の平均は夫七分一厘、妻六分二厘にして、

夫は各年とも妻より稍高率なり。

法定年齢に達せざる結婚者を道別に見るに、夫に於ては全南の一分(總數に對する割合)最も少く、平南の九分六厘最も多し、妻に於ては咸北の一分九厘最も少く、平南の九分四厘最も多し、大體に於て法定結婚年齢に達せざる夫の多き道は、妻も亦多けれども、咸北のみは夫は八分三厘の高率を示すにも拘らず、妻は一分九厘の低率を示す。今此法定結婚年齢に達せざる、結婚者を南鮮、中鮮、北鮮に分ちて見るに、南鮮に最も少く、中鮮之に次ぎ、北鮮に最も多し。

年次	夫		妻		年次	夫		妻	
	實數	總數千ニ付	實數	總數千ニ付		實數	總數千ニ付	實數	總數千ニ付
大正十年	一、七六六	六	一〇、四六九	七	昭和元年	一、七五三	六	一、二九七	七
大正十一年	一、四三三	六	一三、四〇二	九	昭和二年	一、三〇六	五	一、五九九	七
大正十二年	一、三七六	五	一、七四六	八	昭和三年	一、四、九一	七	一、三、四三	六
大正十三年	一、一七九	七	八、五三	五	昭和四年	一、三、四六七	七	一、〇一一	六
大正十四年	一、四四五	六	二、六四四	六	昭和五年	一、三、〇五九	六	一、〇、六三	五
南鮮地方									
夫		妻		夫		妻		總數千ニ付	
實數	五、一三七	實數	一、〇一一	實數	四七〇	實數	八六九	實數	四四、〇
總數千ニ付	五六・一	總數千ニ付	六七九	總數千ニ付	五七・一	總數千ニ付	七〇〇	總數千ニ付	六六・八
忠清北道		忠清南道		全羅北道		全羅南道		道	
實數	六、一〇	實數	一、〇一一	實數	五七・一	實數	八六九	實數	四四、〇
總數千ニ付	六一〇	總數千ニ付	六七九	總數千ニ付	五七・一	總數千ニ付	七〇〇	總數千ニ付	六六・八

離 婚

離婚總數 昭和五年中朝鮮に於ける、離婚は九千七十七件、一日平均二十四・九件、人口千に付〇・四五件に當り、前年に比較して實數に於て、〇・〇三件を増加せり。又離婚を結婚に對比するに、結婚千に付、離婚四五・五件にして、前年の同割合に比し〇・三四件を増加せり。

離婚率累年比較 離婚率を既往十箇年に就き見るに、著しき高低なきも、最高は大正十二年の人口千に付〇・五件にして、最低は昭和二年の〇・三七件にして、平均〇・四二件なり。

年次	實數	人口千に付	年次	實數	人口千に付
大正十年	七、二九一	〇・四二	昭和元年	七、一〇三	〇・三八
大正十一年	七、三八八	〇・四二	昭和二年	七、一一二	〇・三七
大正十二年	八、八八九	〇・五〇	昭和三年	八、三五二	〇・四四
大正十三年	七、一七三	〇・四〇	昭和四年	八、一八四	〇・四二
大正十四年	七、七〇八	〇・四一	昭和五年	九、〇七七	〇・四五

離婚率道別 離婚率を道別に見るに、最高は人口千に付、平南の〇・九五件、最低は威北の〇・一二件其の差〇・八三件なり。

道別	實數	人口千に付	道別	實數	人口千に付
京畿道	一、一〇一	〇・五四	黃海道	八三九	〇・五六
忠清北道	二六二	〇・三〇	平安南道	一、二三二	〇・九五
忠清南道	五一八	〇・三八	平安北道	六八三	〇・四六
全羅北道	三三三	〇・二二	江原道	四八四	〇・三四
全羅南道	一、三八三	〇・六二	咸鏡南道	五八二	〇・三九
慶尙北道	七〇六	〇・五〇	咸鏡北道	八九	〇・一二
慶尙南道	八六五	〇・四二	總計	九、〇七七	〇・四五

離婚の年齢 昭和五年中に於ける、離婚者の年齢を先づ夫に就て見るに、内地人は（満二十五歳以）の三・四割



最も多く、之に次ぐは、(満三十歳以上、二十五歳未満)の二・六割にして、更に(満三十歳以上、二十四歳未満)の一・六割及(満二十歳以上、二十五歳未満)の一・二割等なり。朝鮮人は(満二十五歳以上、二十歳未満)の二・九割最も多く、(満二十歳以上、二十五歳未満)の二・二割之に次ぎ、(満三十歳以上、二十五歳未満)の二・一割更に之に次ぐ。

更に妻に就て見るに、内地人は（満二十歳以上）の三・三割最も多く、之に次ぐは（満二十五歳以上）の二・八割、（満三十歳未満）の一・三割及（満十五歳以上）の一・二割なり、朝鮮人は（満二十歳以上）の三・一割最も多く、之に次ぐは（満二十五歳以上）の二・七割、（満三十歳以上）の一・六割及（満十五歳以上）一・五割なり。

### 三、配 偶 數

昭和五年末現在に於ける配偶數は、四百八十一萬四千三百三組、(内地人十萬九千五百七十六組、朝鮮人四百七十一萬九千四百九十五組、外國人五千三十二組)にして、前年より六萬九千八百六十五組を増加し、人口千に付四百七十六人が、有配偶者たるなり。

現住內地人結婚離婚年齡別表

(離婚數ハ太書トス)

昭和五年

[illegible]

[illegible]

道	結 婚			離 婚		
	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人
滿三十歲以上	六三	二〇九	四六	一三	一三	一〇
滿三十五歲以上	四一	六三	二〇	七	一三	一〇
滿四十歲以上	三	三	一	一	一	一
滿四十五歲以上	三	三	一	一	一	一
滿五十歲以上	三	三	一	一	一	一
滿六十歲以上	三	三	一	一	一	一
計	二〇九	六三	四六	一三	一三	一〇

現住内地人、朝鮮人、外國人結婚及離婚數表 (昭和五年)

道	結 婚			離 婚		
	内地人	朝鮮人	外國人	内地人	朝鮮人	外國人
京 畿 道	六六	一八七九六	一	八三	一〇一九	一
忠 清 北 道	二四	二〇六七六	一	二	二六〇	一
忠 清 南 道	六六	三三九五	一	四	五二四	一
全 羅 北 道	八八	二〇四七	一	四	三九	一
全 羅 南 道	八八	二五九六	一	七	一五六	一
慶 尙 北 道	八八	二二〇四	一	五	七〇二	一
慶 尙 南 道	二九	二二八	一	三	八三	一
黃 海 道	三七	一五二四	一	一	八六	一
計	二〇九	六三	四六	一三	一三	一〇

地 人	朝鮮 人	外 國 人	計
二六、七四八	四六〇、六三一	九八四	四八八、三六三
一、九六二	二二六、九二〇	九八	二三八、九八〇
五、四五〇	三三八、一〇三	一六四	三四三、七一七
七、三一九	三四一、一八〇	一八四	三四八、六八三
八、四八四	五〇七、四二七	一四〇	五一六、〇五一
九、五二六	五二三、一八七	一八〇	五三二、八九三
一一八、一四二	四一九、九四五	一四九	四三八、二三六
三、九四二	三五九、四四五	三八七	三六三、七七四
五、七八六	二九八、八三四	二五九	三〇四、八七九
五、三一〇	三五八、八〇九	一、四〇一	三六五、五二〇
二、六〇四	三六二、一〇七	一〇三	三六四、八一四
八、一三六	三三七、五二一	四四八	三四六、一〇五
六、一六七	一六五、三八六	五三五	一七二、〇八八
一〇九、五七六	四、七〇九、四九五	五、〇三二	四、八二四、一〇三

昭和五年

平安南道	一五	一四九四一	一五〇五六	三三	一二〇九	一	一二三三
平安北道	八四	一六六六三	一六七七〇	一〇	六六八	五	六八三
江原道	三四	一六六四二	一六六七六	三	四八一	一	四八四
咸鏡南道	三七	一六八二七	一六八五四	二	五八〇	一	五八二
咸鏡北道	七一	六九一五	六九九〇	一	八六	一	八九
總計	一六六三	一七五六一	一七五二八	一七八	八八九四	五	九〇七七

## 人口動態

昭和七年.

出生. 出産. 死産. 累年比較表  
(大正12年 ~ 昭和07年)

6.42	9.38
------	------

12.36	36.64
-------	-------

13.55	54.86
-------	-------

11.13	17.82
-------	-------

15.80	57.68
-------	-------

18.56	65.36
-------	-------

12.94	49.74
-------	-------

9.22	26.77
------	-------

10.09	38.18
-------	-------

8.34	15.17
------	-------

8.28	14.60
------	-------

8.69	18.43
------	-------

7.86	10.75
------	-------

11.53	12.86
-------	-------

11.95	14.06
-------	-------

11.08	11.56
-------	-------

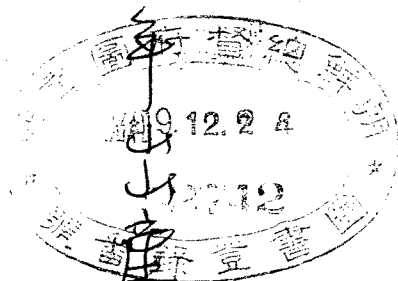
6.48	7.54
------	------

6.42	7.76
------	------

昭

和

七



昭  
和  
七

朝鮮總督府寄贈本

出生率年比較表

[illegible]



## 一、出生

出生數 朝鮮に於ける昭和七年の出生は六十一萬八千三百七十七人、此の中内地人は一萬三千七百五十二人、朝鮮人は六十萬四千二百七十五人、外國人は二百五十人、一日に平均千六百九十四人、出生率即ち人口千に對する割合は三〇・〇で、内地に於ける昭和五年の三二・四に比し二・四低い。之を前年に較べると、實數に於て九萬九千六百五人、割合に於て五・四を減少して居る。

既往十年間に於ける出生率を見ると、大正十二年より逐年減少し、昭和二年より増加の傾向に轉じたが、最近に至つて再び減少を續け本年は過去十年間の最低率を示して居る。

出生累年比較表

年次	出生數	人口千に付	
		朝鮮	内地
大正十二年	七一九、一六一	四〇・二	三四・九
同 十三年	六九〇、六二二	三八・二	三三・八
同 十四年	七二二、四九三	三八・〇	三四・九
昭和元年	六七六、一七六	三五・四	三四・八
同 二年	六九八、一八九	三六・五	三三・六
同 三年	七二一、五九四	三七・六	三四・四
同 四年	七三〇、一七九	三八・一	三三・〇
同 五年	七七二、二七〇	三八・一	三三・四

同	六	年	七	一七、八八二	三五・四	？
同	七	年	六	一八、二七七	三〇・〇	？

出生率を道別に見ると、最高は平北の三七・五、最低は全南の二四・五で、兩者の開きは二三・〇である。出生率の高いのは平北、慶南、京畿、咸北、黄海の諸道で、低いのは全南、慶北、忠南、全北、忠北等である。即ち出生率は大體に北鮮、中鮮にかけて高く、南鮮に於て低い。

各道の出生率を前年に較べると、増加したもの二道、減少したもの十一道で此の中變動の特に著しいのは平南及咸南である。

道別出生表 (昭和七年)

道別	出生数	昭和七年人口	同年人口	六年人口	前年に比し増減(△)
京畿道	六八、四六八	三二・二	三五・八	△	三・六
忠清北道	二五、二三六	二九・一	三五・一	△	六・〇
忠清南道	三八、一五四	二七・八	三五・五	△	七・七
全羅北道	四〇、七四八	二八・二	二五・六	△	二・六
全羅南道	五五、八二七	二四・五	三〇・八	△	六・三
慶尙北道	六二、一八九	二六・五	二九・六	△	三・一
慶尙南道	六八、七五〇	三二・七	三二・六	△	〇・一
黄海道	四六、九九三	三一・四	三五・二	△	三・八
平安南道	三九、六〇三	三〇・一	四四・〇	△	一三・九

平 安 北 道	五七、八五八	三七・五	四五・四	△	七・九
江 原 道	四四、五八四	三一・一	三八・七	△	七・六
咸 鏡 南 道	四六、五五五	三〇・三	四一・五	△	一一・二
咸 鏡 北 道	二三、三一二	三一・九	三八・八	△	六・九
計	六一八、二七七	三〇・〇	三五・四	△	五・四

生出兒の體性 昭和七年に於ける出生兒は男三十二萬九千七百八十二人、女二十八萬八千四百九十五人、女百に付男一一四・三で、前年に比し男の割合は一・九を増加して居る。尙既往十年間に於ける出生兒男女の割合を見ると年に依り多少の高低はあるが、男は常に一〇九以上の割合を示し、内地に於ける昭和五年の女百に付男一〇五・三に較べて男の割合が著しく多い。

累年出生兒體性表

年 次	男 出 生 数	女 出 生 数	朝 鮮 内 地	女 百 に 付 男
大 正 十 二 年	三七五、三一六	三四三、八四五	一〇九・二	一〇四・四
同 十 三 年	三六八、六〇九	三二二、〇一三	一一四・四	一〇四・二
同 十 四 年	三八一、九七七	三四〇、五一六	一一二・一	一〇三・五
昭 和 元 年	三六一、一二二	三一五、〇五四	一一四・六	一〇五・八
同 二 年	三七一、六七五	三二六、五一四	一一三・八	一〇三・七
同 三 年	三八三、三一五	三三八、二七九	一一三・三	一〇四・四
同 四 年	三八六、七〇〇	三四三、四七九	一二・六	一〇四・〇

出生の季節 昭和七年に於ける出生は十二月が最も多く、十一月、三月及十月が之に次いで多い。之に反し六月が最も少く一月及七月之に次いで少い。出生は大體に冬季に多く、夏季に於て少い。

出生月別表

月別	出生数	一年平均一箇月出生百に付	月別	出生数	一年平均一箇月出生百に付
一月	四五、一四五	八七・六	七月	四五、七〇八	八八・七
二月	五二、一八一	一〇一・三	八月	五〇、四六一	九七・九
三月	五六、六五〇	一一〇・〇	九月	五二、二二七	一〇一・四
四月	五一、九四六	一〇〇・八	十月	五五、三八八	一〇七・五
五月	四六、六四一	九〇・五	十一月	五八、七二九	一一四・〇
六月	四二、〇五六	八一・六	十二月	六一、一四五	一一八・七

## 二、死産

死産數 朝鮮に於ける昭和七年の死産は四千六百三十七人で、死産率即ち人口千に對する割合は〇・二三である。之を前年に較べると實數に於て三百九人、割合に於て〇・〇二を増加して居る。

死産率を既往十年間に遡つて見ると、大正十三年より逐年減少したが、昭和五年より再び増加を續け、本年は大正十三年と同様の高率を示して居る。

死産累年比較表

年次	死産数	人口千に付
大正十二年	三、八七〇	〇・二二
同十三年	四、二二九	〇・二三
同十四年	三、四五〇	〇・一八
昭和元年	三、八二六	〇・二〇
同二年	三、六六四	〇・一九
同三年	三、六二〇	〇・一九
同四年	三、五九七	〇・一九
同五年	四、四三〇	〇・二二
同六年	四、三二八	〇・二一
同七年	四、六三七	〇・二三

死産率を道別に見ると、最高は京畿、平南の〇・四九、最低は忠北、全南の〇・〇七で兩者の開きは〇・四二である、即ち京畿、平南は忠北、全南の七倍に當つて居る。死産率は概して京畿、平南、平北、咸北等の北鮮に高く、忠北、全南、忠南、全北、慶北等の南鮮に低い。

道別死産率表 (昭和七年)

道別	死産数	昭和七年	同六年	前年に比し増減(△)
京畿	一、〇三六	〇・四九	〇・四七	〇・〇二

死産児の體性 昭和七年に於ける死産児は男二千五百五十七人、女二千八十人で女百に付男は一二二・九である。之を出生児の場合に較べると、男超過の度が甚しい。尙既往十年間に就いて見ても全く同様の現象を呈して居る。

累年死産児體性表

年次  
大正十二年

死産	數	女百に付男
男	二、一三四	一二三・九
女	一、七三六	一〇九・二

死産	數	女百に付男
忠清北道	五八	〇・〇七
忠清南道	一三四	〇・〇九
全羅北道	一四〇	〇・一〇
全羅南道	一五九	〇・〇七
慶尙北道	三三一	〇・一四
慶尙南道	四九七	〇・二四
黄海南道	二三九	〇・一六
平安南道	六四八	〇・四九
平安北道	六四五	〇・四二
江原道	二八一	〇・二〇
咸鏡南道	二九七	〇・一九
咸鏡北道	一八二	〇・二五
計	四、六三七	〇・二三

同	同	同	同	同	同	昭	同	同
七	六	五	四	三	二	和	十	十
年	年	年	年	年	年	元	四	三

二、三二四	一、九三五	二、一四二	二、〇五七	一、九九七	一、九九七	二、四八五	二、四六三	二、五五七
一、九〇五	一、五一五	一、六八四	一、六〇七	一、六二三	一、六〇〇	一、九四五	一、八六五	二、〇八〇

一二三・〇	一二七・七	一二七・二	一二八・〇	一二三・〇	一二四・八	一二七・八	一二三・一	一二二・九
一一四・四	一一二・一	一一四・六	一一三・八	一一三・三	一一二・六	一一二・一	一一二・四	一一四・三

死産の季節 昭和七年に於ける死産 三月が最も多く、八月、十二月、七月及一月等之に次いで多い。最も少いのは六月で、十一月、五月及七月等亦少い月である。

月 別 死 産 表 (昭和七年)

月 別	死 産 数	一年平均一箇月死産百に付	月 別	死 産 数	一年平均一箇月死産百に付
一 月	三九八	一〇三・一	七 月	四〇二	一〇四・〇
二 月	三八四	九九・四	八 月	四一三	一〇六・九
三 月	四三九	一一三・六	九 月	三七七	九七・六
四 月	三七九	九八・一	十 月	三八九	一〇〇・七
五 月	三七八	九七・八	十一 月	三五一	九〇・八
六 月	三二〇	八二・八	十二 月	四〇七	一〇五・三

# 内地人と朝鮮人との婚姻

朝鮮に於ける昭和七年末の内地人と朝鮮人との婚姻数は九五四組で、此の中五五組は本年中に婚姻したものである。之を種類別に見ると、内地人で朝鮮婦人を妻とするものが五三三組、朝鮮人で内地婦人を妻とするものが三六四組、朝鮮人で内地人の家に入婿したものが四八組、内地人で朝鮮人の家に入婿したものが九組である。内地人と朝鮮人との婚姻数は逐年増加の傾向を辿つて居る。今既往十年間に就いて見ると、大正十二年末の二四五組は昭和二年末には二倍となり、五年末には三倍に上り、本年末は更に四倍に迄増加して居る。

累年比較表

年次	總數	内地人で朝鮮婦人を妻とするもの	朝鮮人で内地婦人を妻とするもの	朝鮮人で内地人の家に入婿したもの	内地人で朝鮮人の家に入婿したもの
大正十二年末	二四五	一〇二	一三一	一一	一
同十三年末	三六〇	一二五	二〇三	二三	九
同十四年末	四〇四	一八七	一九七	一九	一
昭和元年末	四五九	二二二	二一九	一八	二
同二年末	四九九	二四五	二三八	一四	二
同三年末	五二七	二六六	二三八	二一	二
同四年末	六一五	三一〇	二七七	二七	一
同五年末	七八六	三八五	三五〇	四六	五



人口動態

昭和八年.

出生、出生、死産、死産数

(大正13年～昭和8年)

1.09	15.61
2.36	13.16
8.31	11.69
8.42	13.70
8.20	9.63
9.60	31.29
9.45	40.74
9.74	22.10
16.67	62.51
18.06	67.88
15.25	57.02
17.38	58.79
17.20	60.86
16.96	56.71
11.11	39.77
11.70	46.46
10.48	32.71
11.80	46.27

# 昭和八年の出産

朝鮮總督府寄贈

朝鮮に於ける昭和八年の出産、即ち出生と死産との合計は六〇八、三五九人、中出生は六〇三、四〇七人、死産は四、九五二人で、出産百に付出生は九九・二、死産は〇・八である。

出生と死産との割合を既往十年間に就いて見ると、甚だ微少であるが漸次出生は減少し、死産は増加の傾向を辿つてゐる。

年次	出 産 数			出 産 百 に 付		
	出 生	死 産	計	出 生	死 産	計
大正十三年	六〇、六三三	四、三二九	六九、四八二	九九三	〇七	一〇〇
同十四年	七三、四九三	三、四九〇	七六、九四三	九九五	〇五	一〇〇
昭和元年	六七、一七六	三、八二六	七一、〇〇二	九九四	〇六	一〇〇
同二年	六九、一八九	三、六六四	七二、八五三	九九五	〇五	一〇〇
同三年	七二、五九四	三、六六〇	七六、二五四	九九五	〇五	一〇〇
同四年	七〇、一七九	三、五九七	七三、七六六	九九五	〇五	一〇〇
同五年	七三、一七〇	四、四三〇	七七、六〇〇	九九四	〇六	一〇〇

同	六	年	七七八八二	四三三八	七三、三〇	九九四	〇六
同	七	年	六八三三七	四六三七	六三、九二四	九九三	〇七
同	八	年	六〇三、四〇七	四九五二	六〇、八三九	九九二	〇八

一、出生

出生數 朝鮮に於ける昭和八年の出生は六〇三、四〇七人、中内地人は一三、〇九一人、朝鮮人は五九〇、〇三五人、外國人は二八一人、一日に平均一、六五三人で、出生率は人口千人に付二九・〇二である。

之を前年に比較すると實數に於て一四、八七〇人、割合に於て〇・九九の減少で、尙内地に於ける昭和七年の三二・九二に對比すると、朝鮮は二・九〇低い。出生率を既往十年間に就いて見ると、大正十三年より昭和元年迄は逐年減少し、昭和二年より増加の傾向に轉じたが、昭和六年より再び漸減を続け本年の如きは過去十年間の最低率を示してゐる。

年次	出生數			實數		人口千人に付	
	内地人	朝鮮人	外國人	計	朝鮮	内地	
大正十三年	九,七五五	六八〇,六二八	三九	六九〇,六三二	三六三	三三,七九	
同十四年	一〇,一八九	七二二,七六	二六	七三三,四九三	三七九	三四,九三	
昭和元年	一〇,五二	六六五,六〇四	五一	六七六,一七六	三五三	三四,七七	
同二年	一〇,九六〇	六六七,一四三	九七	六九八,一八九	三六四	三三,六一	
同三年	一〇,八七七	七二〇,五九八	一三九	七二一,五九四	三七六〇	三四,二六	

同	四	年	一〇八五五	七九二五	一八九	七三〇・一七九	三七七七	三三〇〇
同	五	年	一一四三三	七〇六〇二	二二六	七三二・二七〇	三八二二	三二六六
同	六	年	一一八二五	七〇五九六	一五一	七七・八八二	三五四三	三二七七
同	七	年	一三七九二	六〇四二七五	二五〇	六八二・七七	三〇〇一	三二九二
同	八	年	一三〇九一	五九〇・〇五	二八一	六〇三・四〇七	二九〇二	?

出生率を道別に見ると、最高は平安北道の人口千人に付三五・五四、最低は全羅南道の二三・四七で、其の差は一二・〇七である。出生率の高いのは平安北道、黄海道、江原道、京畿道、平安南道等の中鮮及北鮮で、何れも三一・〇〇以上を示し、之に反して低いのは全羅南道を首位に、慶尙北道、全羅北道等の南鮮で二七・〇〇にすら達しない。

各道の出生率を前年に比較すると黄海道、平安南道、江原道、咸鏡南道等の増加したのを除き他の九道は悉く減少を示してゐるが、特に其の顯著なるものは慶尙北道の二・四八、慶尙南道の二・四四、全羅北道の二・一〇等の減少である。

道	別	出生實數	昭和八年	同七年	前年に比し増(△)減(○)	
京	畿	道	六八、二四二	三三、四三	△ 〇・八一	
忠	清	北	道	二二、九五七	二九、二三	△ 一・七六
忠	清	南	道	二七、九八〇	二七、七五	△ 〇・四六

全	羅	北	道	二七、八五八	二六、〇九	二六、一九	二、一〇
全	羅	南	道	五、五九七	二、四四七	二、四四六	〇、九九
慶	尙	北	道	五、六五九	二、四〇一	二、四四九	二、四八
慶	尙	南	道	六、四二五	三、〇二六	三、二七〇	二、四四
黃	海	道		四、八五六	三、二九六	三、三四二	〇、五三
平	安	南	道	四、一四九	三、二二一	三、〇二三	一、〇九
平	安	北	道	五、五二六	三、五五四	三、七五一	一、九七
江	原	道		四、五四二	三、二四九	三、二〇九	〇、四〇
咸	鏡	南	道	四、七〇五	三、〇五二	三、〇二五	〇、二七
咸	鏡	北	道	二、三八四	三、〇七四	三、一九〇	一、二六
計				六、三、四七七	二九、〇二	三〇、〇二	〇、九九

出生兒の體性 昭和八年に於ける出生兒六〇三、四〇七人の中、男は三二二、〇七九人、女は二八一、三二八人で女百に付男は一一四・五である。之を前年に比較すると〇・二の増加で内地に於ける昭和七年の一一五・〇に對比すると、朝鮮は男超過の割合が著しく高い。尙出生兒男女の割合を既往十年間に就いて見ると、年に依り多少の高低はあるが男は常に一一〇・〇以上の割合を示してゐる。

年	出生兒の體性		女百に付男	
	次	出生實數	朝鮮	内地
大正十三年	男	三六、八六〇	一一、四四	一〇、五二
	女	三三、〇二三		

出生の月別

[illegible]

七	八	九	十	十	十
月	月	月	月	月	月
西九、四三八	五四、一四六	五五、一六〇	五五、一五二	五二、五三一	五八、二七九
九八、三二二	一〇七、六八	一〇九、七〇	一〇九、六八	一〇四、四五	一一五、九〇

## 二、死 産

死産數 朝鮮に於ける昭和八年の死産は四、九五二人、中内地人は九〇六人、朝鮮人は四、〇三一人、外國人は一五人で、死産率は人口千人に付〇・二四である。之を前年に比較すると、實數に於て三一五人、割合に於て〇・〇一の増加で、尙内地に於ける昭和七年の死産率一、八〇に對比すると、朝鮮は著しく低く其の二割にすら達しない。

死産率を既往十年間に就いて見ると、年に依り多少の高低はあるが大體に於て逐年増加の傾向を顯つてゐる。

年 次	内地人	朝鮮人	外國人	計	朝鮮	内地
大正十三年	七五二	三、四七三	五	四、二二五	〇・二二	二・二三
同 十四年	六五一	二、七六六	三	三、四二〇	〇・一八	二・〇八
昭和元年	六二六	三、一九六	一二	三、八三六	〇・二〇	二・〇五



同	二	年	六六三	二九三	八	三六四	〇・一九	一九一
同	三	年	六六七	三九五	一八	三六〇	〇・一九	一九三
同	四	年	六六六	三六五	二六	三五九	〇・一九	一八六
同	五	年	六六〇	三六二〇	二〇	四四三	〇・二三	一八三
同	六	年	八一九	三六九五	二四	四三六	〇・二二	一七八
同	七	年	八八四	三七六	五	四六七	〇・二三	一八〇
同	八	年	九〇六	四〇二	一五	四九五	〇・二四	。

死産率を道別に見ると、平安北道の人口千人に付〇・五九を最高とし、平安南道の〇・五四、京畿道の〇・五二等之に次いで高い。最も低いのは忠清北道、全羅南道の〇・〇七で、忠清南道、慶尙北道の〇・〇八、全羅北道の〇・一三、黄海道道の〇・一六、江原道の〇・一八等は比較的低い方である、即ち死産率は北鮮に高く中鮮及南鮮に於て低い。

各道の死産率を前年に比較すると、増加したもの六道、減少したもの四道で、其の中變動の主なるものは平安北道の〇・一七の増加である。

道 別		死 産 實 數	昭 和 八 年			同 七 年			前 年 に 比 し 増 ( △ 減 )	
道	別		人 口	千	人	に	付			
京 畿 道		一、一三一	〇・五二		〇・四九			〇・〇三		
忠 清 北 道		六二	〇・〇七		〇・〇七					

全	全	全	慶	慶	黄	平	平	江	成	成	計
通	北	南	北	南	海	北	南	原	北	南	計
道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
一、九六〇	一、六〇〇	一、八〇〇	四、四七〇	二、四七〇	七、二七〇	九、二五〇	三、五七〇	三、二〇〇	二、〇四〇	二、〇四〇	四、九五〇
〇・一六	〇・〇七	〇・〇八	〇・二二	〇・一六	〇・五四	〇・五九	〇・一六	〇・二二	〇・二七	〇・二四	〇・二四
〇・〇九	〇・二〇	〇・〇七	〇・二四	〇・一六	〇・四九	〇・四二	〇・二〇	〇・一九	〇・二五	〇・二五	〇・二五
〇・〇三	〇・〇六	〇・〇六	〇・〇三	〇・〇三	〇・〇五	〇・二七	〇・〇二	〇・〇二	〇・〇二	〇・〇二	〇・〇二

死産兒の體性 昭和八年に於ける死産兒四、九五二人の中、男は二、八二二人、女は二、一五〇人で、女百に付男は二、八二・二に該り、内地に於ける昭和七年の二、一九・八に比し一〇・五高い。尙之を出生の女百に付男一一四・五に比較すると、男超過の割合が遙かに高く、既往十年間に就いて見るも亦同様の現象を呈してゐる。

大正十三年	男	死産實數	女	死産實數	女百に付男	出生
二、二二四	一、九〇五	二、二二〇	二、一四四			

死産の季節 昭和八年に於ける死産は十二月に最も多く、十月、六月等之に次いで多い。最も少いのは四月及十一月で、二月、五月等は比較的少い方である。

[illegible]

慶	慶	全	全	忠	忠	京	・	十	十	十	九	八	七	六
尙	尙	糴	糴	清	清									
南	北	南	北	南	北	畿		二	一					
道	道	道	道	道	道	道	内地	月	月	月	月	月	月	月
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	人							
							出生							
							月							
二六三	四四三	四三三	四三三	七九	七九	二六三	一月	四六二	四七一	四五一	四〇六	四〇九	四四四	四四四
二六三	四四三	四三三	四三三	七九	七九	二六三	二月							
二六三	四四三	四三三	四三三	七九	七九	二六三	三月							
二六三	四四三	四三三	四三三	七九	七九	二六三	四月							
二六三	四四三	四三三	四三三	七九	七九	二六三	五月	一一二・〇	八九・九	一〇九・五	九八・四	一〇二・〇	九九・一	一〇七・六
二六三	四四三	四三三	四三三	七九	七九	二六三	六月							
二六三	四四三	四三三	四三三	七九	七九	二六三	七月							
二六三	四四三	四三三	四三三	七九	七九	二六三								

全 羅 北 道	忠 清 南 道	忠 清 北 道	京 畿 道	同	上 (其の二)	總 計	咸 鏡 北 道	咸 鏡 南 道	江 原 道	平 安 北 道	平 安 南 道	黃 海 道
女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
四〇	三三	二〇	二九	八月	一、四〇	一、四〇	三六	三九	三三	七七	八八	三三
三九	三三	六二	二八	九月	一、三〇	一、三〇	四〇	四二	六七	八三	三三	四三
三九	三三	九九	二八	十月	一、三〇	一、三〇	四七	四三	一〇	二八	三四	九〇
六三	六六	一一	二二	十一月	一、七〇	一、七〇	四八	六六	三八	六二	九三	七三
六三	七三	六五	一〇	十二月	九、三〇	九、三〇	四九	八四	一一	一〇	四一	一三
三六〇	三六〇	九八	一、七三	合計	九、三〇	九、三〇	四〇	四三	一三	三三	七〇	二二
七三	五八	一七	三、三〇		一、三〇	一、三〇	四〇	四八	一八	二一	四四	一七



總	咸	咸	江	平	平	黃	慶	慶	全	全	忠
計	鏡	鏡	原	安	安	海	尙	尙	羅	羅	溝
道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
計女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
三八、一二一	七三三 六八七	一、七五六 一、四三三	一、七八〇 一、五五八	一、〇九二 一、八三九	一、一六六 九六八	一、八九七 一、八三三	二、〇三八 一、三五四	一、七六六 一、三三三	一、四四六 一、二六六	一、七三三 一、五一八	一、一四〇 九八八
三八、一二一	八五八	一、六九七 一、五五九	一、九八〇 一、六七六	一、三三六 一、三三七	一、五八四 一、三三三	一、八八九 一、三三三	二、六八四 一、四六〇	一、七三九 一、〇七五	一、八五八 一、六二〇	一、六七八 一、四八七	一、四四三 一、四〇九
三八、一二一	九四三 九二七	一、九一五 一、六二二	一、三〇四 一、九四〇	二、七八〇 二、四四九	一、八四六 一、六四六	二、〇三一 一、〇三一	二、六三三 二、三六三	一、九〇八 一、三三三	一、六七五 一、六七五	一、六四七 一、四六七	一、六一九 一、四一四
三八、一二一	八二八	一、七三〇 一、〇五六	一、九六七 一、六四三	二、四三三 二、二二二	一、八八九 一、五七五	一、七六二 一、七六二	二、四三三 一、六六七	一、八二〇 一、八二〇	一、六二六 一、六二六	一、六二一 一、二九八	一、四四三 一、二七三
三八、一二一	九四三 八四〇	一、七六一 一、六二〇	一、九六五 一、六四六	二、四四九 二、〇九五	一、八八六 一、五八八	一、七九二 一、七九二	二、八八六 一、四七三	一、八〇〇 一、八〇〇	一、七九二 一、七九二	一、六四九 一、三七六	一、六二四 一、三八七
三八、一二一	八四〇	一、八〇五 一、六二〇	一、八三六 一、六一九	二、〇〇九 二、〇〇九	一、九七五 一、八八六	一、八三三 一、七三三	二、六三八 一、五〇〇	二、三三三 二、〇〇〇	二、〇七三 二、〇七三	一、三七一 一、三七一	一、五五五 一、三三三
三八、一二一	八八〇	一、九二一 一、六二〇	一、七六六 一、五〇九	二、八八六 二、〇〇九	一、七七五 一、七七五	一、八四四 一、六四四	二、七二四 二、七二四	二、三三三 二、三三三	二、〇三三 二、〇三三	一、六六七 一、六六七	一、七五五 一、五〇九

# 昭和八年の死亡

**死亡数** 朝鮮に於ける昭和八年の死亡は四〇一、三三二人中内地人は八、三五九人、朝鮮人は三九二、六六八人、外國人は二九五入、一日に平均一、一〇〇人で、死亡率は人口千人に付一九・三〇である。之を前年に比較すると、實數に於て五六、一九六人、割合に於て二・九一の減少である。尙内地に於ける昭和七年の死亡率一七・七三に對比すると、朝鮮は一・五七高い。死亡率を既往十年間に就いて見ると、最高は昭和四年の人口千人に付二三・八九、最低は昭和五年の一八・八五で平均二一・一〇である。

年次	死亡数			人口千人に付	
	内地人	朝鮮人	外國人	計	内地
大正十三年	八、六六	三九、七九	三〇	三七、五六	三・三
同十四年	七、六五	三九、六三	三〇	三九、四九	三・七
昭和元年	七、一四	三〇、六六	三八	三七、七四	一九・八
同二年	七、八二	四三、八四	二五	四二、〇五	一九・八
同三年	八、二六	四四、六四	四七	四三、三七	一九・九
同四年	八、三二	四三、八五	五五	四三、七二	三〇・四
同五年	七、六二	三七、七三	四四	三八、八七	一八・七
同六年	八、四六	四一、四八	四四	四二、三八	一八・九



昭和七年	八七三	四八、五三	三三三	一七・七五
同 八 年	八三九	三三、六六	三三三	一七・七五

死亡率を道別に見ると、最高は平安北道の人口千人に付二六・九二で、咸鏡北道の二三・一〇、江原道の二二・八一、咸鏡南道の二二・六二、平安南道の二二・四七等、之に次いで高い。最も低いのは全羅南道の 一三・五八で、全羅北道の 一三・七五、忠清南道の 一五・四四、慶尙北道の 一七・五四、慶尙南道の 一七・九九等は比較的低い方である。即ち死亡率は北鮮に高く、南鮮に於て低い。各道の死亡率を前年に比較すると、咸鏡南道の僅かに増加したのを除き他の十二道は悉く減少を示してゐるが、其中變動の主なるものは平安南道の 一・三三の減少である。

### 道 別 死 亡

道 別	死亡 實 数	昭和八年	同 七 年	前年に比し増(△減○)
京 畿 道	四四、二〇三	二〇・三六	二二・四九	△ 二・一三
忠 清 北 道	一五、八六二	一八・一二	二二・〇五	△ 三・九三
忠 清 南 道	二一、四八八	一五・四四	二〇・一四	△ 四・七〇
全 羅 北 道	一九、九五四	一三・七五	一七・〇三	△ 三・二八
全 羅 南 道	三一、〇一五	一三・五八	一四・八八	△ 一・三〇
慶 尙 北 道	四一、一七四	一七・五四	二一・〇二	△ 三・四八
慶 尙 南 道	三八、二〇七	一七・九九	一九・三一	△ 一・三二

黄	海	道	三二、三四二	二一・三〇	二一・九一	△	〇・六一
平	安	南	道	三〇、一九九	二二・四七	△	一一・三三
平	安	北	道	四一、八七九	二六・九二	△	五・四五
江	原	道	三二、九二九	二二・八一	二五・二〇	△	二・三九
咸	鏡	南	道	三四、九〇〇	二二・六二	二一・七九	〇・八三
咸	鏡	北	道	一七、一七〇	二三・一〇	二四・一六	一・〇六
總	計		四〇一、三三二	一九・三〇	二二・二一	△	二・九一

## 死亡者の體性

昭和八年に於ける死亡者四〇一、三三二人を男女別に見ると、男は二二五、〇九〇人、女は一八六、二二二人で、女百に付男は一一五・五である。之を前年に比較すると一・四の増加で、尙内地に於ける昭和七年の一〇六・九に對比すると、朝鮮は男超過の割合が著しく高い。而して男女の死亡率は各性人口千人に付、男は二〇・三、女は一八・二で男に於て稍高い。

## 男 女 別 死 亡

年 次	死亡實數		各性人口千人に付		女 百 に 付 男	
	男	女	男	女	朝鮮	内地
大正十三年	三〇五、六六四	一八、七三三	三・五	三〇・七	一一・七	一〇・五
同 十四年	三〇九、六八五	一八、八八二	三・五	一九・七	一一・六	一〇・五
昭和元年	三〇六、〇九〇	一八、六五五	二・七	一九・五	一一・五	一〇・〇
同 二年	二八、七三三	一八、二九〇	三・三	三〇・六	一一・七	一〇・八
同 三年	三三〇、三一九	二〇四、一五八	三・五	三二・七	一一・三	一〇・〇

昭和八年に於ける死亡は三月に最も多く、二月、一月及四月等之に次いで多い。最も少いのは十二

月で、十月、十二月及九月等は比較的少い方である。即ち死亡は春夏の候に多く、秋冬に於て少い。

昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年
三六、〇八	三九、一五	四二、七三	四五、〇〇	四八、二五
一九、九二	一九、七一	一九、一六	二三、四六	二六、三三
一九、八	一九、九	一九、三	二三、七	二六、三
一九、八	一九、五	一九、七	二三、一	二六、五
一九、九	一九、七	一九、九	二五、一	二八、〇

昭和八年に於ける死亡は三月に最も多く、二月、一月及四月等之に次いで多い。最も少いの十月で、十月、十二月及九月等は比較的少ない方である。即ち死亡は春夏の候に多く、秋冬に於て少い。

別	死亡数	一年平均 一月死亡百に付
一月	三六、三六〇	一〇八・七
二月	三九、〇八二	一一六・九
三月	四六、三四一	一三八・六
四月	三五、六九六	一〇六・七
五月	三四、二二八	一〇二・三
六月	三四、三〇八	一〇二・六
七月	三五、〇八三	一〇四・九
八月	三三、五一五	一〇〇・二
九月	二九、〇五五	八六・九
十月	二五、四九五	七六・二

十	一	月	二四、九六五	七四・七
十	二	月	二七、一九四	八一・三

**死亡者の年齢** 昭和八年に於ける死亡者を年齢別に見ると、五歳未満の小児は死亡者全體の三割八分五厘（〇歳の者は一割二分六厘）を占めて最も多く、五——九歳は急激に減少して六分二厘、一〇——一四歳は更に低下して三分一厘となり、一五——一九歳は各年齢級を通じて最も少く三分を示してゐる、二〇——二四歳は稍増加して三分七厘となるも二五歳より三九歳迄の各年齢級には著しい高低なく何れも四分に達せず、四〇歳を越ゆるに至つて再び四分以上に増加し、八〇歳以上になると此の年齢級に屬する人口其のものが少いため當然に減少してゐる。

死亡者の年齢

年 齡 別	死 亡 實 数	千 分 比 例
〇 歳	一五四、四〇七	三八四・七
一 歳	五〇、五四二	一二五・九
再 二 歳	四七、三六一	一一八・〇
三 歳	五六、五〇四	一四〇・八
四 歳	二四、九八二	六二・三
五 歳	一一、二五二	三〇・五
六 歳	一一、一〇二	三〇・二
七 歳	一四、九五七	三七・三

二五——二九歳	一三、六五六	三四・〇
三〇——三四歳	一四、三六〇	三五・八
三五——三九歳	一三、三九九	三三・四
四〇——四九歳	二三、七七四	五九・二
五〇——五九歳	二六、六九三	六六・五
六〇——六九歳	三七、九七〇	九四・六
七〇——七九歳	三六、五四九	九一・一
八〇歳以上	一五、〇三九	三七・五
年 齢 不 詳	一、一八二	二・九
總 計	四〇一、三三二	一、〇〇〇・〇

更に昭和八年に於ける男女の死亡者を年齢別に見ると、女に對する男の割合は五歳未満及五〇——五九歳を山とし、一五——一九歳及八〇歳以上を谷とする波狀を形成してゐる。即ち五歳未満に於ては女百に付男は一一・八・四で、其れより年齢の長するに従ひ、男の割合は遞減し、一五——一九歳に於ては男は女より遙かに少く、九四・九を示すに過ぎない、而して二〇歳以上は男の割合漸次増加し、五〇——五九歳は一四四・五の高率に達してゐるが、六〇歳以上は再び低下し、八〇歳以上になると八八・七に減少してゐる。

死亡者の男女別年齢

年 齢 別	死 亡 数	女 百 に 付 男
〇——四 歳	八三、七一五	七〇、六九二
		一一八・四



次之に次ぎ、循環器病、全身病、泌尿生殖器病等は二分以上を示し、眼及其の附屬器病、耳病、齒牙病等は  
何れも僅少で一厘餘に過ぎない。

### 死 亡 の 原 因

死 因 別	死 亡 實 數	千 分 比 例
全 身 病	一一、一〇五	二七・七
精 神 病	七、一三八	一七・八
神 經 系 病	七六、六八六	一九一・一
循 環 器 病	一九、一二〇	四七・六
眼及其の附屬器病	五四三	一・四
耳 病	五〇五	一・三
鼻 咽 喉 病	五、四三二	一三・五
呼 吸 器 病	五八、五〇五	一四五・八
消 化 器 病	七九、一七七	一九七・三
齒 牙 病	四八八	一・二
運 動 器 病	四、五六五	一一・四
皮膚及其の附屬器病	六、二〇八	一五・五
泌 尿 生 殖 器 病	一〇、一七二	二五・三
外 傷	三、六八	七・六
溺 死 及 絞 死	四、一七六	一〇・四

畸形及幼年	老衰	妊娠及產	中毒	新生物	寄生蟲病	腳氣	感冒	傳染性病	不明診斷及不詳の原因	總計
三、〇九四	二六、二九一	三、二三九	三、四九五	七九一	四、一八三	一、一九一	三四、一六五	三一、五四三	六、四八二	四〇一、三二二
七・七	六五・五	八・一	八・六	二・〇	一〇・四	三・〇	八五・一	七八・六	一六・一	一、〇〇〇・〇

一、道別表

道別	内地人	朝鮮人	外國人	總計
京畿道	男 一、一三三 女 一、〇五九	男 三三、三三〇 女 一九、六八八	男 五〇 女 一五	男 三三、四九一 女 二〇、七七一
忠清北道	男 六 女 三	男 八、三六八 女 七、三三三	男 一 女 一	男 八、四四八 女 七、四四四
忠清南道	男 一五 女 一八二	男 二、四六六 女 九、六二三	男 二 女 一	男 二、四九五 女 九、七九三
全羅北道	男 二〇 女 二〇八	男 一〇、三二二 女 八、六三三	男 二 女 一	男 一二、〇九三 女 八、八六七
全羅南道	男 三〇 女 二七四	男 一六、三三〇 女 一三、八六七	男 四 女 一	男 一六、三三四 女 一四、一六二
總計				男 四〇一、三二二 女 一、〇〇〇・〇



二月別表

月別	内地人	朝鮮人	外國人	總計
	男	女	男	女
一 月	1,000	1,000	1	1
二 月	1,000	1,000	1	1
三 月	1,000	1,000	1	1
四 月	1,000	1,000	1	1
五 月	1,000	1,000	1	1
六 月	1,000	1,000	1	1
七 月	1,000	1,000	1	1
合 計	7,000	7,000	7	7

三、年齡別表

四、死 因 別 表

種 別	內 地 人				朝 鮮 人				外 國 人				總 計			
	男		女		男		女		男		女		男		女	
	全 身 病	精 神 病	神 經 系 病	循 環 器 病	眼 及 其 附 屬 器 病	耳 病	鼻 咽 喉 病	呼 吸 器 病	消 化 器 病	全 身 病	精 神 病	神 經 系 病	循 環 器 病	眼 及 其 附 屬 器 病	耳 病	鼻 咽 喉 病
四十 年 以 上	四九	二二	一三、二〇〇	九七六	三	一〇	一三、七二四	一〇、〇九四	三三、七二七	四九	二二	一三、二〇〇	九七六	三	一〇	一三、七二四
五十 年 以 上	五〇六	一五、四四〇	一〇、六九七	三	二	二	一五、七七二	一〇、二九六	三六、六八三	五〇六	一五、四四〇	一〇、六九七	三	二	二	一五、七七二
六十 年 以 上	五〇	一〇、四〇一	一六、八五五	一七、六五九	四	一	一八、六六六	一七、六六六	一八、六六六	五〇	一〇、四〇一	一六、八五五	一七、六五九	四	一	一八、六六六
七十 年 以 上	三二	一八、四七二	一七、六五九	一八、六六六	一	一	一八、六六六	一七、六六六	一八、六六六	三二	一八、四七二	一七、六五九	一八、六六六	一	一	一八、六六六
八十 年 以 上	四	七、〇三二	七、八四四	七、八四四	一	一	七、〇三二	七、〇三二	七、〇三二	四	七、〇三二	七、八四四	七、八四四	一	一	七、〇三二
年 齡 不 詳	八	三	六六七	四八三	一	一	六六七	四八三	一	一	六六七	四八三	一	一	六六七	四八三
合 計	四、四四〇	三、五九二	一三、四四二	一八、一三六	一〇、六	一〇、六	三三、〇九〇	一八、六六六	四〇、一三三	四、四四〇	三、五九二	一三、四四二	一八、一三六	一〇、六	一〇、六	三三、〇九〇

齒牙病	運動器病	皮膚及其の附屬器病	泌尿生殖器病	外傷	溺死及縊死	畸形及幼年	老衰	妊娠及產	中藥	新生生物	寄生蟲病	脚氣	感冒	傳染性病	及不明の原	合計
1	5	26	23	8	33	27	107	1	6	7	4	6	4	26	6	210
1	5	26	23	8	33	27	107	1	6	7	4	6	4	26	6	210
358	210	1,244	2,751	4,976	1,031	1,590	1,344	3,184	1,218	281	2,093	769	1,811	1,607	2,836	10,828
1	3	1	5	3	4	1	3	1	10	1	1	1	3	4	2	28
358	210	1,244	2,751	4,976	1,031	1,590	1,344	3,184	1,218	281	2,093	769	1,811	1,607	2,836	10,828
488	4,565	6,108	10,173	3,068	4,766	3,096	26,321	3,339	3,455	791	4,163	1,191	4,651	3,533	6,483	101,333

[illegible]

外國人出生月別

計  
計女男

二六、四八八  
三四、四九〇  
五二、九七八

五、四、三、二、一

二九、三六一  
三四、九二九  
五三、九九〇

二七、二三五  
二四、三一九  
五一、五四四

三〇八三  
二六、六四五  
五七、四七九

三、一、一、四、九  
二、七、四、八、八、六  
五、九、〇、〇、三、五、

慶 尙 南 道	慶 尙 北 道	全 羅 南 道	全 羅 北 道	忠 清 南 道	忠 清 北 道	京 畿 道	內 地 人 花 産 月 別	總 計	咸 鏡 北 道	咸 鏡 南 道	江 原 道
女	男	女	男	女	男	女	女	男	女	男	女
六三	一四	三三	四七	五一	一一	二八	一月	二二四	二四	六三	一一
六八	一一	二四	一三	一三	一一	七五	二月	二二三	一一	四二	一一
九二	一一	一三	三四	二一	一一	五九	三月	二二三	二四	四一	一一
三四	一一	五二	二二	一一	一一	五九	四月	四七七	一一	一一	一一
六六	五二	一三	一四	一一	一一	九三	五月	二五九	二二	三一	一一
六七	二二	四三	三一	一一	二一	六三	六月	七九六	一一	三一	一一
六〇	二一	三四	一一	一一	二一	五〇	七月	三〇三	一一	一一	一一
五六	二一	二五	三三	一一	一一	五二	八月	六五三	一一	三二	一一
五五	一三	二四	一五	一一	一一	七二	九月	三九三	一一	一一	一一
九九	二一	一三	四四	一一	一一	五〇	十月	六九七	一一	二一	一一
四三	一一	一三	二四	一一	一一	五七	十一月	三三八	一一	一一	一一
五四	二四	三二	三三	一一	一一	七六	十二月	三八四	一一	一一	一一
七六	二二	七六	六四	三三	八一	三六	十二月 合計	六四四〇	五八	四五	一一
一六	七	五	六	五	九	二七					

全 羅 北 道	忠 清 南 道	忠 清 北 道	京 畿 道
男	女	男	女
四六	一三	三三	三三
三四	一三	三三	三三
二二	二二	三三	三三
三三	一一	三三	三三
二四	一一	三三	三三
一一	二二	三三	三三
五六	二二	三三	三三
三四	二二	三三	三三
一八	二一	三三	三三
二二	二二	三三	三三
一二	二二	三三	三三
四七	四七	三三	三三
二九	三	三	八七

朝鮮人死産月別

總 計	咸 鏡 北 道	咸 鏡 南 道	江 原 道	平 安 北 道	平 安 南 道	黃 海 道
計	女	男	女	男	女	男
九元五	三四	四二	三	一一	一三	一四
三三	一一	四二	一三	一三	二二	一三
七元	一五	一四	一	五	一一	一
七元八	一二	一六	一二	一三	一六	二一
三三	二三	一四	二	一一	三四	一三
七三	三三	一三	一	二二	五二	一
七元九	二三	三二	二一	一三	四三	一
七三	一一	五四	一一	一	一四	一三
九元二	一二	三三	一	二	二五	二一
八三	一一	一六	三	二	四四	一四
八元三	二二	一五	一	一	二二	一三
七元二	四四	六七	一	五	三二	二二
九元五	三三	三六	三九	三三	三八	七三
一	三	六	三	五	六	元



[illegible]



# 人口動態

昭和九年

出生、出生、死産、死亡總數

(文正14年—昭和9年)

昭和九年出版

# 昭和九年の出産

## 第一 出 産 總 數

朝鮮に於ける昭和九年の出産は六三四、二四一人、其の内出生は六二九、四七六人、死産は四、七六五人で、  
 出産百に付出生は九九・二、死産は〇・八である。出生と死産との割合を既往十年間に就いて觀ると、甚だ微  
 少であるが出生は漸次減少し、死産は増加の傾向を示してゐる。

年 次	總 數	出 産 實 數	出 産 百 に 付
大 正 十 四 年	七五、九三三	七三、四四三	九六・五
昭 和 元 年	六八、〇〇三	六六、一七六	九七・四
同 二 年	七〇、一八三	六八、一八九	九七・五
同 三 年	七三、三三三	七二、五九四	九八・五
同 四 年	七三、三七六	七〇、一七九	九六・五
同 五 年	七三、〇〇〇	七三、二〇六	九八・四
同 六 年	七三、三三〇	七二、八二二	九八・四
同 七 年	六三、三二五	六二、二七七	九七・三
同 八 年	六〇、八三九	六〇、四〇七	九六・二
昭和九年	六三、三二五	六二、二七七	九六・二

## 第二 出生

一、出生總數 朝鮮に於ける昭和九年の出生六二九、四七六人中、内地人は一三、四九八人 朝鮮人は六、五七九人、外國人は三九九人、一日平均一、七三五人で、出生率は人口千に付二九・八〇である。之を前年に比較すると實數に於て二六、〇六九人、割合に於て〇・七八の増加で尙内地に於ける昭和八年の三一・五五に對比すると朝鮮は一・七五低い。出生率を既往十年間に就いて觀ると、昭和元年迄は漸減し、昭和二年よりは増加の傾向に轉じたが、昭和六年より再び漸減を續け、昭和八年には過去十年間の最低率を示し、本年に到つて僅かの増加を示してゐる。

年次	總數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮	内地
大正十四年	七三、八九三	一〇、八八九	七二、三七八	六	七〇・九	四四・五三
昭和元年	六七、一七六	一〇、五三三	六五、六四四	五	五五・九	四四・七七
同二年	六九、一八九	一〇、五九〇	六八、一四三	九	五五・八	四四・六一
同三年	七三、一九四	一〇、八九七	七二、〇五八	一五	五七・〇	四四・三八
同四年	七三、一二九	一〇、八五五	七二、一四五	一八	五七・七	四四・〇〇
同五年	七三、二二〇	一一、四五三	七二、〇六二	三六	五八・二	四三・六
同六年	七二、八八三	一一、八二五	七五、九六六	一五	五五・四三	四三・一七
同七年	六八、一三七	一一、五七三	六五、四四三	三六	五〇・一	四三・九二
同八年	六八、四〇七	一一、四〇一	五九、〇〇四	二八	四九・三	四三・五
同九年	六三、五七六	一一、五九六	六二、五七九	三九	四九・〇	?

人口千人に付

二、道別出生 出生率を道別に観ると、最高は平安北道の人口千に付三五・一二、最低は全羅南道の二四・九四で、其の差は一〇・一八である。出生率の高いのは平安北道、江原道、黄海道、慶尙南道、平安南道等で何れも三一・〇〇以上を示し之に反して低いのは全羅南道、慶尙北道等で二七・〇〇に達しない。

各道の出生率を前年に比較すると京畿道、平安南道、平安北道、咸鏡北道は減少し、他の九道は増加を示してゐるが、特に増加の顯著なるものは江原道の二・二三、慶尙北道の二・一五の増加である。

219

道 別	出生實數	人 口 千 人 付		
		昭和九年	同八年	前年に比し増(△)減(○)
總 數	六九、四七六	二九・八〇	二九・〇二	〇・七八
京 畿 道	六七、三七七	二九・三三	二九・四三	△一・一三
忠 清 北 道	二四、三三〇	二七・六	二七・三七	〇・〇一
忠 清 南 道	二九、〇六〇	二七・五	二七・九	〇・四
全 羅 北 道	二九、九四七	二七・一〇	二六・〇九	一・〇一
全 羅 南 道	二七、八八五	二四・九四	二四・四七	一・四七
慶 尙 北 道	六三、〇三四	二六・一六	二四・〇一	二・一五
慶 尙 南 道	六八、二三三	二九・九五	二九・二六	一・六九
黄 海 道	五一、七九七	二九・四三	二九・六	一・四七
平 安 南 道	四二、五九八	二九・〇三	二九・三三	△〇・三
平 安 北 道	五五、三七四	三三・一二	三三・四	△〇・二
江 原 道		二九・七三		

咸鏡南道  
咸鏡北道

三八、六六  
三三、九一

二〇、六六  
二〇、七〇

二〇、三三  
二〇、七〇

二〇、三三  
二〇、七〇

三、出生兒の體性

昭和九に於ける出生兒六二九、四七六人中、男は三三三、八九九人、女は二九五、五七七で女百に付男は一一三・〇である。之を前年に比較すると一・五の減少で、内地に於ける昭和八年の一〇五・二に對比すると朝鮮は男超過の割合が著しく高い。尙出生兒男女の割合を既往十年間に就いて觀ると、年に依り多少の高低はあるが男は常に一一〇・〇以上の割合を示してゐる。

年次	出生實數		女百に付男	
	男	女	朝鮮	内地
大正十四年	三八、九七七	三〇、五二六	一二・三	一〇五・五
昭和元年	三八、一三三	三二、〇四三	一二・六	一〇五・八
同二年	三七、六七五	三六、五二四	一一・八	一〇五・七
同三年	三八、三二五	三六、三七九	一二・三	一〇五・四
同四年	三八、七〇〇	三四、四七九	一二・八	一〇五・〇
同五年	四〇、六二八	三六、八三三	一一・一	一〇五・三
同六年	三七、九六一	三八、〇一一	一一・二	一〇五・三
同七年	三八、七六三	三八、四九五	一一・三	一〇五・〇
同八年	三三、〇九二	二六、三二八	一二・四	一〇四・一
同九年	三三、八九九	二五、五七七	一二・〇	一〇四・〇

四、出生の季節

昭和九年に於ける出生は十二月に最も多く、一月に最も少い。其の他三月、八月、九月、十



月、十一月等は比較的多く、五月、六月等は少い方である。

月	別	出生實數	一年平均一箇 月出生百に付	月	別	出生實數	一年平均一箇 月出生百に付
一	月	四四、〇八	八四・〇三	七	月	五〇、二四	九七・六
二	月	四九、三六	九六・九	八	月	五三、九一	一〇三・七
三	月	五三、七五	一〇三・四七	九	月	五四、八六	一〇四・六三
四	月	四九、〇九	九六・八	十	月	五七、六九	一〇九・九
五	月	四六、八七	八九・三	十一	月	六〇、二六	一一五・六
六	月	四四、八五	八五・五	十二	月	六四、三七	一二三・三

第三 死 産

一、死産總數 朝鮮に於ける昭和九年の死産四、七六五人中、内地人は八二〇人、朝鮮人は三、九二三人、外國人は二二人で、死産率は人口千に付〇・二三である。之を前年に比較すると實數に於て一八七人、割合に於て〇・〇一の減少で、尙内地に於ける昭和八年の死産率一・七〇に對比すると朝鮮は著しく低く其の二割にすら達しない。死産率を既往十年間に就いて觀ると、年に依り多少の高低はあるが、大體に於て逐年増加の傾向を辿つてゐる。

年次	總數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮人口千人に付	内地人口千人に付
大正十四年	三、四四〇	六五二	二、七八八	三	〇・一八	二・〇八

昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
三、六六六	三、六四四	三、六二〇	三、五九七	四、三〇〇	四、三二六	四、六三〇	四、九三二	四、七六五
六六	六三	六七	七六	八〇〇	八一九	八五五	四、〇三一	八三三
三、九一六	三、九三三	三、九三三	三、八四三	三、六二〇	三、四四五	三、七三六	四、〇三一	三、九三三
二	八	六	六	三	四	五	一五	三
〇・〇〇	〇・一九	〇・一九	〇・一九	〇・三三	〇・三三	〇・三三	〇・三三	〇・三三
三・〇五	一九二	一九九	一八八	一・八五	一・七八	一・八〇	一・七〇	一・七〇

二、道別死産 死産率を道別に觀ると、平安南道の人口千に付〇・五六を最高とし、京畿道の〇・四八、平安

北道の〇・四七等が之に亞いで高い、最も低いのは全羅南道、慶尙北道の〇・〇七で、忠清北道、忠清南道、全羅北道の〇・〇九、黄海道、江原道の〇・一九等は比較的低い方である。

各道の死産率を前年に比較すると、増加したもの五道、減少したもの六道で、其の中變動の主なるものは平安北道の〇・一二の減少である。

道別	死産實數	昭和九年	同八年	前年に比し増(△)減(○)
總數	三、六六六	〇・二二	〇・二二	40・01
京畿道	一、〇八八	〇・二八	〇・二八	0・01
忠清北道	三	〇・〇九	〇・〇九	10・0

三、死産兒の體性 昭和九年に於ける死産兒四、七六五人中、男は二、六四七人、女は二、一一八人で、女百に付男一二五・〇に該り、内地に於ける昭和八年の一二〇・五に比し四・五高い。

尙之を出生の女百に付男一一三・〇に比較すると男超過の割合が遙かに高く、既往十年間に就いて觀ると亦同様の現象を呈してゐる

年次	男	女	死産	實數	死産	女百に付男	出生
大正十四年	1,145	1,154	1,145	1,154	1,145	1,154	1,145
昭和元年	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131	1,131

三、死産兒の體性 昭和九年に於ける死産兒四、七六五人中、男は二、六四七人、女は二、一一八人で、女に付男一二五・〇に該り、内地に於ける昭和八年の一二〇・五に比し四・五高い。

同之を出生の女百に付男一一三・〇に比較すると男超過の割合が遙かに高く、既往十年間に就いて觀ると亦同様の現象を呈してゐる

#### 四、死産の季節

昭和九年に於ける死産は八月に最も多く、十月、十一月、一月等之に亞いで多い。

[illegible]

出生表 (昭和九年)

道 別	總 數	內 地 人		朝 鮮 人		外 國 人	
		男	女	男	女	男	女
總 數	六九,四六六	三三,八八九	三五,五七七	三六,七七七	三六,六八三	三三	一六
京 畿 道	六七,三三七	三三,七〇〇	三三,五三七	一,六六六	一,六二二	〇	〇
忠 清 北 道	二四,三三三	一二,一六六	一二,一六六	〇	〇	一	一
忠 清 南 道	三九,〇〇〇	二〇,〇三三	一八,九六七	三六,六二四	一七,八八九	一	八
全 羅 北 道	三九,九七七	二二,九六六	一八,五一二	四三	四三	二	二
全 羅 南 道	五七,八五五	三〇,八六六	二七,〇八九	四八	四八	二	六
慶 尙 北 道	六三,〇四四	三三,六三三	二九,四一一	四三	四三	六	六
慶 尙 南 道	六八,三三三	三六,六三三	三一,七〇〇	四三	四三	六	六
黃 海 道	五二,七七七	二六,八七八	二五,八八九	一,三三四	一,一六七	四	三
平 安 南 道	四二,五六六	二二,一八五	二〇,四四三	三九〇	三三三	五	二
平 安 北 道	五五,五五五	二八,三三七	二六,四四七	二六	二六	七	六
江 原 道	四九,四四四	二六,一一九	二三,〇三三	一六〇	一四三	七	一
咸 鏡 南 道	四八,三六六	二六,六三三	二二,六三三	五九	五四	七	一
咸 鏡 北 道	三三,三三三	二二,四四三	一一,八八八	五二六	四九三	三	三

死 産 表 (昭和九年)



總數		內地人		朝鮮人		外國人	
總數	二,四九八	六,九六九	六,五三九	七,〇六	七,四八八	六,五	六,〇六
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五
外國人	二	一	一	一	一	一	一
內地人	五七八	二八	二九〇	六	六	三	六
朝鮮人	六,四三三	二〇,六四	一七,八七九	一,一七九	九八	一,五〇六	一,五九三
外國人	九	一	八	一	一	一	一
內地人	八九六	四七五	四三三	九	五	六	七
朝鮮人	三九,〇四三	二二,三九	一七,八三四	一,七三七	一,四二七	一,六七七	一,四四九
外國人	六	二	四	一	一	一	一
內地人	九八八	五〇〇	四四八	五三	五	四八	五九
朝鮮人	五六,九八	三〇,三四	二六,三六五	二,〇二	一,八七二	二,一三九	一,八七六
外國人	八	二	六	一	一	一	一
內地人	九一〇	四七八	四三三	五三	五	四八	五九
朝鮮人	六,一五五	三,六七一	三,六八二	三,八〇七	一九七九四	二五,四八八	二七,八二〇
外國人	三,九	二,三	一,六	二	一一	三	九
內地人	三,二七八	一,六六六	一,六三	一七〇	三九	一三九	一四一
朝鮮人	三,九一	一,四〇七	二,九一二	二,一八五	一,八八八	二,五五九	二,二八九
外國人	六,六	四	四	二	一	六	一
內地人	一八九	九四	九五	六	一〇	八	七
朝鮮人	二四,〇三九	一三,〇九八	一〇,九三八	八四四	六六六	九三	七六五





道		同 上 其の二											
		六月		七月		八月		九月		十月		十一月	
別		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
道	朝鮮人	三、五七	一、九六六	二、六三一	八四	六四	九七六	八〇〇	九九〇	九八六	九七七	八二	九七
	外國人	四	三	三	三	三	四	一	二	一	一	一	二
總數		三、六一	一、九六九	二、六三四	八七	六四	九八〇	八〇一	九九二	九八七	九七八	八三	九九
忠清北道	朝鮮人	八八	七九	一、〇三	八	一、一三	九四	一、一四〇	九〇	一、一三七	一、〇七九	一、一三八	一、一四〇
	外國人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總數		八九	八〇	一、〇四	九	一、一四	九五	一、一四一	九一	一、一三八	一、〇八〇	一、一三九	一、一四一
忠清南道	朝鮮人	一、一〇	一、三三	一、七七一	一、五八	一、九四四	一、六五	一、八五五	一、七三三	一、九〇	一、七九七	一、八七	一、八八
	外國人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總數		一、一〇	一、三三	一、七七一	一、五九	一、九四五	一、六六	一、八五六	一、七三四	一、九一	一、八〇	一、八八	一、八九
京畿道	朝鮮人	二、四〇	二、一三	二、七九	二、四四	三、一七	二、七三	三、〇八	二、六七	三、〇九	二、七〇	三、一〇	二、七〇
	外國人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總數		二、四一	二、一四	二、八〇	二、四五	三、一八	二、七四	三、〇九	二、六八	三、一〇	二、七一	三、一一	二、七一
全羅北道	朝鮮人	一、四四	一、九一	一、六六	一、三三	一、七八	一、四九	一、八四〇	一、五五	一、九三七	一、八四八	一、九四	一、八六
	外國人	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總數		一、四五	一九二	一、六七	一、三四	一、七九	一、五〇	一、八四一	一、五六	一九四	一、八四九	一九五	一、八七

平安北道			平安南道			黃海道			慶尙南道			慶尙北道			全羅南道					
内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人
二	三	二,000	三	四	一,五三三	一	一	一,七五九	一	一	二,六六三	一	一	二,一八四	一	一	二,三三三	三	一	一
八	六	一,八四四	三	一	一,三三三	一	一	一,六七七	一	一	二,四七五	一	一	二,一〇四	一	一	二,一八	三	一	一
八	七	一,〇〇三	二	一	一,四〇〇	一	一	一,二〇〇	一	一	二,八八一	一	一	二,六四九	一	一	二,四〇七	四	一	一
四	一〇	三,〇〇五	七	二	一,七八八	一	一	一,七三三	一	一	二,五九九	一	一	二,五八八	一	一	二,一〇三	四	一	一
八	七	二,五五五	七	一	一,九一一	一	一	二,一五五	一	一	三,八九三	一	一	二,九二七	一	一	二,六四四	四	一	一
三	八	一,六二一	一	一	一,八八九	一	一	二,九〇〇	一	一	二,六六七	一	一	二,五九九	一	一	二,六六七	三	一	一
一八	八	二,〇〇〇	三	一	二,〇二二	一	一	二,一三一	一	一	二,八三三	一	一	三,〇六六	一	一	二,八二二	四	一	一
一三	五	一,五五一	三	一	一,八八九	一	一	二,一三三	一	一	二,六二六	一	一	二,五三三	一	一	二,八三三	三	一	一
一五	八	一,〇〇〇	一七	二	一,一五二	一	一	二,二四四	一	一	三,〇〇四	一	一	三,三〇六	一	一	三,八六六	四	一	一
一五	五	一,五五五	三	一	一,〇五五	一	一	二,一五六	一	一	二,七七七	一	一	二,六〇〇	一	一	二,八〇〇	五	一	一
七	八	一,七五五	三	一	二,三三三	一	一	二,四〇〇	一	一	二,七三三	一	一	三,〇〇〇	一	一	三,三三三	五	一	一
一三	五	一,〇〇〇	三	一	二,〇九九	一	一	二,四五六	一	一	三,一四一	一	一	三,七三三	一	一	四,〇〇〇	五	一	一
三	六	一,〇〇〇	六	一	二,〇三九	一	一	二,八八五	一	一	三,一〇一	一	一	三,九〇〇	一	一	四,三三七	六	一	一
三	六	一,七六六	一	一	一,八八八	一	一	二,七七七	一	一	三,二〇九	一	一	三,五三三	一	一	四,四四四	七	一	一

道	別	總數		男		女		男		女		男		女		男		女		五月
		總數	數	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
江原道	朝鮮人	一、七九三	一、五九六	一、八二二	一、六二五	一、九〇〇	一、八八九	三、〇〇九	二、〇二〇	二、一九二	二、九一一	二、九四一	一、九四九	二、七六五	二、八四八	二、八四八	二、八四八	二、八四八	二、八四八	
	外國人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	內地人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
咸鏡南道	朝鮮人	一、七五七	一、五〇〇	一、九四〇	一、六九二	二、一九九	一、八三三	三、一八九	二、〇九三	二、〇七〇	三、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	
	外國人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	內地人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
咸鏡北道	朝鮮人	一、七五七	一、五〇〇	一、九四〇	一、六九二	二、一九九	一、八三三	三、一八九	二、〇九三	二、〇七〇	三、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	
	外國人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	內地人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
京畿道	朝鮮人	一、七五七	一、五〇〇	一、九四〇	一、六九二	二、一九九	一、八三三	三、一八九	二、〇九三	二、〇七〇	三、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	
	外國人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	內地人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
忠清北道	朝鮮人	一、七五七	一、五〇〇	一、九四〇	一、六九二	二、一九九	一、八三三	三、一八九	二、〇九三	二、〇七〇	三、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	二、〇七〇	
	外國人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	內地人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

死産月別

(昭和九年) 其の一

黃海道			慶尙南道			慶尙北道			全羅南道			全羅北道			忠清南道		
内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人
六	一	三六	六	二	二六	一五	一	二四	四	一	一四	一	一	七	三	一	六
七	一	二五	六	一	一五	五	一	六	三	一	五	一	一	六	一	六	六
元	一	五	三	二	二五	六	一	六	三	一	七	一	一	六	三	四	元
五	一	二	一	一	七	八	一	六	一	一	八	一	一	五	三	四	五
三	一	三	一	一	三	九	一	三	一	一	七	一	一	一	一	四	一
二	一	五	一	一	九	七	一	六	一	一	三	一	一	三	一	三	六
二	一	七	三	一	八	六	一	三	一	一	七	一	一	三	一	一	三
一	一	一〇	二	一	九	七	一	六	一	一	八	一	一	五	二	四	二
四	一	二	一	一	九	一〇	一	二	一	一	三	一	一	五	一	一	一
五	一	八	一	一	一〇	六	一	七	二	一	五	一	一	四	二	五	一
二	一	六	一	一	五	七	一	三	二	一	三	一	一	五	二	五	一
三	一	七	一	一	七	七	一	七	四	一	三	一	一	九	二	四	一
二	一	八	一	一	九	四	一	八	四	一	七	二	一	二	一	四	一

總數	内地人	朝鮮人	別	道	咸鏡北道			咸鏡南道			江原道			平安北道			平安南道		
					外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
總數	内地人	朝鮮人	男	六月	同	四	二	七	一	二	一	二	一	五	三	三	二	七	一
			女			三	七	四	一	二	一	二	九	一	六	七	二	八	一
總數	内地人	朝鮮人	男	七月	上	一	五	九	一	二	一	二	八	一	六	四	一	五	一
			女			一	四	七	一	三	一	一	二	一	六	二	一	元	一
總數	内地人	朝鮮人	男	八月	其の二	一	八	一	一	六	一	五	二	一	三	一	一	五	一
			女			一	五	二	一	六	一	二	一	一	三	二	一	四	一
總數	内地人	朝鮮人	男	九月		一	五	三	一	五	一	三	一	一	七	一	一	五	一
			女			一	六	三	一	六	一	二	一	一	六	一	一	元	一
總數	内地人	朝鮮人	男	十月		一	四	一	一	八	一	七	一	一	三	二	一	四	一
			女			一	六	一	一	二	一	六	一	一	三	一	一	五	一
總數	内地人	朝鮮人	男	十一月		一	六	一	一	二	一	五	一	一	三	一	一	五	一
			女			一	四	一	一	七	一	九	一	一	五	一	一	六	一
總數	内地人	朝鮮人	男	十二月		一	六	三	一	七	一	八	一	一	四	二	一	六	一
			女			一	六	四	一	三	一	三	一	一	元	一	一	三	一

慶尙北道			全羅南道			全羅北道			忠清南道			忠清北道			京畿道		
内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人	内地人	外国人	朝鮮人
二	一	四	一	二	一	一	五	一	四	一	一	四	一	一	四	二	二
三	七	三	八	一	一	五	一	二	三	一	一	三	一	三	五	一	一
九	六	一	五	二	一	三	一	八	二	一	一	一	一	四	八	一	一
四	三	一	八	一	一	二	二	四	一	一	一	一	一	三	二	二	二
二	九	二	一	一	一	四	二	一	一	一	一	六	一	九	三	二	二
四	八	二	九	三	一	四	一	六	四	五	一	五	一	七	二	一	一
八	八	一	四	一	一	五	一	一	一	二	一	二	一	四	九	三	三
六	四	一	七	二	一	二	一	四	三	五	一	五	一	二	九	二	二
九	八	一	四	四	一	一	一	五	二	三	一	三	一	四	六	二	二
七	五	二	三	一	一	四	一	三	三	三	一	三	一	二	八	一	一
一〇	五	一	四	二	一	六	二	五	一	九	一	九	一	三	九	一	一
二	七	一	五	一	一	二	一	二	三	一	一	一	一	七	三	一	一
四	六	五	八	一	一	三	一	四	一	三	一	三	一	四	七	一	一
六	三	五	二	一	一	二	一	五	一	一	一	一	一	七	一〇	一	一

咸鏡北道			咸鏡南道			江原道			平安北道			平安南道			黃海道			慶尙南道	
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人
一	四	四	一	四	四	三	二	一	三	一	一	一	五	三	一	七	一	一	八
一	四	四	一	七	三	一	六	一	一	四	二	一	三	三	一	九	一	一	二
一	六	三	一	三	三	一	四	一	一	五	一	一	六	四	一	二	一	一	八
一	三	一	一	一	五	一	二	一	一	六	一	一	九	二	一	七	一	一	三
一	六	三	一	九	四	一	八	一	一	四	二	一	六	四	一	一	一	一	六
一	五	三	一	六	一	一	三	一	一	三	一	一	六	三	一	九	一	一	九
一	八	三	一	五	八	一	三	一	一	三	三	一	三	四	一	三	一	一	六
一	四	四	一	二	一	一	七	一	一	九	一	一	三	三	一	九	一	一	六
一	六	一	一	三	六	一	九	一	一	八	三	一	三	四	一	一	一	一	九
一	二	四	一	二	四	一	八	一	一	八	二	一	三	一	一	一	一	一	三
一	八	四	一	五	一	一	一	一	一	四	一	一	五	三	一	一	一	一	三
一	七	三	一	三	二	一	一	一	一	六	二	一	六	三	一	一	一	一	二
一	六	八	一	八	四	一	一	一	一	四	一	一	三	二	一	三	二	一	二
一	四	二	一	三	一	一	七	一	一	五	二	一	九	二	一	七	三	一	七

新 元 咸 清 總  
 義 山 興 津  
 州 府 府 府 計

一、六七三	五八、四五五	三三、一四二	二五、三一三
一二、六六〇	六〇、一八五	三一、〇四二	二九、一四三
一〇、六二七	五六、五七五	二九、二二八	二七、三四七
一一、七九七	五五、五三〇	三一、一三六	二四、三九四
三三三、三八四	一、六〇六、一六七	八三一、一二一	七七五、〇四六

昭和九年死七(一)



# 昭和九年の死亡

一、死亡總數 朝鮮に於ける昭和九年の死亡は四〇七、二六三人(内地人は八、四四八人、朝鮮人は三、九八八、四八二人、外國人は三三三人)で、一日平均一、一一六人に當り、死亡率は人口千に付一九・二八である。之を前年に比較すると實數に於て五、九四一人を増加したが、率に於ては〇・〇二を減少した。尙内地に於ける死亡率は一八・四八であるから朝鮮は〇・八〇高率である。死亡率を既往十年間に就て觀ると、最高は昭和四年の二三・八九、最低は昭和五年の一八・八五で、平均二〇・八八である。

15

年次	死亡總數				人口千に付
	内地	朝鮮	外國	朝鮮	
大正十四年	三九三、四九七	三八四、六七三	三九	三〇・四四	
昭和元年	三八七、七四五	三八〇、六一一	三八	三〇・三〇	
同二年	四一一、〇一五	四〇三、八四〇	二五三	三〇・四八	
同三年	四三三、七五五	四二四、六四二	四三七	三〇・六	
同四年	四六一、七九	四三三、八五五	五五九	三三・八九	
同五年	三八一、八七七	三七三、七三	四七四	二八・八五	
同六年	四二〇、三六八	四〇一、四八	四三四	三〇・三	
同七年	四三七、五八	四八、三三	二六三	三三・二	
同八年	四〇一、三三	三九三、六六	二九五	二九・三〇	
同九年	四〇七、三三	三九八、四八二	三三	二九・六	

## 二、道別死亡

昭和九年に於ける死亡を道別に観ると、最も多いのは京畿道の四九、〇九二人で、慶尙北道の四四、二六三人之に亞ぎ、最も少いのは忠清北道の一六、一九九人で、咸鏡北道の一六、三九二人之に亞いでゐる。尙人口千に對する割合を見ると、最高は江原道の二四・〇四で、咸鏡南道の二二・六六、平安北道の二二・四九等之に亞ぎ、最低は全羅南道の一二・三九で、之に亞いで全羅北道の一五・〇一、忠清南道の一五・九八等比較的低い方である。各道の死亡率を前年に比較すると、増加したもの八箇道、減少したもの五箇道で、増加の最も著しいのは京畿道の一・六六、減少の最も著しいものは平安北道の四・四三である。

道 別	實 數	人 口 千 に 付		
		昭和九年	同 八 年	比較 増(△)減(○)
總 數	四〇七、三六三	一九・六	一九・三〇	△ 〇・三
京 畿 道	四九、〇九二	三三・三	三〇・六	△ 一・六
忠 清 北 道	一六、一九九	一八・三	一八・二	〇・一
忠 清 南 道	三三、六六二	一五・九	一五・四	〇・五
全 羅 北 道	二二、一三三	一五・〇	一三・七	△ 一・三
全 羅 南 道	二六、七四五	二二・九	一三・八	△ 一・一
慶 尙 北 道	四四、二六三	一八・六	一七・五	△ 一・一
慶 尙 南 道	四一、〇八七	一九・五	一七・九	△ 一・六
黃 海 道	四三、一三三	三〇・二	二二・〇	△ 〇・八
平 安 南 道	二八、四四四	二〇・七	三三・七	○ 一・七
平 安 北 道	三三、四六八	三三・九	二六・三	△ 七・六

江	原	道	三、〇七	三、〇四	三、八一	一、三三
威	鏡	南	道	三、六六	三、六三	〇、四〇
威	鏡	北	道	三、二四	三、一〇	一、六六

### 三、死亡者の體性

昭和九年に於ける死亡者四〇七、二六三人中男は二一九、〇六二人、女は一八八、二〇一人で女百に付男は一六・四に當り前年に比し〇・九を増加した。尙内地於ける此の割合は一〇七・九であるから、朝鮮では男の死亡者が女に比し著しく多いことが窺はれる。而して男女各性人口千に付男の死亡者は二〇・四、女の死亡者は一八・一であつて、死亡率に於ても男は女より高いことが判る。

年次	實數		女百に付男		各性人口千に付	
	男	女	朝鮮	内地	男	女
大正十四年	三九、六五	一八、八三	二四・六	一五・四	三・五	一九・七
昭和元年	三六、〇〇	一八、六五	二三・五	一六・〇	三・七	一九・五
同 二 年	三八、七五	一九、二五〇	二三・七	一五・八	三・三	二〇・六
同 三 年	三〇、二九	二〇、一六	二三・三	一〇七・〇	三・五	二・七
同 四 年	二四、〇八	二六、九三	二二・九	一〇五・〇	二・八	三・九
同 五 年	三〇、一六	一七、七三	二六・一	一〇六・五	一九・九	一七・八
同 六 年	三九、二〇	一九、一八	二四・七	一〇七・二	三・三	一九・三
同 七 年	四二、八三	二二、六八	二二・一	一〇六・九	三・三	二・一
同 八 年	三三、〇〇	一八、三三	二五・五	一〇七・五	三・五	一八・三
同 九 年	三九、〇三	一八、一〇	二六・四	一〇七・九	三・五	一八・一

四、死亡の季節 昭和九年に於ける各月平均一日の死亡は、三月に最も多く四月、二月、一月、五月之に亞ぎ、各月共に一年平均以上とし、之に反し最も少いのは十月で、十一月、十二月、九月之に亞いでゐる。即ち死亡は一月より漸次増加し三月に最も多く、四月より減少を續けて十月に最も少く、十一月、十二月は再び増加してゐる。

月	別	實 數	一年平均一日の死亡百に付各月平均一日の死亡	月	別	實 數	一年平均一日の死亡百に付各月平均一日の死亡
一	月	三九、三六四	一一三・八〇	七	月	三四、二七五	九九・〇九
二	月	三五、五九〇	一一三・九二	八	月	三一、九二九	九二・三一
三	月	四七、三九〇	一三七・〇一	九	月	二九、〇八五	八六・八九
四	月	四〇、〇二九	一一九・五八	十	月	二六、一〇一	七五・四六
五	月	三四、七〇五	一〇〇・三三	十一	月	二五、六七六	七六・七一
六	月	三三、四〇三	九九・七九	十二	月	二九、七二六	八五・九一

五、死亡者の年齢 昭和九年に於ける死亡者を年齢階級別に觀ると、五歳未満の小兒は死亡總數の三割九分

七厘(〇歳の者は一割二分八厘)を占めて最も多く、五―九歳は急激に減少して六分四厘、一〇―一四歳は更に低下して三

分となり、一五―一九歳は各年齢級を通じて最も少く二分九厘を示してゐる。二〇―二四歳は稍増加して三

分六厘となるが、二五歳よりは再び漸次減少して二五―二九歳は三分三厘、三〇―三四歳は三分四厘、三五

―三九歳は三分二厘となつてゐる。而して四〇―四九歳は五分九厘を示し、五〇―五九歳は稍増加して六分

六厘、六〇―六九歳は更に増加して九分二厘となるが、七〇歳以上は比の年齢級に屬する人口の少いゆゑ斷

次減少して七〇—七九歳は八分八厘、八〇歳以上は三分八厘になつてゐる。

1922

年 齢	總 數	實 數		千 分 比 例	
		男	女	男	女
總 數	47,353	39,363	18,101	100.00	100.00
〇—四 歳	16,493	8,633	7,860	18.23	16.87
再 掲 〇 歳	2,200	2,115	3,145	4.66	6.96
再 掲 一 歳	4,936	2,673	2,263	10.21	12.48
二—四 歳	5,333	3,333	2,000	7.04	11.00
五 — 九 歳	3,333	1,733	1,600	7.04	8.80
一〇—一四 歳	2,333	1,333	1,000	4.93	5.56
一五—一九 歳	1,733	766	967	3.72	5.38
二〇—二四 歳	1,493	709	784	3.16	4.36
二五—二九 歳	1,544	698	846	3.27	4.58
三〇—三四 歳	1,393	772	621	3.36	3.48
三五—三九 歳	1,184	698	486	2.94	2.68
四〇—四九 歳	2,633	1,866	767	6.88	2.87
五〇—五九 歳	2,757	1,937	820	7.27	3.54
六〇—六九 歳	2,705	2,042	663	7.19	2.33
七〇—七九 歳	2,911	1,814	1,097	7.63	4.80

八〇歳以上  
年齢不詳

一五、五九  
九六

七、四九  
五二

八、三〇  
四七

六、三三  
二、四三

三、〇九  
二三

四、三二  
三、三三

更に昭和九年に於ける男女の死亡者を年齢別に比較して観ると、女に對する男の割合は五歳未満及五〇―五九歳を山とし、二〇―二四歳及八〇歳以上を谷とする波状を形成してゐる。即ち五歳未満に於ては女百に付男一二〇・七六で、其れより年齢の長するに従ひ男の割合は遞減し、二〇―二四歳に於ては男は女より遙かに少く九三・七七を示してゐる。而して二五歳以上は男の割合漸次増加し五〇―五九歳は一四七・二九の高率に達してゐるが、六〇歳以上は再び低下し、八〇歳以上は八七・一三に減少してゐる。

年齢	總數	男百に付女	年齢	男百に付女
〇 — 四 歳	一六・四〇	二五 — 二九 歳	一〇六・二七	
五 — 九 歳	一二〇・七六	三〇 — 三四 歳	一一四・五五	
一〇 — 一四 歳	一二五・八八	三五 — 三九 歳	一一三・一三	
一五 — 一九 歳	一二二・九七	四〇 — 四九 歳	一三九・六一	
二〇 — 二四 歳	一一四・八一	五〇 — 五九 歳	一四七・二九	
二五 — 二九 歳	一〇九・八〇	六〇 — 六九 歳	一二一・八一	
三〇 — 三四 歳	一〇八・九二	七〇 — 七九 歳	一〇三・七〇	
三五 — 三九 歳	九六・五三	八〇 歳以上	八七・一三	
四〇 — 四九 歳	九三・七七	年齢不詳	一二六・〇九	

### 六、死亡の原因

昭和八年に於ける死亡を死因二十五分類別に見ると、消化器病が最も多く一割九分四厘を占め、神経系病一割八分八厘、呼吸器病の一割五分三厘、感冒の八分六厘、傳染性病の八分二厘、老衰の六

分之に亞ぎ、以上を以て死亡總數の七割六分餘を占めてゐる。

死 因	實 數	千 分 比 例	死 因	實 數	千 分 比 例
總 數	四〇七、二六三	一、〇〇〇・〇〇	泌尿生殖器病	一〇、〇八一	二四・七五
全 身 病	一一、二〇八	二七・五二	外 傷	二、八八五	七・〇八
精 神 病	六、九九六	一七・一八	溺 死 及 縊 死	四、一二三	一〇・一二
神 經 系 病	七六、五八〇	一八八・〇四	畸 形 及 幼 年 衰	三、〇七九	七・五六
循 環 器 病	一八、九八〇	四六・六〇	老 衰	二四、六〇九	六〇・四三
眼 及 其 附 屬 器 病	五八三	一・四三	妊 娠 及 產	三、二七〇	八・〇三
耳 病	四七〇	一・一五	中 毒	三、六五五	八・九七
鼻 咽 喉 病	五、六八五	一三・九六	新 生 毒 物	七八二	一・九二
呼 吸 器 病	六二、三五〇	一五三・一〇	寄 生 蟲 病	四、三三二	一〇・六四
消 化 器 病	七八、八一四	一九三・五二	脚 氣	一、一九〇	二・九二
齒 牙 病	五一五	一・二六	感 冒	三四、九四八	八五・八一
運 動 器 病	四、四七七	一〇・九九	傳 染 性 病	三三、四六〇	八二・一六
皮膚及其附屬器病	六、八〇四	一六・七二	不明診斷及不詳の原因	七、三八七	一八・一四

# 人口動態

昭和十年.

出生、出生、死亡、死亡、婚姻、離婚  
(昭和1年～昭和10年)

昭和10年人口動態の対比

南次郎總督の聲明.

井坂國勢調査課長人事



9.32	17.59
------	-------

4.96	13.16
------	-------

5.52	19.58
------	-------

4.38	6.48
------	------

3.67	8.68
------	------

4.83	13.82
------	-------

2.81	4.85
------	------

9.32	19.81
------	-------

9.70	26.77
------	-------

8.94	12.60
------	-------

7.52	20.97
------	-------

8.56	30.04
------	-------

6.45	11.70
------	-------

7.60	28.00
------	-------

8.16	37.20
------	-------

7.02	18.43
------	-------

8.46	22.60
------	-------

8.52	28.98
------	-------

# 朝鮮統計時報

第八號

## 特 輯 の 辭

去る十月二十七日朝鮮人口動態調査規則が制定せられ、從來地方分査の方法により調査され來つた朝鮮の人口動態統計が昭和十三年以降、中央集査の方法に依つて調査せられることに改正せられた。

抑々統計の調査方法には中央集査と地方分査の二通りあるのであるが、今日最も進歩せる科學的調査方法は中央集査であつて、之に依らずして統計の整備を圖することは到底不可能であるとせられてゐる。

此の意味に於て今回の改正は極めて根本的な大改正と申すべきであつて、朝鮮の人口動態統計は之に依つて餘すところなく整備せられることになつたのである。

もとより此の調査が完全に遂行せられるか否かは直接統計資料蒐集の御にあたる府邑面職員諸氏の雙肩に懸ることが最も大なるは申すまでもないことである。

此故に本府に於ては十一月十一日、十二日の兩日に亘り各道統計主任を會同して十分なる打合せを爲すと共に、引續き各道に於ては夫々管内府郡島邑面關係職員を總動員して調査の圓滑なる遂行に萬遺憾なきを期することになつてゐる。

人口動態調査規則の制定と共に、十一月十九日訓令第七十七號を以て一般統計事務の根幹をなす朝鮮總督府報告例中改正せられ、就中、別冊甲號及乙號は庶政刷新の根本趣旨に則り形式内容の兩方面に互り調期的の大改正が行はれた。人口動態調査規則の制定と報告例の改正とは兩々相俟つて朝鮮に於ける統計の向上、事務の刷新に更に拍車をかけるものと信じてゐる。願くは朝鮮統計に關心を寄せらるる誌友會員諸賢に於かれては、これらの點を充分諒解せられ、朝鮮統計の使命達成に萬幅の協力を與へられむことを。

## 聲 明

予曩ニ大命ヲ拜シテ朝鮮ニ蒞ムヤ施政ノ方針ヲ宣ブルニ先ヅ國體ヲ明徴ニシ肇國ノ理想ヲ顯揚シ國民精神ノ振作ヲ圖ルヲ以テ至願トシ之ガ必成ヲ上下協贊官民一致ノ努力ニ俟テリ爾來趨向益定マリ效果具ニ著ハレ以テ日進會通ノ運ニ乗ジ日新更張ノ期ヲ啓キ人心ハ益實實ニ赴キ民風ハ愈剛健ヲ加ヘタリ今ヤ帝國ハ東洋平和確立ノ國是ニ隨ヒ異常ノ決意ヲ以テ膺懲ノ師ヲ深ク支那ニ進ム時局眞ニ重大國民ハ克ク事態ノ歸趨ヲ明察シ堅忍持久長期ノ試鍊ニ耐フルノ覺悟ヲ固クセザルベカラズ是レ健ニ予ガ諭告ヲ發シテ一般官民ノ奮勵ヲ促シ各種施設ヲ強化スルト共ニ今復茲ニ國民精神作興週間ヲ設定シテ平素涵養シ來レル強健ナル精神ヲ收束シ更ニ之ヲ今後日常ノ實生活ニ具顯セシメンコトヲ庶幾スル所以ナリ而モ我が國民ハ古來艱難ニ遭遇スルヤ必ズ舉國一心鐵石ノ意思ヲ以テ之ヲ克服シ國家興隆ノ成果ヲ收メザルナシ是レ即チ皇國精神ノ發露ニシテ萬邦無比ノ國體ニ基スル所幸ニ刻下重大ノ時局ニ當ツテ國民共有ノ矜持ニ依リ予ガ聲明ノ意ヲ體シ内鮮一體協力私ヲ忘レ公ニ奉ジテ怠ルナクンバ時艱ノ克服ハ期シテ待ツベク國體ノ精華ハ自ラ發揚セラレン

彌内官民宜シク深沈心ヲ練リ旦夕之ヲ島メヨ

昭和十二年十一月十日

朝鮮總督 南 次 郎

## 人口動態調査事務 打合會ニ於ケル 大野政務總監訓示

本日茲ニ道統計主任會同人口動態調査事務ノ打合ヲ爲スニ當リ一言訓示スル所アラムトス

抑人口ハ國家社會ニ於ケル政治的經濟的將又軍事的活動ノ原動力ニシテ國勢ノ推移消長ハ一ニ懸ツテ人口狀態ノ如何ニ存スト謂フモ過言ニ非ズ仍テ之ヲ明確ニシテ理想ノ型態ニ誘導スルハ國家ノ興隆國民ノ康福ヲ企圖スル百般ノ國策遂行上最も重要ナル先決條件ノ一ナリト謂ハザルベカラズ茲ニ於テ人口統計ヲ整備シテ其ノ效用ヲ十分ニ發揮セシメ以テ人口狀態ノ究明ニ遺憾ナカラシムル方途ヲ購ズルハ蓋シ刻下ノ最緊要事ニ屬スルモノナリト信ズ

人口動態調査ハ國勢調査ト相俟ツテ人口統計ヲ完備シ以テ人口狀態ヲ明確ニシ施政ノ基本資料ヲ提供スルコトヲ其ノ根本的使命トス

然ルニ朝鮮ニ於ケル人口動態調査ハ從來報告例ヲ定ムル所ニ基キ地方分査ノ方法ニ依リ調査セラレ道統計主任各位ノ努力ニ依テ近時改善ノ跡見ルベキモノアリト雖モ尙其ノ内容ヲ仔細ニ檢討スルトキハ未ダ十分ナラザル點尠シトセズ仍テ本調査ノ重要性ニ鑑ミ之ガ整備ヲ圖ル爲昭和十三年ヨリ中央集査ノ方法ヲ採用スルコトナリ今回府令朝鮮人口動態調査規則ヲ以テ之ガ調査方法ヲ規定セラレタリ

國勢調査ニ付テハ各位多年ノ努力ニ依リ既ニ十分其ノ成果ヲ收メツツアル所ナルモ人口動態調査ニ付テモ亦其ノ成績ヲ決定スベキ地方事務ヲ直接指導スルノ地位ニ在ル各位ハ其ノ責任ノ重大ナルニ鑑ミ國勢調査ニ於ケルト同様萬全ノ努力ヲ效スノ要アリ

宜シク當局ノ指示注意ニ基キ腹藏ナキ意見ヲ開陳シテ協議ヲ盡シ以テ本事務ノ目的及方法ヲ了得セムコトヲ望ム

## 人口動態調査事務 打合會に於ける 井坂國勢調査課長挨拶

本日茲に道統計主任各位參集の席に於て只今の政務總監閣下の御訓示に關聯し些か所見を述べまして各位の御參考に供したいと存じます。

明年一月一日より實施せられる朝鮮の人口動態調査に付ては十月二十七日朝鮮總督府令第六十一號を以て朝鮮人口動態調査規則が制定せられました。

朝鮮に於ては從來人口動態調査を婚姻、離婚、出生、死亡及死産の五種目に付て施行してゐまして、其の調査方法は婚姻、離婚及出生に付ては本府報告例及各道人口調査小票規程の定むる所に依り府尹邑面長が年末に於て管内の現住者に付實地調査して其の年中の事實を申告せしめ、死亡及死産に付ては本府報告例の定むる所に依り墓地、火葬場、埋葬及火葬取締規則に基づく人民の届出に依て統計材料を蒐集し、此等の材料を府尹邑面長が集計整理して府邑面統計表を作成し、邑面長は之を郡守島司に、府尹は道知事に提出し、郡守島司は邑面統計表に依り郡島統計表を作成して道知事に提出し、道知事は府郡島統計表に依り道統計表を作成して本府に提出し、本府に於ては各道提出の統計表を取纏めて朝鮮の人口動態統計表として發表して居るのであります。即ち統計材料の蒐集は一半は年々實地調査に依り一半は警察行政上の届出に基いて之を行ひ、其の集計整理は府邑面に於ける地方分査の方法に依て調査し來つたのであります。

處が此の調査方法には色々の方面に缺點があるといふことは既に各位に於かれても十分御承知のこととは存じますが其の缺點の大きな部分は集計整理事務を地方分査に依て行つて來たことに存するのであります。近時各位の努力に依り改善の跡著し

本質的な缺陷でありますが爲調査に携はる者が如何に努力しても地方分査である限りは除去し得られない、所謂勞多くして效少しの結果に終るのであります、之を完全にする爲にはどうしても地方分査を廢して中央集査を採用することが必要なのであります。斯様なわけで今回朝鮮人口動態調査規則が定められ從來の地方分査を中央集査に改めることに相成つたのであります。

中央集査となりましたが調査の種類は從來と同じく婚姻、離婚、出生、死亡及死産の五種目であります。調査方法の詳細については「朝鮮人口動態調査規則」及「政務總監通牒一調査票及送致目錄作成心得」を後刻係員をして説明致しますから此處には詳述を省きますが、唯一言申して置きたいことは婚姻、離婚、出生及死亡の調査は朝鮮戶籍令による届出に基いて之を爲すことになつてゐますが故に同令の適用なき内地人及外國人の調査はどうするかといふ點であります。

先づ内地人ですが之については戶籍法の適用が有しまして、其の調査資料は死産を除いて全部内閣統計局に在るから之に關する調査は同局に依託する豫定であります。次に外國人に付ては其の件數少く重要性も乏しいので從來通りの調査方法を繼續する方針でありますが、此外國人の調査を如何にしたら圓滑に行へるかといふ點に付ては尙後程協議致したいと思ひます。

大體以上の様な趣旨方針でありますが、然らば此人口動態調査は何故に之を行ふのであるか其の使命目的は何處にありや、此點に付て若干申し述べて見たいと思ひます。

先づ婚姻及離婚に付て申しますと、婚姻が個人として人生に於ける重大事であることは申す迄もありませんが、同時に之は國家社會にとりまして重要な意義を有するものであります。何故なれば人は婚姻の結果家庭を構成して別に世帯を構ふる様になるのであります。之等個人的生活の變化は必ず個人の集團たる社會全體に影響して來るものだからであります。婚姻數を年々調査してそこに減少の傾向があれば社會生活に對する經濟的、政治的若は社會的不安、障礙の増加しつゝあることの象徴となり、増加の傾向があれば之を以て社會生活がより幸福安寧となりつゝある象徴と見ることが出来るのであります。又一國一

社會に於ける婚姻數の増減若は早婚又は晚婚の傾向はやがて人口の増加にも影響を及ぼして來るものであります。従つて婚姻數を調べ年々其の狀態を觀察して行くことは社會生活の變遷を説明する資料ともなり、將來の人口の研究資料ともなるのであります。離婚は婚姻生活の破綻を意味するものであります。故に離婚數を年々調査して増加する傾向がありますれば民衆の風習に變化の起りつゝあること若は社會生活に於ける災害不幸等の障礙の多くなつて行くことが想察されると共に、婚姻に對する民衆の觀念、婚姻成立の風習、婚姻後に於ける家庭構成の狀況等結婚制度に對する批判も出來るのであります。之が婚姻及離婚を調査する目的であります。

次に出生及死亡であります。一國一社會の人口は絶えず死亡、出生及來往に因つて増減することは申す迄もありません。世界を打つて一丸として考へますれば人口を増減せしむる原因は出生及死亡のみであります。統計的見地よりしますれば此の來往は第二の問題であつて、第一の問題は飽迄出生、死亡の研究であります。わけても出生は最も重要な意義を持つものであります。出生を調査し、其の數は幾千ありや、出生率は大きい小さいか、又既往に比して増加しつゝありや、減少しつゝありや又此等の變化は何を原因としてゐるのであらうか等を知ることが國民の發展力を知る上に於て極めて必要なことであります。次に死亡は人間生活に於て出生に亞ぐ重要な現象であります。出生率の増高は國家繁榮の象徴たり得るに對し、死亡率の増大は大いに警戒を要する問題であります。死亡率の高いことは常に所謂天壽を全うすることなく夭折する者の多いことを示してゐるものであるからであります。それ故に死亡率は國家の文明度を示す指針とも申されて居り各國は争つて生命の延長、死亡率の遞減を圖つてゐます。然るに死亡率は衛生思想の發達、道德の向上、社會の繁榮平等に因つて遞減するものでありますから根本的に國民の保健を圖らんとするには必ず死亡の調査の結果に依つて其の狀勢を知り而して後適當の施設を爲さねばなりません。尙出生と死亡とを結びつけて觀察するとき、茲に人口の自然的増加を決定することが出來、諸般の國策遂行上極めて必要な將來の人口豫測といふことが可能になつて來るのであります。之が出生及死亡の調査が重要な所以で

最後に死産でありますが死産は妊娠の失敗を意味し衛生的見地よりして甚だ遺憾なことは申す迄ありません。然るに死産は公衆衛生の發達、道徳の進歩に依り漸次減少すべきものであります。朝鮮の状態は如何、之を知ることが本調査の目的であります。

大體以上の様な次第であります。尙之を一言にして申しますならば人口動態調査は一定期間に於ける國家社會の人口が如何なる原因によりて、又如何様の數量に於て變動し行くかを連續的に調査研究することによつて、一定時に於て社會を組織する人口の總數が幾千ありや又如何なる單位により如何様に組立てられてゐるかを觀察する人口靜態調査即ち國勢調査と相俟つて一國一社會の人口狀態を明らかにすることを其の使命目的としてゐるのであるといふことが出来るのであります。

凡そ人口現象に限らず、あらゆる社會現象は之を靜態と動態との兩方面から觀察しなければ其の本體を明らかにするに十分でないであります。例へば米の問題を取り擧げて見ましても、昭和十二年末に米が朝鮮内に何百萬石あるといふ米の靜態的調査ばかりでは朝鮮に於ける米の狀態は十分に明らかにすることは出来ません。昭和十二年末に米がそれだけあるといふことは何の原因として生じたか即ち朝鮮内で米がどれだけ生産されどれだけ消費され、又何程輸入され何程輸出されてゐるかといふ需給狀態即ち動態的調査をも十分に行ひ、其の結果幾千の年末現在高があるといふこと迄調査されて始めて米の狀態が十分に明らかになるのであります。又會社銀行等の營業狀態を示す簿記會計に於きましても貸借對照表とか資產表とかいふ靜態的方面と仕譯帳とか賣上、買入帳とかいふ動態的方面と兩方面から記帳して行くことが其の營業狀態を明らかにする爲必要となされてゐるのであります。

之等と同様に人口狀態も國勢調査といふ靜態的方面からのみの觀察を以てしては十分に明らかにされ得るものではなく、同時に動態調査をも施行して、此の靜態と動態と兩方面から觀察して始めて十分に明らかになるのであります。此が既に數回に互つて國勢調査が施行され人口の靜態的方面の觀察には遺憾なき今日、更に人口動態調査をも完全にして行かうとする所以であります。

申す迄もなく人口は國家社會の經濟上は勿論軍事上に於ても其の最大要素を爲してゐるものでありまして如何に文化進み國



富の大なる國家と雖もその抱擁する人口の増加力微弱なるか、又は其の減少を示すに於ては永く國力を維持して發展することの困難なことは古來多くの歴史の證明してゐる所であります。然し乍ら他面、國民生活の安定するが爲には相當の土地資源を必要とすることは中ず迄もありません。然るに今日の國際情勢を省みれば人口多く土地資源の貧弱なる國家と人口に比して過大なる土地資源を有する國家即ち持つ國家と持たざる國家との對立抗争甚しく前者は現狀維持に汲々として居るに拘らず後者は現狀を打破し正當なる配分を要求して已まない狀況であります。

翻つて我國の狀態を觀まするに、明治以來國運の大發展と共に人口の増加も著しく今や我國は世界に於ける最も人口稠密なる國家となり而も尙其の増加率も世界有數の地位にあります。然るに國民の給養に必要な天然資源は其の列強に比して相當に遜色あるのみならず其の増加も遽かに期待し難きもの大部分を占むる實情でありまして所謂持たざる國家の代表的存在になつてゐるのであります。朝鮮と雖も帝國の一環として人口過剰に悩みつゝあり朝鮮人勞働者の内地渡航多數に上り内地に於ける失業を一層深刻ならしむる情勢あり一方又過剰人口を北鮮及滿洲國へ移さんとする政策が朝鮮に於ける重要問題となりつゝあるのであります。

内鮮を通じて人口多く而も年々の増加も極めて著しいといふ此の事實は苟も我國の政治經濟に意を留むる者の無關心に看過し得ざる所であります。斯の如く稠密なる又激増する人口を擁する國民が狭小なる國土に住みつゝその生活程度を維持向上して行くことが果して可能なりや、問題の解決は如何にして之を爲すべきかと云ふことは實に我國現下に於けるあらゆる國策の基礎問題をなしてゐるのであります。

由來過剰人口の對策として學者の唱へてゐる所に三つの方策があります。移民、産兒制限及工業立國が之であります。さて然らば此等の三つの對策の何れかによつて我國の人口問題は解決され得るであらうか。先づ移民でありますが之は適當な土地さへあれば頗る簡單な解決策でありますが、問題は其の土地であります。御承知の様に北米に、南米に、濠洲に到る所移民排斥の政策はありまして移民を爲さんとして爲し得ないのが現狀であります。唯友邦滿洲國は我が移民を歡迎し我當局も滿洲移

民を重要な國策として取上げてゐるのでありますけれども我内地朝鮮を合して年々百數十萬に上る増加人口を之のみによつて全部解決することは到底不可能なりと考へざるを得ないのであります。

次に人口が増加して困るのなら産まぬ様にしたらいではないかといふのが産兒制限であります。誠に簡單明瞭な話であります。此産兒制限が極めて消極的な方法で、國家が之を其の國策として採用することの出来ないのは言を俟たざる所であります。殊に一時的な人口増加の停止を圖ることが出来るならばまだしも、一度斯様な方法を採りまして人口増加が止つた場合には將來殆んど永久的に人口を減少せしめて國家の衰亡を來すといふことは學者の均しく指摘する所でありまして、此のことを考へると産兒制限策を採ることは絶對出来得ないのであります。

其處で第三にとり上げられるのが工業立國であります。工業に於ては農業其の他の原始的産業に於ける様に廣い土地を必要としないから、此工業で國を立てゝ行けば土地が狭くても困ることはないといふのが其の主張する所であります。誠に其の通でありまして人口が多くなれば工業も盛んになるし工業が盛んになれば人口も亦殖えて行つたのが今日迄諸國の歴史の示す所であります。然しながら工業立國の建前をとりますれば勢ひ食糧原料の供給と製品の販路を外國に求めねばならない、即ち有無相通する自由通商が行はねばならないのであります。所が現下の國際關係を觀ますに、政治的不安經濟的不況其の他色々な理由から各國とも自給自足の殻に立て籠り各其の勢力範圍内だけで所謂ブロック經濟政策をとり、ブロック外の他の通商には關稅の障壁を高くするのみならず爲替管理、輸入割當制等あらゆる手段に訴へて之を極力排斥せんとし、自由通商は思ひもよらぬ所でありまして、工業立國の甚だ困難なことを物語つてゐるのであります。

斯様に見ますれば過剩人口の解決策として學者の考へてゐる所は現下の國際情勢に於ては甚だ實效の少いものと考へなければならぬのであります。然し乍ら解決が困難であるからといつて何等の對策を講ぜずに國民の給養に障礙あらしめてはならないのであります。如何なる手段に訴へても之が打開の途を講じなければならぬのであります。

そこで我國に於ては友邦滿洲國と結び所謂日滿ブロックを形成すると共に隣邦支那に對しても協調の手を差し延べて、東亞

を打つて一丸とし有無相通じ相携へて行くことを國策と致してゐるのであります。これさへ完全に行けば我國は云ふに及ばず滿洲國も支那も皆なくなつて東亞の平安興隆は期して待つべきものであるのであります。然るに支那政府に於ては此見易き道理を辨へず、東洋民族の勃興を恐れる歐米資本に躍らされ、ソヴィエツト共產主義の魔手に操られて徒らに抗日侮日をこゝとしてゐるのは誠に遺憾に堪えない所であります。只今我國は支那事變の爲朝野を舉げて緊張してゐますが、此度の事變は東亞の盟主たる我國が頑迷固陋なる支那を懲戒する涙の筈に外なりません。我々は支那が前非を悔い、我日本と共に東洋民族の發展の爲大いに反省する日の一日も早からんことを期待するものであります。斯様に觀じ來りますと重大なる現下の時局の根底に我國の人口問題が横つてゐることを見通すわけには參らないのであります。人口問題こそあらゆる政治國策の根本基調を爲すものであり苟も政策國策を論ずる以上人口問題の研究を閑却することは出來ないのであります。

人口問題を研究する爲には先づ以て人口狀態を明かにせねばなりません。然るに人口統計が人口狀態を明かにすることを其の使命目的としてゐることは先程申しましたが、同時に人口統計に依らずして人口狀態を明かにする手段は他にないのであります。

人口問題を研究するに當つて人口統計が極めて重要な所以は茲にあるのであります。

如斯人口統計の使命目的たるや頗る重大なのであります。固より其の使命を達成する爲に統計が正確でなければなりません。正確でない統計を基礎とする研究ならばそれは砂上の樓閣の如きはかなき存在でしかないのであります。此意味に於て愈明昭和十三年より我朝鮮の人口動態調査が完全になり、國勢調査と相俟つて人口統計を完備し人口問題の研究に遺憾なきを明し得る運びになりましたことは誠に慶びに堪えない所であります。

もとより此の調査が完全に遂行されるか否かは單位調査の側にある地方職員の覺悟に懸ることが最も大きいことは申す迄もありません。過去三回に亙り施行せられた國勢調査に於きましては、各位の獻身的努力に依つて、豫定の効果を擧げることが出來ましたが、どうか本調査に就きましても直接第一線の人々を指導監督せられる各位に於かれましては本調査の重要な所を十分に認識せられ、國勢調査同様十分の努力研究を致され、萬遺憾なきを期せられる様お願い致す次第であります。

# 昭和十年の人口動態

總督官房文書課

## 婚姻及離婚

### 第一 婚 姻

一 總數 朝鮮に於て昭和十年に行はれた婚姻は内地人二、〇九二件、朝鮮人二二、二四六件、外國人七八件、計二二、三三八件で一日平均三三八件に當り人口千人に付五・六四の割合である。之を前年に比數すると實數に於ては三、〇三三件増加したが、割合に於ては〇・一一を減少した。

最近十年間に於ける婚姻率の趨勢を觀ると昭和元年の八・三八より同二年の九・一九、同三年の一〇・〇七と漸次増加したが、同四年は一〇・〇五と稍々減少し、其れより年々減少を續け昭和十年は過去十年間に於ける最低率を示すに至つた。

年 別	總 數	內 地 人	朝鮮 人	外 國 人	人 口 千 人 に 付
昭和元年	一六八、五九八	一一、八四四	一六七、四〇九	五	八・八三
同 二 年	一七五、九五三	一二、六七七	一七四、六五三	二三	九・二九

昭和三年	一五三、一六五	一二、三三三	一六〇、八六六	一四	一〇・七
同 四 年	一九四、六五五	一五、四四四	一九〇、二二二	一八	一〇・〇
同 五 年	一九九、六二二	一六、六三三	一九三、〇〇五	一五	九・八四
同 六 年	一八四、五九六	一八、六四四	一六五、九五二	一九	九・〇三
同 七 年	一四〇、五九〇	二二、七四四	一二七、八四六	一八	六・三四
同 八 年	一二六、六四四	二二、四四五	一〇四、一八八	一九	六・〇九
同 九 年	一二二、六三三	二二、三三三	一〇〇、三〇〇	二六	五・七五
同 十 年	一二三、四二六	二〇、三三三	一〇三、〇九三	二八	五・六四

二 道別 昭和十年に於ける婚姻を道別に觀ると最も多いのは膠北の二二、八五八件で、京畿の二二、五九五件及び黃海の二二、四五七件之に亞ぎ、最も少いのは咸北の四、一六五件で、忠北の五、一四七件及忠南の六、六八五件之に亞いでゐる。

尙人口千人に對する婚姻の割合を觀ると最高は黃海の七・六九で、江原の七・二〇、咸北の六・四二及平北の六・三六之に亞ぎ、最低は全南の三・九三で之に亞いで慶南の五・一七及慶北の五・二二等比較的低い方である。

各道の婚姻率を前年に比較すると増加したものの四道、減少したものの八道、變動のないもの一箇道で増加の最も著しいのは平南の〇・二二、減少の最も著しいのは咸北の二〇・六である。

道名	實 数			人 口 千 付		
	總 数	内地人	朝鮮人	昭和十年	昭和九年	比較増(△減)
全 道	三、四二六	三、〇九二	三二、四六六	五、六四四	五、七五五	△ 〇・一一
京 畿 道	二、九九五	四、六五	三、二六六	五、四〇〇	五、七〇七	△ 〇・三〇
忠 清 北 道	五、一四七	三	五、一六六	五、六五五	五、九〇〇	△ 〇・二七
忠 清 南 道	六、六八五	九	六、五九六	四、五五五	四、五七七	△ 〇・〇三
全 羅 北 道	八、七六八	一〇	八、八六八	五、六九	五、八五五	△ 〇・一六
全 羅 南 道	九、四七九	二四八	九、二三〇	五、九三	五、八六	△ 〇・〇七
全 道	三、八八八	二四八	三、七四〇	五、二二	五、一九	△ 〇・〇三
慶 尙 北 道	二、一五〇	四三七	一、〇八六	五、一七	五、七	△ 〇・〇〇
慶 尙 南 道	二、四三七	五三	二、四〇〇	五、九四	七、九六	△ 〇・三
黃 海 道	八、五八八	七七	八、五一一	五、九四	五、七二	△ 〇・二二
平 安 南 道	一〇、九九五	七	一〇、九四八	六、三六	六、四三	△ 〇・〇六
平 安 北 道	一一、〇七	三	一〇、九六五	七、〇	七、三	△ 〇・〇三
江 原 道	一〇、一四三	一六	一〇、一三三	六、四三	七、〇	△ 〇・〇六
咸 鏡 南 道	一〇、一四五	三三	一〇、一三三	五、七	六、三	△ 〇・〇六
咸 鏡 北 道	一〇、一四五	三三	一〇、一三三	五、七	六、三	△ 〇・〇六

三年齡別 昭和十年に於ける婚姻當事者の年齢階級別百分比例を

先づ夫に就いて観ると内地人は二五―二九歳の五六・〇%最も多く、

二〇―二四歳の一六・八%及三〇―三四歳の一六・四%之に並いでゐる。朝鮮人は二〇―二四歳の三五・九%最も多く、一七―一九歳の三

二・四%及二五―二九歳の一三・三%之に並いでゐる。即ち朝鮮人は

内地人に比し婚姻最盛期が一階級低い。

内地に於ける昭和九年の比例を觀ると二五―二九歳が最も多く四

三・六%で、二〇―二四歳の二五・七%及三〇―三四歳の一五・三%が之に並いでゐる。即ち朝鮮に於ける内地人の婚姻は内地に於ける夫れよりは婚姻最盛期たる二五―二九歳の割合が遙かに高く、二〇―二

四歳の割合が少いのが著しく、朝鮮人に於ては内地に於ける六れより婚姻最盛期が一階級低く、二四歳の婚姻が、内地に於ては僅かに二

割七分たるに比し八割を占めてゐて早婚の傾向が著しい。

總 數	内地人			朝鮮人			内地(昭和九年)		
	實 數	百 分 比		實 數	百 分 比		實 數	百 分 比	
一七歳未満	11021	100.0		111628	100.0		111628	100.0	
一七—一九歳	5	0.1		12031	11.6		21162	1.1	
二〇—二四歳	17	1.3		121101	10.8		21162	1.1	
二五—二九歳	121	1.0		121101	10.8		21162	1.1	
三〇—三四歳	121	1.0		121101	10.8		21162	1.1	
三五—三九歳	121	1.0		121101	10.8		21162	1.1	
四〇—四九歳	121	1.0		121101	10.8		21162	1.1	
五〇—五九歳	121	1.0		121101	10.8		21162	1.1	
六〇歳以上	121	1.0		121101	10.8		21162	1.1	

此の比例を既往十年間に就てみると内地人は昭和九年に於て、一五—二九歳の四二・五%、三〇—三四歳の二一・〇%、二〇—二四歳の一九・七%、三五—三九歳の九・〇%の順位を示し、以後各年共に同順位を續けてゐるが二五—二九歳が漸次増加してゐるのに対し、他は年により多少の高低はあるに僅かつつ減少してゐる。朝鮮人は昭和九年に於て一七—一九歳の三七・〇%、二〇—二四歳の二八・二%、二五—二九歳の一五・二%の順位で、以後昭和四年迄は概ね同順位を續けてゐるが、同五年に至つて二〇—二四歳が三二・一%となつて首位を

占め、一七—一九歳の三一・二%及二五—二九歳の一六・八%が之に次ぎ、以後大體同順位を保ちつゝ二〇—二四歳は漸増し、一七—一九歳は昭和七年迄漸減したが、同八年よりは増加の傾向に轉じ、二五—二九歳は漸減してゐる。内地の状況と比較して動ると内地に於ては二五—二九歳及三〇—三四歳の兩階級が逐年増加し漸次晩婚へ移動してゐるに對し、朝鮮に於ては、五—二九歳に逐年集せんとし、朝鮮人は之より一階級低く、二〇—二四歳に密集せんとしてゐる。

昭 和 年 別										昭 和 年 別									
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
九	八	七	六	五	四	三	二	元	年	十	九	八	七	六	五	四	三	二	元
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
總 數										總 數									
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
未 一 七 歲 人										未 一 七 歲 人									
12.8	14.0	14.4	16.8	16.6	17.0	17.7	17.4	17.6	17.7	13.0	14.1	14.0	14.1	14.0	14.1	14.0	14.1	14.0	14.1
17.3	17.7	18.0	18.3	18.4	18.5	18.6	18.7	18.8	18.9	13.5	14.8	14.9	15.0	15.1	15.2	15.3	15.4	15.5	15.6
22.0	22.1	22.2	22.3	22.4	22.5	22.6	22.7	22.8	22.9	16.8	17.5	17.6	17.7	17.8	17.9	18.0	18.1	18.2	18.3
29.5	30.1	30.7	31.2	31.5	31.8	32.1	32.4	32.7	33.0	25.0	25.8	26.1	26.4	26.7	27.0	27.3	27.6	27.9	28.2
34.0	34.3	34.6	34.9	35.1	35.3	35.5	35.7	35.9	36.1	30.4	31.1	31.4	31.7	32.0	32.3	32.6	32.9	33.2	33.5
39.1	39.3	39.6	39.9	40.1	40.3	40.5	40.7	40.9	41.1	35.0	35.8	36.1	36.4	36.7	37.0	37.3	37.6	37.9	38.2
44.0	44.3	44.6	44.9	45.1	45.3	45.5	45.7	45.9	46.1	40.0	40.8	41.1	41.4	41.7	42.0	42.3	42.6	42.9	43.2
49.1	49.3	49.6	49.9	50.1	50.3	50.5	50.7	50.9	51.1	45.0	45.8	46.1	46.4	46.7	47.0	47.3	47.6	47.9	48.2
54.0	54.3	54.6	54.9	55.1	55.3	55.5	55.7	55.9	56.1	50.0	50.8	51.1	51.4	51.7	52.0	52.3	52.6	52.9	53.2
59.1	59.3	59.6	59.9	60.1	60.3	60.5	60.7	60.9	61.1	55.0	55.8	56.1	56.4	56.7	57.0	57.3	57.6	57.9	58.2
64.0	64.3	64.6	64.9	65.1	65.3	65.5	65.7	65.9	66.1	60.0	60.8	61.1	61.4	61.7	62.0	62.3	62.6	62.9	63.2
69.1	69.3	69.6	69.9	70.1	70.3	70.5	70.7	70.9	71.1	65.0	65.8	66.1	66.4	66.7	67.0	67.3	67.6	67.9	68.2
74.0	74.3	74.6	74.9	75.1	75.3	75.5	75.7	75.9	76.1	70.0	70.8	71.1	71.4	71.7	72.0	72.3	72.6	72.9	73.2
79.1	79.3	79.6	79.9	80.1	80.3	80.5	80.7	80.9	81.1	75.0	75.8	76.1	76.4	76.7	77.0	77.3	77.6	77.9	78.2
84.0	84.3	84.6	84.9	85.1	85.3	85.5	85.7	85.9	86.1	80.0	80.8	81.1	81.4	81.7	82.0	82.3	82.6	82.9	83.2
89.1	89.3	89.6	89.9	90.1	90.3	90.5	90.7	90.9	91.1	85.0	85.8	86.1	86.4	86.7	87.0	87.3	87.6	87.9	88.2
94.0	94.3	94.6	94.9	95.1	95.3	95.5	95.7	95.9	96.1	90.0	90.8	91.1	91.4	91.7	92.0	92.3	92.6	92.9	93.2
99.1	99.3	99.6	99.9	100.1	100.3	100.5	100.7	100.9	101.1	95.0	95.8	96.1	96.4	96.7	97.0	97.3	97.6	97.9	98.2

年 別	内 地	朝鮮人	内地(昭和九年)
同 十 年	100.0	11.4	3.4
大正十四年	100.0	2.6	3.9
昭和元年	100.0	2.7	3.3
同 二 年	100.0	2.6	3.2
同 三 年	100.0	2.5	3.0
同 四 年	100.0	2.2	2.9
同 五 年	100.0	2.0	2.8
同 六 年	100.0	1.7	2.7
同 七 年	100.0	1.5	2.6
同 八 年	100.0	1.4	2.6
同 九 年	100.0	1.3	2.5

二五—二九歳の七二・二%最も多く、二〇—二四歳の四・〇%及一五歳未満の八・八%之に並である。即ち朝鮮人は内地人に比し婚姻最盛期が一階級低く、又内鮮人共妻の婚姻最盛期は夫に比し一階級低く、尙最盛期に於ける割合は著しく多い。	内地人	朝鮮人	内地(昭和九年)
内地に於ける昭和九年の状況を観ると二〇—二四歳の五四・七%最も多く、二五—二九歳の一八・一%及一五—一九歳の一五・二%が之に並である。即ち朝鮮に於ける内地人の婚姻は内地に於ける夫れより著しい。	總 数	實 数	百分比
一五—一歳未満	20,231	100.0	100.0
一五—一九歳	7,734	38.2	38.2
二〇—二四歳	18,495	91.8	91.8
二五—二九歳	3,676	18.2	18.2

次に妻に就て観ると内地人は二〇—二四歳の六四・三%最も多く、二五—二九歳の一七・五%及一五—一九歳の一三・一%之に並き、朝鮮人は一五—一九歳の七二・二%最も多く、二〇—二四歳の四・〇%及一五歳未満の八・八%之に並である。即ち朝鮮人は内地人に比し婚姻最盛期が一階級低く、又内鮮人共妻の婚姻最盛期は夫に比し一階級低く、尙最盛期に於ける割合は著しく多い。	内地人	朝鮮人	内地(昭和九年)
内地に於ける昭和九年の状況を観ると二〇—二四歳の五四・七%最も多く、二五—二九歳の一八・一%及一五—一九歳の一五・二%が之に並である。即ち朝鮮に於ける内地人の婚姻は内地に於ける夫れより著しい。	總 数	實 数	百分比
一五—一歳未満	20,231	100.0	100.0
一五—一九歳	7,734	38.2	38.2
二〇—二四歳	18,495	91.8	91.8
二五—二九歳	3,676	18.2	18.2



三〇―三四歳 三・五 一・二七 二七・九五 五・五  
 三五―三九歳 三 一・〇 一・八六 二二・八七 二・七  
 四〇―四九歳 三 一・一 一・四九 二二・九六 二・五  
 五〇―五九歳 一 〇・〇 一・八 一・五三 一・一  
 六〇歳以上 一 〇・〇 一・〇 一・五五 〇・三  
 此の比例を既住十箇年間に就て觀ると内地人は昭和元年に於て二〇―二四歳の四七・八%、一五―一九歳の二六・六%、二五―二九歳の一五・三%の順位で以後各年共大體同順位を續けてゐるが二〇―二四歳は漸増し一五―一九歳は漸減してゐる。朝鮮人は昭和元年に於て一五―一九歳の五九・七%、二〇―二四歳の二四・一%、一五歳未満の六・七%

内地人

年 別	總 數	一五歳未満	一五―一九歳	二〇―二四歳	二五―二九歳	三〇―三四歳	三五―三九歳	四〇―四九歳	五〇―五九歳	六〇歳以上
昭和元年	100.0	6.7	26.6	47.8	15.3	2.2	2.0	1.2	0.1	1
同 二 年	100.0	2.8	27.8	47.6	17.7	6.4	1.9	1.8	0.5	1
同 三 年	100.0	1	27.5	47.1	19.3	7.0	1.6	1.0	0.5	1
同 四 年	100.0	0.1	27.0	46.6	16.7	6.1	1.9	1.3	0.5	0.1
同 五 年	100.0	0.2	27.3	46.7	17.3	4.9	1.5	0.7	0.4	1
同 六 年	100.0	0.1	27.5	46.1	17.0	4.6	1.9	0.9	0.1	0.0
同 七 年	100.0	0.1	27.5	46.3	17.0	4.6	1.5	0.9	0.1	0.0
同 八 年	100.0	0.0	26.6	46.8	17.6	4.1	1.4	0.9	0.4	1
同 九 年	100.0	0.0	25.9	46.7	17.0	4.6	0.9	1.1	0.6	0.1
同 十 年	100.0	0.0	25.1	46.3	17.5	3.3	0.1	1.1	0.0	0.0

%の順位で以後大體同順位を保ちつゝ、一五―一九歳は昭和五年迄減したが、夫れよりは年々著しく増加し、二〇―二四歳は昭和五年迄は増加したが以後著しく減少し、十五歳未満に著しき變動無き最近漸次増加してゐる。即ち妻は依然として或は益々早婚の傾向がある。之等を内地に於ける状況と比較して觀ると内地に於ては二〇―二四歳及二五―二九歳が漸増し、一五―一九歳が漸減して漸次晩婚へ移動しつゝあるに對し朝鮮に於ては内地人は二〇―二四歳に密集せんとし、朝鮮人は夫れより一階級低く、一五―一九歳に集中せんとする傾向がある。



更に夫妻相互の年齢を組合せて觀ると内地人は夫の二五・一二九歳と妻の二〇・一二四歳との婚姻最も多く、總數の四割八分を占め、夫妻共に二〇・一二四歳及夫の三〇・一三四歳と妻の二〇・一二四歳の二割之に夫滿と妻の一五・一九歳の九分之二に重いてゐる。

[illegible]

三〇—三四歳	一、七三三	二	七	五
三五—三九歳	五、六六	五	二	二
四〇—四四歳	四、四九	一	二	二
五〇—五九歳	六	一	一	一
六〇歳以上	三	一	一	一

四 法定婚姻年齢未満の婚姻

昭和十年に於ける朝鮮人婚姻當事者の中法定婚姻年齢に達しない者、即ち夫の一七歳未満及妻の一五歳未満の者は夫一四、〇四一人、妻一〇、七二二人、計二四、七五三人で婚姻當事者總數の一割に當つてゐる。之を前年に比較すると實數に於て一、〇八三人割合に於て一分の減少である。尙既往十年間に就て觀ると、昭和元年の七分より同六年迄は年々減少したが、昭和七年は遽かに増加して一割二分となり、其後は漸次減少してゐる。而して各年共夫は妻より稍々高率である。

年 別	總 數			夫			妻		
	實數	婚姻者 百に付	實數	婚姻者 百に付	實數	婚姻者 百に付	實數	婚姻者 百に付	實數
昭和元年	二五、九四九	七・七	一三、七七一	七・六	一、一七九	六・七	六、七	六・七	六・七
同 二 年	二四、六七五	七・一	一三、〇一八	七・五	一、六五九	六・七	六・七	六・七	六・七
同 三 年	二四、〇三三	七・〇	一三、七七一	七・七	一、一七一	六・五	六・五	六・五	六・五
同 四 年	二五、四七六	六・六	一三、六三二	七・一	一、三〇一	六・三	六・三	六・三	六・三
同 五 年	二五、七七一	六・〇	一三、〇九二	六・六	一、〇六三	五・四	五・四	五・四	五・四
同 六 年	二五、四〇三	五・九	一三、七七一	六・八	一、九三三	五・八	五・八	五・八	五・八
同 七 年	三三、〇四五	一三・一	一八、七七一	一三、四	一三、五七五	八・八	八・八	八・八	八・八
同 八 年	二九、七五一	一三・〇	一七、四四一	一三、〇	一三、五七五	九・九	九・九	九・九	九・九

次に昭和十年に於ける法定年齢未満の者の總數に對する割合を道別に觀ると、忠北の一割九分を最高とし、平南の一割七分及平北の一割六分之に強き、其他黃海及江原も全鮮平均以上を示してゐる。之に反して低いのは慶南の四分を首め全南の五分及全北の七分で其他慶北・京畿・咸南・咸北・忠南は何れも平均以下である。

道 別	總 數			夫			妻		
	實數	婚姻者 百に付	實數	婚姻者 百に付	實數	婚姻者 百に付	實數	婚姻者 百に付	實數
全 鮮	二五、七五九	一〇・三	一三、〇九二	一〇・二	一、〇六三	六・七	六・七	六・七	六・七
京 畿 道	二、〇三三	八・七	一、〇三三	七・七	一、〇三三	八・八	八・八	八・八	八・八
忠 清 北 道	一、九六六	一三・〇	一、〇三三	一三・三	一、〇三三	一三・七	一三・七	一三・七	一三・七
忠 清 南 道	一、三三三	一〇・〇	六・五	一〇・二	六・五	六・五	六・五	六・五	六・五
全 羅 北 道	一、一五八	六・七	五・四	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四
全 羅 南 道	九、四六六	五・一	五・九	五・八	四・七	四・七	四・七	四・七	四・七
慶 尙 北 道	二、一八八	八・五	一、〇三三	一〇・三	七・七	六・三	六・三	六・三	六・三
慶 尙 南 道	二、〇〇〇	七・三	四・九	七・六	四・九	七・六	七・六	七・六	七・六
黃 海 道	二、九四一	一三・〇	一、〇三三	一三・三	一、〇三三	一三・七	一三・七	一三・七	一三・七

平安南道	二、七五	一、六五	一、六〇	一、三三	一、五五
平安北道	三、五五	一、六〇	一、九八	一、四二	三、一九
江原道	三、六九	二、一一	一、五五	一、一五	一、一一
咸鏡南道	一、八五	九、三	一、三六	二、七	五、八
咸鏡北道	七、六	九、八	五、〇	二、四	八、二

第二 離 婚

一、總數 朝鮮に於て昭和十年に行はれた離婚は内地人九六件、朝鮮人五、三三六件、外國人一件、計五、三三三件で一日平均一五件に當り人口千人に付〇・二四の割合である。之を前年に比較すると實數に於ては一八六件増加したが、割合に於ては増減ない。尙婚姻手が付四三・二で前年に比し〇・八を増加してゐる。

最近十年間に於ける人口千人に對する離婚の割合を觀ると年により多少の高低はあるが漸次減少してゐる。

年 別	總數	内地人	朝鮮人	外國人	人口千人に付
昭和元年	七、一〇	二、五	六、八八	一	〇・二六
同 二 年	九、一一	三、二	六、九	一	〇・二七

同 三 年 八、五二 一、二九 八、二二 〇・二四  
 同 四 年 八、一〇 一、八 八、〇二 〇・二五  
 同 五 年 九、〇七 二、七 八、八〇 〇・二五  
 同 六 年 八、〇二 一、五 七、八六 〇・二四  
 同 七 年 六、七三 二、六 六、四六 〇・二四  
 同 八 年 五、八七 二、五 五、七二 〇・二六  
 同 九 年 五、一七 八、五 五、〇〇 〇・二四  
 同 十 年 五、三三 九、八 五、三三 〇・二四

二、道 別 昭和十年に於ける離婚を道別に觀ると最も多いのは黄海の五九七件で、慶南の五七三件、全南の五一七件、京畿の五一五件、之に亞ぎ、最も少いのは咸北の六七件で、忠北の三〇九件及忠南の三一六件に亞いでゐる。尙人口千人に對する離婚の割合を觀ると、最高は黄海の〇・三七で忠北の〇・三四之に亞ぎ、最低は咸北の〇・〇八で慶北の〇・一八之に亞いでゐる。各道の離婚率を前年に比較すると増加したもの七箇所、減少したもの五箇所、變動ないもの一箇所、増加の最も著しいのは忠北の〇・〇六、減少の最も著しいのは平南で〇・〇五である。

年 別	總數	内地人	朝鮮人	外國人	昭和十年	昭和九年	比較増(減)
全 道	五、三三	九、六	五、三六	一	〇・二四	〇・二四	〇・〇〇
京 畿 道	五、五	二、四	五、〇一	一	〇・三三	〇・三三	〇・〇〇
忠 清 北 道	三、〇九	五	三、〇九	一	〇・二四	〇・二四	〇・〇〇

忠清南道	三八	三	五二	0.33	0.18	0.02
全羅北道	四四	三	五二	0.31	0.11	0.01
全羅南道	五七	七	五二	0.31	0.23	0.02
慶尙北道	四七	七	四〇	0.28	0.12	0.01
慶尙南道	五三	七	四一	0.28	0.14	0.01
黃海道	五七	一	五九	0.32	0.15	0.01
平安南道	四二	一	四二	0.30	0.13	0.02
平安北道	四五	一	四二	0.29	0.14	0.01
江原道	四四	一	四二	0.29	0.14	0.02
咸鏡南道	四六	一	四三	0.31	0.13	0.01
咸鏡北道	四七	一	四三	0.29	0.13	0.02

三年齡別 昭和十年に於ける結婚の年齡別を先づ夫に就て觀ると内地人は二五・二九歳のものが多く、三八・五%を占め、三〇・三四歳の二〇・八%及三〇・一四歳の一八・七%之に過ぎ、朝鮮人は二〇・二四歳の二七・九%最も多く、二五・二九歳二二・一%及三〇・三四歳の一六・一%之に多いのである。之を婚姻の場合と比較して觀ると内地人共結婚の多い歳は離婚の多い歳となつてゐる。

總數	内地		朝鮮人	
	數	百分比	數	百分比
一七歳未満	一	一〇〇	一六	一〇・〇
一七・一八歳	一	一	二六	一・四
一八・一九歳	一	一	五二	二・六
二〇・二四歳	一六	一・七	一、四五九	三七・九

次に妻に就て觀ると内地人は二五・二九歳最も多く總數の三四・四%を占め、二〇・二四歳の三〇・二%及三〇・一四歳の一六・六%之に過ぎ、朝鮮人は二〇・二四歳の三〇・五%最も多く、一五・一八歳の二五・九%及二五・二九歳の二〇・三%之に多いのである。之を婚姻の場合と比較して觀ると、内地人共に離婚の多い年齢は婚姻の多い年齢より一階級上位になつてゐる。

内地人	朝鮮	妻の年齢	
		實數	百分比
總數	實數	百分比	
一五歳未満	一八三	一〇・〇	四〇—四九歳
一五—一九歳	一五三	一五・五	五〇—五九歳
二〇—二四歳	一九九	一〇・五	六〇歳以上
二五—二九歳	二〇三	一〇・五	
三〇—三九歳	二二一	一〇・五	
四五—四九歳	二二一	一〇・五	
五〇—五九歳	二二一	一〇・五	
六〇歳以上	二二一	一〇・五	

更に夫妻相互の年齢を組合せて觀ると、内地人は夫の二五—二九歳と妻の二〇—二四歳及夫妻共に二五—二九歳のもの最も多く、何れも總數の一割六分を占め、夫妻共に二〇—二四歳の九分之二に過ぎ、朝鮮人は夫妻共に二〇—二四歳の一割三分最も多く、夫の二〇—二四歳と妻の一五—一九歳の一割一分及夫の二五—二九歳と妻の二〇—二四歳の一割が之に強いである。

内地人	朝鮮	夫の年齢	
		實數	百分比
總數	實數	百分比	
一五歳未満	一八三	一〇・〇	四〇—四九歳
一五—一九歳	一五三	一五・五	五〇—五九歳
二〇—二四歳	一九九	一〇・五	六〇歳以上
二五—二九歳	二〇三	一〇・五	
三〇—三九歳	二二一	一〇・五	
四五—四九歳	二二一	一〇・五	
五〇—五九歳	二二一	一〇・五	
六〇歳以上	二二一	一〇・五	

妻の年齢	夫の年齢	總數	一七歳	一八歳	一九歳	二〇歳	二一歳	二二歳	二三歳	二四歳	二五歳	二六歳	二七歳	二八歳	二九歳	三〇歳	三一歳	三二歳	三三歳	三四歳	三五歳	三六歳	三七歳	三八歳	三九歳	四〇歳	四一歳	四二歳	四三歳	四四歳	四五歳	四六歳	四七歳	四八歳	四九歳	五〇歳	五一歳	五二歳	五三歳	五四歳	五五歳	五六歳	五七歳	五八歳	五九歳	六〇歳以上						
總數	總數	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇以上							
一五歳未満	一五歳未満	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇以上					
一五歳—一九歳	一五歳—一九歳	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇以上					
二〇歳—二四歳	二〇歳—二四歳	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇以上										
二五歳—二九歳	二五歳—二九歳	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇以上					
三〇歳—三四歳	三〇歳—三四歳	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇以上
三五歳—三九歳	三五歳—三九歳	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇以上					
四〇歳—四四歳	四〇歳—四四歳	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇以上
四五歳—四九歳	四五歳—四九歳	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇以上					
五〇歳—五九歳	五〇歳—五九歳	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇以上

一 總數 昭和十年末に於ける配偶數は内地人二二二、一八八組、朝鮮人四、六六八、三一組、外國人七、六一組、計四、七九八、七三〇組で人口千人に付有配偶者は四三八人に當る、之を前年末に比

較すると實數に於ては一〇五、八九五組を増加したが、人口千人に對する有配偶者の割合は六人を減少した。

有配偶者の割合を最近十箇年間に就て觀ると概して漸減の傾向があ

人口千人に付有配偶者

昭和元年 二二、一八八

昭和十年 二二、一八八

昭和二年 二二、一八八

昭和十年 二二、一八八

昭和四年 二二、一八八

昭和十年 二二、一八八

昭和六年 二二、一八八

昭和十年 二二、一八八

昭和八年 二二、一八八

昭和十年 二二、一八八

昭和十年 二二、一八八

昭和十年 二二、一八八



二道別 昭和十年末に於ける人口千人に對する有配偶者の割合を  
道別に觀ると最高は忠北の四六三人で江原の四六二人之に次ぎ、最低  
は慶南の四一三人で全南の四二二人之に次いでゐる。

各道の有配偶者の割合を前年末に比較すると咸北の二人増加したの  
を除き他の各道は何れも減少してゐる。

道 別	年	總 數	内 地 人	朝鮮人	外國人	昭和十年末	昭和九年末	比較増(減)
全 道	五 年	四、八三、四一〇	一、二、一、六八八	四、六六、九三三	七、六二二	四、八六	四、八六	△
同	六 年	四、七九、九八一	九、九、九七九	四、六九、三〇〇	一、一、一六	四、八六	四、八六	△
同	七 年	四、六三、五九六	一、一、一、〇〇〇	四、五二、九七九	一、一、一六	四、八六	四、八六	△
同	八 年	四、六三、六六七	一、一、一、〇〇〇	四、五二、九七九	一、一、一六	四、八六	四、八六	△
同	九 年	四、六三、八三五	一、一、一、〇〇〇	四、五二、九七九	一、一、一六	四、八六	四、八六	△
同	十 年	四、八三、四一〇	一、二、一、六八八	四、六六、九三三	七、六二二	四、八六	四、八六	△
咸 北 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
忠 清 北 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
忠 清 南 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
京 畿 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
全 羅 北 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
全 羅 南 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
慶 尙 北 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
慶 尙 南 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
黃 海 北 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
黃 海 南 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
平 安 北 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
平 安 南 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
江 原 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△
江 原 道	五 年	一、〇八、五九六	一、一、一、〇〇〇	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	一、〇八、五九六	△

第四 内地人と朝鮮人との配偶数

一 總數 朝鮮に於ける昭和十年末現在の内地人と朝鮮人との配偶数は、一、〇三八組で此の中一九組は同年中に婚姻したものである。配偶の種類別は「内地人で朝鮮婦人を妻とするもの」六〇一組、「朝鮮人で内地婦人を妻とするもの」三九一組、「朝鮮人で内地人の家に入婿したもの」四〇組、「内地人で朝鮮人の家に入婿したもの」六組である。

最近十年間の趨勢を觀ると昭和元年末以來漸次増加し、同十年末は元年末の二倍餘になつてゐる。

年 別	總 數	内地人で朝鮮婦人を妻とするもの	朝鮮人で内地婦人を妻とするもの	内地人の家に入婿したもの	朝鮮人の家に入婿したもの
昭和元年	四九九	三三	二九	一	一
同 二年	四九九	三三	二九	一	一
同 三年	五三七	三六	三二	二	二
同 四年	六二五	三〇	二七	一	一
同 五年	七六六	三八	三〇	一	一
同 六年	八五三	四二	三六	一	一
同 七年	八五四	四二	三六	一	一
同 八年	一、〇三九	五九	三七	一	一
同 九年	一、〇一四	六〇	三七	一	一

二 道別 昭和十年末に於ける内地人と朝鮮人との配偶数を道別に觀ると京畿の一八三組最も多く、慶南の一四五組、全南及慶北の八組之に亞ぎ、忠北の一八組が最も少い。

道 別	總 數	内地人で朝鮮婦人を妻とするもの	朝鮮人で内地婦人を妻とするもの	内地人の家に入婿したもの	朝鮮人の家に入婿したもの
全 鮮	一、〇六六	三三	二九	一	一
京 畿 道	一、一三	三三	二九	一	一
忠 清 北 道	一、〇六	三三	二九	一	一
忠 清 南 道	一、〇六	三三	二九	一	一
全 羅 北 道	一、〇七	三三	二九	一	一
全 羅 南 道	一、〇八	三三	二九	一	一
慶 尙 北 道	一、〇八	三三	二九	一	一
慶 尙 南 道	一、〇五	三三	二九	一	一
黃 海 道	一、〇六	三三	二九	一	一
平 安 南 道	一、〇六	三三	二九	一	一

江原道	一	三	一	一
咸鏡南道	(一)	六	(一)	一
咸鏡北道	一	五	一	一

備考 括弧内は昭和十年に結婚せるものである。

三 職業別 昭和十年末に於ける内地人と朝鮮人との配偶数を職業別に別ると、商業及交通業の三三六組最も多く、公務及自由業の二五四組が之に次いでゐる。

職業別	總數	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
總數	一、〇六六	六二二	一、四二二	一、〇三〇	一、〇三〇
農林及牧畜業	(一)	五	一	一	一
漁業及製鹽業	一	九	一	一	一
工業	(一)	三	一	一	一
商業及交通業	(七)	一六	一六	一	一
公務及自由業	(三)	一	一	一	一
其の他の有業者	(四)	一	一	一	一

無及被 業を申 せざる者	(一)	一	(一)	一
--------------------	-----	---	-----	---

備考 括弧内は昭和十年に結婚せるものである。

## 出 産

### 第一 出産總數

朝鮮に於ける昭和十年の出産即ち出生と死産との合計は六四五、四三七人であつて、其中出生は六四〇、五六八人(出産總數の九九・二%)、死産は四、八六九人(〇・八%)を占めてゐる。之を既往十年間に付て觀ると、甚だ微少ではあるが、出生の割合は漸次減少し、死産の割合は増加の傾向を示してゐる。

年次	出 産 實 數		出 産 百 に 付	
	總數	死 産	出 生	死 産
昭和元年	六、〇〇三	二、八二六	九八・四	〇・六
昭和二年	七、〇一八	三、六八八	九八・五	〇・五
昭和三年	七、五二四	三、二九四	九八・五	〇・五
昭和四年	七、五七六	三、一七九	九八・五	〇・五
昭和五年	七、七〇〇	三、二七〇	九八・四	〇・六
昭和六年	七、三二〇	三、一八二	九八・四	〇・六
昭和七年	六、三、九二四	二、八三七	九八・三	〇・七
昭和八年	六、八、五九七	二、八五三	九八・二	〇・八

昭和九年	六三、四二一	六九、四七九	九二・二	〇・八
昭和十年	六四、四三七	六四、五六八	九二・三	〇・八

第二出生

一 總數 朝鮮に於ける昭和十年の出生は六四〇、五六八人内、内地人は一四、一三九人、朝鮮人は六二五、九七九人、外國人は四五〇人、一日平均一、七五五人に當り、出生率は人口千に付二九・二六である。之を前年に比較すると實數に於ては一一、〇九二人を増加したが、率に於ては〇・五四を減少した。尙内地に於ける出生率は三二・六三であるから、朝鮮は之に比し稍々低率である。出生率を既往十箇年に付て觀ると最高は昭和五年の三八・二二、最低は昭和八年の二九・〇二で平均三三・八九である。

年	總數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮内地	人口千に付
昭和元年	六七六、一七六	一〇、五三二	六五、六〇四	五五	五五・九	三三・七
昭和二年	六九八、一八九	一〇、九七五	六八、七四二	九七	五八・四	三三・六
昭和三年	七二五、九七五	一〇、八九七	七〇、五五八	一三九	五九・六	三三・八
昭和四年	七三〇、一七九	一〇、八五五	七二、一三三	一八九	五九・七	三三・九
昭和五年	七三三、一七〇	一一、四三二	七三、六三〇	二五九	五九・三	三三・六
昭和六年	七二七、八二二	一一、八三三	七〇、九〇九	一五二	五八・四	三三・七
昭和七年	六八八、二七七	一二、七五三	六〇、四三三	一五〇	五八・〇	三三・三
昭和八年	六〇五、四〇七	一二、〇九一	五〇、〇三三	一八一	五七・三	三二・五
昭和九年	六二九、四七九	一二、四九八	六二、五五九	三九八	五九・九	三三・八
昭和十年	六四、四三七	一二、五五七	六四、四三七	三九八	五九・九	三三・八

二 道別 昭和十年の出生を道別に觀ると最も多いのは京畿の七三、九〇二人で、慶南の六九、八二六人及慶北の六四、七三三人に次ぎ、最も少いのは咸北の二二、六五〇人で、忠北の二四、九五〇人が之に次いでゐる。尙人口千に對する割合を觀ると最高は平北の三四・四六で、黄海の三三・三三及江原の三三・九二に次ぎ、最低は全南の二四・二五で、之に次いで全北の二五・五〇及慶北の二六・二二等比較的低い方である。各道の出生率を前年に比較すると京畿の一・五〇及慶北の〇・〇五増加したのを除き他の各道何れも減少して居るが其の最も著しいのは咸南の二・七の減少である。

道	實數	昭和十年	昭和九年	比較増減
全 鮮	六四〇、五六八	二九・八〇	二九・八〇	△ 〇・〇〇
京 畿	七三、九〇二	三二・七二	三二・〇三	△ 〇・六九
忠清北道	二四、九五〇	二七・三三	二七・六八	△ 〇・三五
忠清南道	三九、八六〇	二七・三三	二七・三三	△ 〇・〇〇
全羅北道	二九、一五八	二五・五〇	二七・一〇	△ 一・六〇
全羅南道	二八、四三三	二四・三三	二四・九四	△ 〇・六〇
慶尙北道	六四、七三三	二六・二二	二六・一六	△ 〇・〇六
慶尙南道	六八、八二六	二六・二二	二六・一六	△ 〇・〇六
黄 海	五八、九八九	二五・五五	二五・五五	△ 〇・〇〇
平安南道	四一、九三三	二九・七五	三二・〇〇	△ 一・二五
平安北道	五五、七四六	三三・九二	三三・九二	△ 〇・〇〇
江 原 道	五〇、三三三	三三・九二	三三・九二	△ 〇・〇〇

成鏡北道 三、五〇 三六、九 五、七五 △一、六

三 體性別 昭和十年の出生六四〇、五六八人の中男は三四〇、一八七人、女は三〇〇、三八一人で女百に付男一一・三である。之を前年に比較すると〇・三の増加で、尙内地に於ける一〇五・一に比較すると、朝鮮は男超過の割合が著しく高い、此割合を既往十年間に就て觀ると年に依り多少の高低はあるが男は常に一一〇・〇以上の割合を示してゐる。

	實 數		女百に付	
	男	女	朝鮮	内地
昭和元年	三六、一三三	三三、〇五五	一一四・六	一〇五・八
昭和二年	三六、六七五	三三、六二四	一一三・八	一〇五・七
昭和三年	三八、三三五	三八、三九六	一一三・三	一〇五・四
昭和四年	三八、七〇〇	三三、四七九	一一三・六	一〇五・〇
昭和五年	四〇、四八六	三八、八八三	一一二・一	一〇五・三
昭和六年	三九、六六一	三八、〇三二	一一二・四	一〇五・三
昭和七年	三九、六六三	三八、四四五	一一四・二	一〇五・〇
昭和八年	三三、〇七九	三六、三三八	一一四・五	一〇五・三
昭和九年	三三、八八九	三六、五七七	一一三・〇	一〇五・三
昭和十年	三三、一六八	三〇、六六一	一一四・三	一〇五・一

四 月別 昭和十年に於ける出生を月別に觀ると、各月平均一日の出生は十二月に最も多く十一月、二月、三月順次に続き、其他九月、十月も比較的多く、何れも一年平均以上を示し、之に反し最も少いのは六月で一月、五月も比較的少い。

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
實 數	四六、〇五五	五二、〇三三	五七、四四四	五三、六五五	四八、一二四	四三、九七四	四九、〇八五	五三、三四六	五八、七七七	六二、四六六	六八、八六六
一年平均一日の出生百に付各月の出生	八五・八	一〇九・八	一二五・六	一二五・六	一二五・六	一二五・六	一二五・六	一二五・六	一二五・六	一二五・六	一二五・六

### 第三 死 産

一 總 數 朝鮮に於ける昭和十年の死産は四、八六九人、内地人は九三一人、朝鮮人は三、九二二人、内地人一六八〇で一年平均一三人に當り、死産率は人口千に付〇・二三である。之を前年に比較すると實數に於ては一〇四人を増加したが、率に於ては〇・〇一の減少を示した。尙内地に於ける死産率一・六六（昭和九年）に比較すると、朝鮮は著しく低く、其の二割にすら達しない。死産率を既往十年間に就て觀ると、最高は昭和八年の〇・二四、最低は昭和二、三、四各年の〇・一九で平均〇・二二である。

年 別	實 数	人口千に付		
		朝鮮人	外國人	朝鮮内地
昭和元年	三、八二六	三、八二六	三	〇・〇〇
昭和二年	三、六六四	三、六六四	八	〇・〇一
昭和三	三、六三〇	三、六三〇	八	〇・〇一
昭和四年	三、九七七	三、九七七	六	〇・〇一
昭和五年	四、四三〇	四、四三〇	〇	〇・〇一
昭和六年	四、三三八	四、三三八	二	〇・〇一
昭和七年	四、五三七	四、五三七	五	〇・〇一
昭和八年	四、九三三	四、九三三	五	〇・〇一
昭和九年	四、七五五	四、七五五	三	〇・〇一
昭和十年	四、八六九	四、八六九	一六	〇・〇一

二道 別 昭和十年の死産を道別に観ると最も多いのは京畿の一、二六三人で、平北の七三九人及平南の六九二人に次ぎ、最も少いのは忠北の九四人で、全南の一〇〇人及忠南の一〇五人が之に並んでゐる。尚人口千人に對する割合を觀ると最高に京畿の〇・五四で、黄海の〇・四九及平北の〇・四六に次ぎ、最低は全南の〇・四四で、之に並んで慶北及忠南の〇・〇七、忠北及平北の〇・一一の順位が低い方である。各道の死産率を前年に比較すると増加したものは五道、減少したものは六道、變動のないものは二道で、變動の重なるものは京畿に於ける〇・〇六の増加及平南に於ける〇・〇七の減少である。

年 別	實 数	人口千に付		
		男	女	死産 出生
昭和元年	三、八二六	三、八二六	三、八二六	三、八二六
昭和二年	三、六六四	三、六六四	三、六六四	三、六六四
昭和三年	三、六三〇	三、六三〇	三、六三〇	三、六三〇
昭和四年	三、九七七	三、九七七	三、九七七	三、九七七

三 性別別 昭和十年の死産四、八六九人の中男は二、七三四人、女は二、一三五人で、女に對男一二・八一である。尙内地に於ける一二・二〇（昭和九年）に比較すると朝鮮は男超過の割合が著しく高い。尙之を出生の女に對男一二・三三に比較すると男超過の割合は遙かに高く、既に十四年に就て觀ると又同様の現象を示してゐる。

昭 和 五 年 二、四八五 一九四五 二七・八 一一  
 昭 和 六 年 二、四八五 一八六五 二五・一 一二  
 昭 和 七 年 二、五五七 二、〇〇〇 二五・九 一二  
 昭 和 八 年 二、八〇三 二、一五〇 二五・三 一二  
 昭 和 九 年 二、六四七 二、一八〇 二五・〇 一二  
 昭 和 十 年 二、七三三 二、二五五 二五・五 一二

四 月 別 昭和十年に於ける死産を月別にみると、各月平均一日の死産は二月に最も多く、九月、十二月、十月、一月順次に過ぎ、何れも一年平均以上を示してゐる、之に反し最も少いのは四月で五月が之に強いである。

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
四三	四三	四二	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四
平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産	平均一日の死産
一〇・〇・一	一〇・〇・一	九・九・七	九・九・七	九・八・五	九・八・五	九・八・五	九・八・五	九・八・五	九・八・五	九・八・五	九・八・五
一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五	一〇・四・五

## 死 亡

一 總 数 朝鮮に於ける昭和十年の死亡は四三〇・六九八人、内地人は八、八八四人、朝鮮人は四二一、四四四人、外國人は三七〇人で、一日平均一、一八〇人に當り、死亡率は人口千に付一九・六七である。之を前年に比較すると實數に於て二三、四三五人、率に於て〇・三九を増加した。内地に於ける死亡率は一六・七八であるが、朝鮮は之に比し稍々高率である。死亡率を既往十箇年に付て觀ると最高は昭和四年の二三・八九、最低は昭和五年の一八・八五で平均二〇・七八である。

昭 和 元 年	昭 和 二 年	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	昭 和 六 年	昭 和 七 年	昭 和 八 年	昭 和 九 年	昭 和 十 年
總 数	總 数	總 数	總 数	總 数	總 数	總 数	總 数	總 数	總 数
内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人	内地人
朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人	朝鮮人
外國人	外國人	外國人	外國人	外國人	外國人	外國人	外國人	外國人	外國人
人口千に付	人口千に付	人口千に付	人口千に付	人口千に付	人口千に付	人口千に付	人口千に付	人口千に付	人口千に付
四三〇・六九八	四二一、四四四	四二一、四四四	四二一、四四四	四二一、四四四	四二一、四四四	四二一、四四四	四二一、四四四	四二一、四四四	四二一、四四四
八、八八四	八、八八四	八、八八四	八、八八四	八、八八四	八、八八四	八、八八四	八、八八四	八、八八四	八、八八四
三七〇	三七〇	三七〇	三七〇	三七〇	三七〇	三七〇	三七〇	三七〇	三七〇
一九・六七	一九・六七	一九・六七	一九・六七	一九・六七	一九・六七	一九・六七	一九・六七	一九・六七	一九・六七

二 道別 昭和十年に於ける死亡を道別に観ると、最も多いのは京畿の四九、三八八人で、慶北の四八、一六八人之に亞ぎ、最も少いのは成北の一八、四六七人で、忠北の一九、三八九人が之に亞いでゐる。尙人口千に對する割合を観ると、最高は平北の二六・九〇で、江原の二三・八九及成北の二三・三二に亞ぎ、其の他平南・忠北・京畿及成南も相亞いで死亡率高く何れも全鮮平均以上である。最低は全南の一三・五六で、之に亞いで全北の一三・八〇・忠南の一七・五三等比較的低い方である。各道の死亡率を前年に比較すると増加したもの七箇道、減少したもの六箇道で、増加の最も著しいのは平北の四・四一、減少の最も著しいのは黄海の二・二五である。

道	實數	人口千に付		比較増減(△減)
		昭和十年	昭和九年	
全 鮮	四三〇、六九八	一九、六六七	一九、六六	〇・〇九
京 畿 道	四九、三八八	三二・九	三三・〇三	△〇・一三
忠清北道	一九、四六九	二二・二	一八・三三	二・九
忠清南道	二五、七五八	一七・五五	一五・八	一・五五
全羅北道	二二、一九〇	二五・八〇	二五・〇一	△一・三
全羅南道	三三、六七三	一五・九六	二二・九	一・一七
慶尙北道	四八、一六八	一九・五二	一八・六七	〇・八五
慶尙南道	四一、三四九	一八・八七	一九・三五	△〇・六
黄 海 道	四〇、〇七八	一八・五七	二〇・三	△二・五
平安南道	三二、三二	二二・二六	二〇・三	一・四四

江 原 道 四六、五四五 二五・八九 二四・〇五  
 咸 鏡 南 道 三三、九六四 二〇・五九 三・六六 △二・〇  
 咸 鏡 北 道 一八、四六七 一五・三二 三・三三 二・七  
 三 體 性 別 昭和十年に於ける死亡者四三〇、六九八人中、男は二三一、七五五人、女は一九八、九四三人で女百に付男は二一六・五に當り、前年に比し〇・一を増加した。尙内地に於ける此の割合は一〇・八であるから、朝鮮では男の死亡者が女に比し著しく多いことが窺はれる。而して男女各性人口千に付男の死亡者は二〇・八、女の死亡者は一八・五であつて、死亡率に於ても男は女より高い。

年	實 數		女百に付男		各性人口千に付	
	男	女	朝鮮	内地	男	女
昭和元年	三〇六、〇〇〇	一八、六三三	二五・五	一〇・六〇	三二・七	一九・五
昭和二年	二八、七五	一九、三九〇	二五・七	一〇・五八	三三・五	二〇・六
昭和三年	三〇、二九	三〇、一五九	二五・三	一〇・七〇	三三・五	二〇・七
昭和四年	三三、八〇八	二六、九三	二五・九	一〇・五〇	三三・八	二〇・九
昭和五年	三〇、一六四	一七、七二五	二六・一	一〇・五五	一九・九	一七・八
昭和六年	三九、三三〇	一九、一八八	二四・七	一〇・七三	二二・三	一九・三
昭和七年	三三、八七二	二五、六六六	二四・一	一〇・六九	二五・五	二二・一
昭和八年	三三、〇九〇	一八、三三三	二五・五	一〇・五五	二〇・五	一八・三
昭和九年	二九、〇三	一八、二〇一	二六・四	一〇・七五	二〇・四	一八・一
昭和十年	三二、七五	一九、九四三	二六・五	一〇・八一	二〇・八	一八・五

四月 調 昭和十年の死亡を月別に観ると、各月平均一日の死亡者は二・二五と多く四月、二月、五月、一月、六月順次に並べ何れも一



年平均以上を示し、之に反し最も少いのは十月で十一月、九月、十二月が之に強いである。即ち死亡は一月より漸次増加し三月に最も多く、四月より減少を續けて十月に最も少く、十一月、十二月は再び増加してゐる。

一 月  
二 月  
三 月  
四 月  
五 月  
六 月  
七 月  
八 月  
九 月

實 數

一年平均一日の  
死亡百に日各月  
平均一日の死亡

一 月	七、七〇	二〇・四
二 月	七、〇五七	二二・六
三 月	四、二二三	二〇・八
四 月	三、七六四	二〇・八
五 月	四、〇九二	二〇・六
六 月	三、〇四五	二〇・八
七 月	三、一八一	一九・三
八 月	三、三六九	一九・五
九 月	三、六三三	二一・八

十 月  
十一 月  
十二 月

三六、六〇  
二六、八四〇  
三六、九三

二、六〇  
五、八三  
九、五〇

五年齡別 昭和十年の死亡者を年齢階級別に観ると、五歳未満の小兒は死亡總數の四割九厘（内〇歳の者は一割二分二厘）を占めて最も多く五―九歳は急激に減少して六分八厘、一〇―一四歳は更に低下して三分二厘となり、一五―一九歳は各年齢階級を通じて最も少く二分九厘を示してゐる。二〇―二四歳は稍々増加して三分五厘となるが、二五歳よりは再び減少して、二五―二九歳、三〇―三四歳、三五―三九歳は何れも三分二厘を示してゐる。而して四〇―四九歳は五分六厘を示し、五〇―五九歳は稍々増加して六分三厘、六〇―六九歳は更に増加して八分八厘となるが、七〇歳以上は漸次減少して七〇―七九歳は八分四厘、八〇歳以上は三分八厘となつてゐる。

再掲	總數	實 數		千 分 比	
		男	女	男	女
〇―四歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
五―九歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
十―一四歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
一五―一九歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
二〇―二四歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
二五―二九歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
三〇―三四歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
三五―三九歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
四〇―四九歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
五〇―五九歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
六〇―六九歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
七〇―七九歳	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇
八〇歳以上	一七九、三三九	一三三、七五五	一六、八八四	一、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇

一〇——一四歳	一五、五五	七、四三	六、四二	三、四七	四〇	三、三三
一五——一九歳	二五、六六	六、一七	六、七九	三、六八		三、六八
二〇——二四歳	四九、六二	七、四二	七、四九	三、七二		三、七二
二五——二九歳	四八、七一	七、九三	六、七九	三、五一		三、五一
三〇——三四歳	一四、七五	七、九〇	六、六五	三、四五		三、四五
三五——三九歳	一三、九六	七、九四	六、六五	三、七六		三、七六
四〇——四九歳	四四、九七	一四、〇六	一〇、一一	五、八二		五、八二
五〇——五九歳	三〇、四〇	一六、四六	一三、七九	六、一四		六、一四
六〇——六九歳	七、六四	一、一六	一、九六	〇、七六		〇、七六
七〇——七九歳	六、〇六	八、七三	七、五二	八、七三		八、七三
八〇歳以上	一六、二八	七、七二	八、五九	七、七二		七、七二
年 齢 不 詳	九、二	五、〇	五、三	五、三		五、三

更に昭和十年に於ける男女の死亡者を年齢別に比較してみると、女に對する男の割合は五歳未満及五〇——五九歳を山とし、一五——一九歳及八〇歳以上を谷とする波狀を形成してゐる。即ち五歳未満に於ては女百に付男一一・八・二七で、其れより年齢の長するに従ひ男の割合は遞減し、一五——一九歳に於ては男は女より遙かに少く九六・二一を示してゐる。而して二〇歳以上は男の割合漸次増加し、五〇——五九歳は一五二・六四の高率に達してゐるが、六〇歳以上は再び低下し、八〇歳以上は八九・四六に低下してゐる。

總 數	〇——一四歳	一五——一九歳	二〇——二四歳	二五——二九歳	三〇——三四歳	三五——三九歳	四〇——四九歳	五〇——五九歳	六〇——六九歳	七〇——七九歳	八〇歳以上	年 齢 不 詳
女百に付男	一一・八・二七	九六・二一	一五二・六四	一〇一・一六	一〇、一一	一三、七九	一六、四六	一、一六	八、七三	七、五二	八、五九	五、三

九八・〇七  
一〇四・六三  
一〇九・〇五  
一一四・二四  
一二九・〇八  
一五三・六四  
一二四・四五  
一〇六・〇六  
八九・四六  
一五二・七〇

CD-III

## 類別に観ると消化

宗廟の一割七分四  
、感目の七分五  
の七割六分餘を出

千分比例  
1,000:33  
500:16  
250:8  
125:4  
62.5:2

第一	一・一・七
第二	一・〇・一
第三	一三・一・六
第四	一三〇・二・五
第五	四三・五
第六	七・五・八
第七	二・五・七
第八	一〇・〇・七
第九	二・五・七
第十	四〇・九・五
第十一	七・五・八
第十二	二・五・七
第十三	一〇・〇・一
第十四	一六六・〇・五
第十五	一・一・七
第十六	九・七・七
第十七	一五・七・五
第十八	一・〇・一
第十九	一〇・〇・一
第二十	一・五・七

# 人口動態

昭和十一年

出生、出生、死産

(昭和2年～昭和11年)

5.43 16.28

5.61 22.41

5.25 9.90

10.28 33.38

11.37 47.66

9.14 18.29

10.75 33.79

11.59 44.75

9.88 22.59

18.38 54.50

19.10 67.06

17.63 41.17

17.06 54.85

17.14 77.25

16.98 32.29

25.23 78.79

27.09 101.39

23.33 55.58

342.34 1197.58

# 昭和十一年の出産

文 書 課

## 第一 出 産 總 數

朝鮮に於ける昭和十一年の出産即ち出生と死産との合計は六三五、四八八人であつて、其中出生は六三〇、四九〇人(出産總數の九九・二%)、死産は四、九八八人(〇・八%)となつてゐる。之を既往十年間に付て觀ると、甚だ微少ではあるが出生の割合は漸次減少し死産の割合は増加の傾向を示してゐる。

37

昭 和 二 三 四 五 六 七 八 九 年	出 産 實 數			出 産 百 に 付	
	總 數	出 生	死 産	出 生	死 産
同 二 年	七〇一、八五三	六九六、一八九	三、六六四	九八・五	〇・五
同 三 年	七五二、二四	七二一、五九四	三、六四〇	九八・五	〇・五
同 四 年	七三三、七六	七〇三、一七九	三、五九七	九八・五	〇・五
同 五 年	七六、七〇〇	七三、二七〇	四、四三〇	九八・四	〇・六
同 六 年	七三、三〇〇	七〇、八八三	四、三三八	九八・四	〇・六
同 七 年	六二、九二四	六〇、二七七	四、六四七	九八・三	〇・七
同 八 年	六〇、三九九	五七、四〇七	四、九五三	九八・三	〇・八
同 九 年	六四、二四一	六二、四七六	四、七六五	九八・二	〇・八

同 十 年  
同 十 一 年

六四、四七  
六三、四八

六四、五八  
六三、四九

四、八六  
四、九六

九・三  
九・二

〇・八  
〇・八

## 第二 出生

一、總數 朝鮮に於ける昭和十一年の出生は六三〇、四九〇人（内、内地人は一四、五六四人、朝鮮人は六一五、三八一一人、外國人は五四五人）で一日平均一、七二七人に當り、出生率は人口千に付二八・六〇である。之を前年に比較すると實數に於ては一〇、〇七八人を減少し、率に於ても〇・六六を減少した。

尙内地に於ける出生率は三一・六三であるから朝鮮は之に比し稍々低率である。

出生率を既往十箇年に付て觀ると、最高は昭和五年の三八・一二、最低は昭和十一年の二八・六〇で平均二三・二二である。

年	實 數				人口千に付	
	總 數	内地人	朝鮮人	外國人	朝鮮	内地
昭和二年	六八、八八	一〇、九五〇	六七、四三	九七	二六・四八	三三・六一
同 三 年	七二、九四	一〇、八七	七〇、五八	一三九	二七・六〇	三四・八八
同 四 年	七〇、七九	一〇、八五五	七九、三三	一八九	二七・七七	三三・〇〇
同 五 年	七五、七〇	一一、四三三	七六、六三	二六六	二八・二三	三三・六六
同 六 年	七七、八八	一一、八二五	七〇、九六	一三一	二五・四三	三三・一七
同 七 年	六八、七七	一三、七五二	六四、二五	三五四	二〇・〇〇	三三・五二

同	八	年	六〇、四七	一三、〇二	五九、〇五	元一	元九、〇三	三、五
同	九	年	六二、四七	一三、四六	六二、五七	三九	元九、〇〇	元九、七
同	十	年	六四、五六	一四、二九	六五、九七	四〇	元九、二六	三、六
同	十	年	六三、四九	一四、五八	六五、元一	五四	元八、六〇	三、六

## 二、道別

昭和十一年の出生を道別に観ると最も多いのは京畿の七〇、八七二人で、慶南の六九、三二五人及慶北の六五、八〇五人之に亞ぎ、最も少いのは咸北の二三、七九一人で、忠北の二四、四四四人が之に亞いでゐる。尙人口千に對する割合を観ると、最高は平北の三四・二七で江原の三一・八〇及黄海の三一・三六之に亞ぎ、最低は全北の二四・三二で、之に亞いで全南の二四・四八及咸南の二六・三〇等比較的低い方である。各道の出生率を前年に比較すると、咸北の〇・六四及慶北の〇・六〇に全南・忠南の増加したのを除き他の各道は何れも減少してゐるが、其の最も著しいのは京畿の二・〇八及黄海の一・九七の減少である。

道	實數	人口千に付		道	實數	人口千に付	
		昭和十一年	昭和十年 (△減)			昭和十一年	昭和十年 (△減)
全 鮮	六〇、四七	元一	元九、〇三	慶 尙 南 道	六九、三五	三、三	三、八六
京 畿 道	七〇、八七	元一	元九、〇〇	黄 海 道	五九、三九	三、三	三、七五
忠 清 北 道	二四、四四	二六、五	二六、五	平 安 南 道	四一、二五	元九、〇二	元九、〇二
忠 清 南 道	四〇、三三	二七、三	二七、三	平 安 北 道	五五、五三	三、七	三、八
全 羅 北 道	三七、四七	二五、〇	二五、〇	江 原 道	四八、六〇	三、八〇	三、九三
全 羅 南 道	五九、九五	二四、五	二四、五	咸 鏡 南 道	四三、二四	元九、〇〇	元九、〇〇
慶 尙 北 道	六五、八〇	二六、二	二六、二	咸 鏡 北 道	三三、九一	元九、〇〇	元九、〇〇



## 三、體性別

昭和十一年の出生六三〇、四九〇人の中、男は三三五、〇三四人、女は二九五、四五六人で女百に付男に付男一一・三・四である。之を前年に比較すると〇・一の増加で尙内地に於ける一〇五・二に比較すると朝鮮は男超過の割合が著しく高い。此の割合を既往十年間に就て觀ると年に依り多少の高低はあるが男は常に一一・〇・〇以上の割合を示してゐる。

		實數		女百に付男				實數		女百に付男	
		男	女	朝鮮	内地			男	女	朝鮮	内地
昭和二年		三七、六七五	三六、五四	一二・八	一〇・七	昭和七年		三九、七六二	三八、四九五	一二・三	一〇五・〇
同 三 年		三八、三五	三八、二七九	一二・三	一〇・四	同 八 年		三三、〇七九	六、三八	一二・五	一〇五・二
同 四 年		三六、七〇〇	三四、四七九	一二・六	一〇・〇	同 九 年		三三、八九九	二九五、五七七	一二・〇	一〇四・二
同 五 年		四〇、四八	三六、八三三	一二・二	一〇・三	同 十 年		四〇、八七	三〇〇、八八一	一二・三	一〇五・一
同 六 年		三七、八六一	三八、〇二一	一二・四	一〇・三	同 十一年		三三、〇三四	二九五、四五六	一二・四	一〇五・二
四、月別	昭和十一年に於ける出生を月別に觀ると、各月平均一日の出生は四月に最も多く、三月、十二月、十一月順次に亞ぎ、其他二月、十月、九月も比較的多く、何れも一年平均以上を示し、之に反し最も少いのは一月で六月、五月も比較的少い。										
		實數		一年平均一日の出生百に付各月の出生				實數		一年平均一日の出生百に付各月の出生	
一 月		四、三二		七九・〇〇		三 月		五九、八三三		一一・七六	
二 月		四〇、四		一〇四・七		四 月		六、三六		一一・四三	

五	月	四八、五二	九〇・三	九	月	五三、四五	一〇三・一六
六	月	四四、六六	八六・二	十	月	五五、六〇	一〇三・八九
七	月	四九、七元	九三・九	十一	月	五五、九〇	一〇七・九二
八	月	五三、五五	九〇・九	十二	月	五八、九二八	一一〇・五

### 第三 死 産

一、總數 朝鮮に於ける昭和十一年の死産は四、九九八人(内、内地人は一、〇一八人、朝鮮人は三、九六三人、外國人は一七人)で、一日平均一四人に當り死産率は人口千に付〇・二三である。之を前年に比較すると實數に於て一二九人を増加し率に於ても〇・〇一の増加を示した。

尙内地に於ける死産率一・六七(昭和十年)に比較すると朝鮮は著しく低く其の二割にすら達しない。死産率を既往十年間に就て觀ると、最高は昭和八年の〇・二四、最低は昭和二三四年の〇・一九で平均〇・二二である。

年	實 數			人口千に付		
	總 數	内地人	朝鮮人	朝鮮人	内地人	外國人
昭和二年	三、六四	六三	二、九三	〇・一九	一九・一	
同 三 年	三、二〇	六七	二、九三	〇・一九	一九・三	
同 四 年	三、五九七	七三	二、八四五	〇・一九	一九・六	
同 五 年	四、四三〇	八〇〇	三、六三〇	〇・二三	一八・五	

同	六	年	四、三三八	八元	三、四九五	一四	〇・二一	一・六
同	七	年	四、六三三	八四	三、七六	五	〇・二三	一・八
同	八	年	四、九三三	九六	四、〇三	一五	〇・二四	一・七
同	九	年	四、七六五	八〇	三、九三	三	〇・二三	一・六
同	十	年	四、八六九	九三	三、九三	六	〇・二三	一・七
同	十	年	四、九八	一〇八	三、九三	七	〇・二三	一

## 二、道別

昭和十一年の死産を道別に観ると最も多いのは京畿道の二、二一三人で平北の七七三人及平南の七六〇人之に次ぎ、最も少いのは忠北の七四人で、忠南の一〇三人及全南の一四二人が之に亞いである。尙人口千人に對する割合を観ると、最高は平南の〇・五三で、京畿の〇・五一及平北の〇・四八之に亞ぎ、最低は全南の〇・〇六で、之に亞いで慶北及忠南の〇・〇七、忠北の〇・〇八と全北の〇・一二等比較的低い方である。各道の死産率を前年に比較すると増加したもの七道、減少したもの四道、變動のないもの二道で、變動の重なるものは平南に於ける〇・〇四の増加及京畿に於ける〇・〇三の減少である。

	實 數	人 口 千 に 付			實 數	人 口 千 に 付		
		昭和十一年	昭和十年 (比較増減)			昭和十一年	昭和十年 (比較増減)	
全 鮮	四、九六	0.33	0.33	全 羅 北 道	二八	0.33	0.10	0.01
京 畿 道	一、二三	0.51	0.50	全 羅 南 道	一四	0.66	0.03	0.01
忠 清 北 道	七	0.8	0.10	慶 尙 北 道	一六	0.7	0.04	—
忠 清 南 道	一〇	0.7	0.07	慶 尙 南 道	四四	0.33	0.10	0.01

黄 海 道	二五三	0.15	0.16	0.01	江 原 道	二八八	0.16	0.17	0.01
平 安 南 道	七六〇	0.33	0.49	0.02	咸 鏡 南 道	三六八	0.33	0.33	0.01
平 安 北 道	七三三	0.48	0.48	0.03	咸 鏡 北 道	二四七	0.35	0.29	0.01

### 三、體性別

昭和十一年の死産四、九九八人の中、男は二、七九五、女二、二〇三人で女百に付男は一二六・九人である。尙内地に於ける一一九・三(昭和十年)に比較すると朝鮮は男超過の割合が著しく高い。尙之を生の女百に付男一一三・四に比較すると、男超過の割合が遙かに高く既往十箇年に就て觀ると又同様の現象を示してゐる。

	實 數		女 百 に 付			實 數		女 百 に 付	
	男	女	死 産	出 生		男	女	死 産	出 生
昭 和 二 年	二、〇五七	一、八〇七	二六〇	二三八	昭 和 七 年	三、五七七	三、〇〇〇	一三九	二四・三
同 三 年	一、九七七	一、六三三	二二〇	二二・三	同 八 年	二、八〇三	二、一四〇	一〇・三	二四・五
同 四 年	一、九七七	一、六〇〇	二四八	二二・六	同 九 年	二、六四七	二、一八八	二五〇	二三・〇
同 五 年	二、四六五	一、九四五	二七八	二二・一	同 十 年	三、七四四	三、一五五	二八・一	二三・三
同 六 年	二、四六三	一、八六五	二二・一	二二・四	同 十 一 年	三、九五五	三、二〇三	二六・九	二三・四

### 四、月別

昭和十一年に於ける死産を月別に見ると、各月平均一日の死産は十月に最も多く、六月、十一月、七月、二月、十二月順次之に亞ぎ、何れも一年平均以上を示してゐる、之に反し最も少いのは五月で八月三月が之に亞いでゐる。

										一 二 三 四 五 六					
										月 月 月 月 月 月					
										實 數					
										一年平均一日の死産平均一日の死産					
										七 八 九 十 十 十					
										月 月 月 月 月 月					
										昭和十一年					
										(其の一)					
										出 生 月 別					
										總 數					
										總 數					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					
										男 女					

忠清南道		全羅北道		全羅南道		慶尙北道		慶尙南道		黃海道		平安南道	
外國人	朝鮮人	外國人	朝鮮人	外國人	朝鮮人	外國人	朝鮮人	外國人	朝鮮人	外國人	朝鮮人	外國人	朝鮮人
六八八	三九、五五〇	八三三	三六、六四九	九五四	五八、三四四	八八四	六四、九一九	一〇	六六、四四五	三九三	五〇、九九五	八七五	四〇、七八八
三六五	二二、三〇〇	四三〇	一九、六三〇	五二三	三三、三九八	四七三	三四、八六五	七	三五、二四六	一九九	二六、五五四	四六七	三二、二三三
三〇三	一八、三四〇	三九三	二七、〇三九	四四三	二六、九六六	四三	三〇、〇四四	三	三一、五九	一九四	二四、四三二	四〇八	一九、四八五
四一	一二、七五	四一	一、七〇七	六一	一、九八五	六〇	三、二五七	—	二、四三四	二二	二、〇三六	五五	一、一二四
四二	九四六	—	一、〇九三	四九	一、六三八	四八	一、六九二	—	二、一八二	二二	一、八〇九	五四	一、一二一
三六	一、七三三	—	一、六五九	四四	二、一八九	五一	二、七六四	—	二、九九五	八	二、四三三	四五	一、四一六
三〇	一、三九六	—	一、四三七	四四	一、八八四	四三	二、三三八	—	二、五九六	一四	二、〇七九	四五	一、三三五
三八	二、〇三二	二	一、八三四	五〇	二、六五八	四二	三、一九九	—	三、五三三	二〇	二、四八三	四二	一、八四五
三七	一、七〇九	四	一、五九九	三八	二、二〇六	三四	二、七六〇	—	二、九九二	一三	二、二八六	四二	一、七三一
三〇	一、七三三	—	一、七三二	四六	二、六四五	四二	三、二四三	—	三、五三三	二〇	二、四六	四五	二、〇〇〇
三二	一、五六六	—	一、四九三	三〇	二、六二八	四三	二、九二六	—	三、九〇四	二二	二、七四	元	一、九四四
三四	一、五四九	—	一、五二五	三三	二、三三七	三九	二、五三二	—	二、八八九	二二	一、九五七	三	一、六二〇
三六	一、三三二	—	一、三三二	四〇	二、一〇九	三三	二、一〇九	—	二、六六六	一七	一、八七六	三六	一、六二〇

總數		六月		七月		八月		九月		十月		十一月		十二月	
總數	外 國 人	男 女		男 女		男 女		男 女		男 女		男 女		男 女	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
總數	三,四八三,二六八	三,四八三	二,一六八	三,六三九	三,四四五	三,七六六	三,四八九	三,八三六	三,五〇九	三,九七九	三,八六二	三,七五五	三,六六六	三,五五三	三,四六六
内地人	五三三	四九三	六五二	五四七	六八〇	六五九	五八〇	六五九	五八〇	六五九	五八〇	六五九	五八〇	六五九	五八〇
朝鮮人	三,九五〇,六六八	三,九五〇	二,一六八	三,六三九	三,四四五	三,七六六	三,四八九	三,八三六	三,五〇九	三,九七九	三,八六二	三,七五五	三,六六六	三,五五三	三,四六六
外國人	三〇	三八	三	二七	三三	一八	三五	三〇	三九	三二	一八	三三	二七	二二	一〇

咸鏡北道		咸鏡南道		江原道		平安北道	
總數	外 國 人	男 女		男 女		男 女	
		男	女	男	女	男	女
總數	四,一〇〇,〇〇〇	四,一〇〇	一〇〇	四,一〇〇	一〇〇	四,一〇〇	一〇〇
内地人	一,一七九	一,一七九	一,一七九	一,一七九	一,一七九	一,一七九	一,一七九
朝鮮人	三,九二一	三,九二一	三,九二一	三,九二一	三,九二一	三,九二一	三,九二一
外國人	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九

咸鏡北道		咸鏡南道		江原道		平安北道	
總數	外 國 人	男 女		男 女		男 女	
		男	女	男	女	男	女
總數	四,一〇〇,〇〇〇	四,一〇〇	一〇〇	四,一〇〇	一〇〇	四,一〇〇	一〇〇
内地人	一,一七九	一,一七九	一,一七九	一,一七九	一,一七九	一,一七九	一,一七九
朝鮮人	三,九二一	三,九二一	三,九二一	三,九二一	三,九二一	三,九二一	三,九二一
外國人	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九	一七九

同 上 (其の二)

京畿道			忠清北道			忠清南道			全羅北道			全羅南道			慶尙北道			慶尙南道		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
二、四六二	二、二一四	一、四一	八四九	八二四	六	一、四〇六	一、四七	二	一、四三七	一、二〇〇	一、四三	二、三九	二、二八	一	二、三九	二、〇六	一	二、七〇〇	二、四四	一
二	三	二	一	一	九	一	一、七六	一、五	一	三	一	一	二、五	二、四〇	一	一	一	一	二、八六	二、五八
二、七九六	二、四七	一、七	九七一	八〇〇	七	一、七六	一、五	一	一、六六	一、八二	一、六	二、五	二、四〇	二、九	一	一	一	一	二、八六	二、五八
三、〇〇四	二、七八	一、八	一、〇六	九	八	一、七六	一、五	一	一、六六	一、八二	一、六	二、五	二、四〇	二、九	一	一	一	一	二、八六	二、五八
二、九七	二、六九五	一、六	一、一七〇	九	五	一、八七	一、六	二	一、六六	一、八二	一、六	二、五	二、四〇	二、九	一	一	一	一	二、八六	二、五八
二、八四七	二、五五〇	一、五	一、一六六	九	四	二、〇四	一、八	二	一、七〇	一、五	一	二、八	二、四	二、九	一	一	一	一	二、八六	二、五八
三、二	二、八四九	一、四	一、二九八	九	三	二、〇九	一、八	二	一、七〇	一、五	一	二、八	二、四	二、九	一	一	一	一	二、八六	二、五八
三、〇九〇	二、四〇六	一、三	九九〇	一、四八	二	二、〇九	一、八	二	一、七〇	一、五	一	二、八	二、四	二、九	一	一	一	一	二、八六	二、五八
三、〇九〇	二、四〇六	一、三	九九〇	一、四八	二	二、〇九	一、八	二	一、七〇	一、五	一	二、八	二、四	二、九	一	一	一	一	二、八六	二、五八



黃海道		平安南道		平安北道		江原道		咸鏡南道		咸鏡北道	
朝鮮人	內地人	朝鮮人	內地人	朝鮮人	內地人	朝鮮人	內地人	朝鮮人	內地人	朝鮮人	內地人
一、七六八	三	一、五九一	三	二、〇〇〇	九	一、五一	二七	一、四八	一	八八八	三
一、七五三	三	一、三九九	三	一、六九九	一二	一、五五五	八	一、三三三	一	七九	三
二、〇〇四	一	一、七三四	一	二、〇〇〇	一四	一、八七五	一一	一、六六六	一	九三	一
一、九四三	一	一、五九	一	一、八八八	七	一、六七七	一七	一、四六九	二	八六	一
二、二九	一	一、八五五	一	三、三三三	九	一、八三三	二五	一、七九	四	九六	二
三、〇四五	一	一、七四五	二	三、〇五〇	八	一、七〇一	二七	一、五七	一	八七三	一
二、八〇八	一	一、九八八	一	二、一九四	一八	一、九八八	二八	一、八六〇	三	二、〇六八	四
一、九三	一	一、八〇〇	二	一、九九	九	一、七〇〇	一四	一、七六	二	八七	一
二、三六	三	二、〇五	二	二、六二	一七	二、三三	二六	二、二九	一	一、一〇	四
一、九六一	一	一、八五一	四	二、二七五	五	一、八八六	九	一、七三〇	四	九三三	一
二、三四一	一	一、九九六	二	二、四三九	一一	二、〇九	一七	二、〇〇	一	一、五三七	三
二、四〇〇	一	一、七六八	三	二、三三七	九	一、八〇〇	三三	二、一七	一	九七	一
二、五九	一	一、五九	二	二、七四五	八	二、四九七	一六	二、一七五	一	九二九	一

全羅北道			忠清南道			忠清北道			京畿道			總數		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
二	一〇	九	一	六	五	一	四	〇	一	九	二	七	三、九三	四、九六
一	八	元	一	七	三	一	三	四	一	四	一	七	二、三六	二、七五
一	九	〇	一	三	三	一	三	六	一	五	一	〇	一、七七	二、〇三
一	五	四	一	二	一	一	一	一	一	三	八	一	一、九	二、三
一	八	一	一	四	一	一	三	一	一	六	一	一	一、三	一、六
一	二	二	一	六	三	一	五	一	一	三	一	一	一、七	二、三
一	二	二	一	二	一	一	五	一	一	四	三	一	一、五	一、七
一	三	二	一	三	一	一	三	一	一	七	〇	一	一、八	二、五
一	七	一	一	三	二	一	一	一	一	六	一	一	二、九	一、五
一	六	三	一	四	一	一	四	一	一	四	一	一	一、三	二、六
一	一	三	一	二	一	一	二	二	一	三	七	一	一、八	一、五
一	四	一	一	五	一	一	二	一	一	四	九	一	一、〇	二、四
一	四	一	一	五	一	一	二	一	一	七	八	一	一、五	二、五

死産月別

(其の一)

昭和十一年

江原道			平安北道			平安南道			黃海道			慶尙南道			慶尙北道			全羅南道		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
一	三〇	七	三	七八	四三	三	六〇	七	二	三四	六	一	三〇	八	一	二七	四	一	八	五
一	三四	九	一	四〇	二	三	四九	九	一	一〇	二	一	二七	一〇	一	六	六	一	四	七
一	六	八	三	三六	三	一	二七	六	二	四	四	一	一〇	六	一	五	六	一	三	五
一	六	一	一	六	三	一	六	二	一	三	三	一	三	六	一	四	二	一	一	二
一	六	二	一	三	一	一	九	二	一	九	一	一	四	一	一	七	一	一	一	一
一	二	三	一	九	三	一	六	一	一	五	一	一	三	二	一	三	二	一	一	二
一	七	一	一	八	二	一	三	二	一	五	二	一	二	四	一	六	二	一	六	三
一	三	一	一	四〇	三	一	四	四	一	七	一	一	三	八	一	七	三	一	三	三
一	七	一	一	二〇	一	一	九	三	一	九	一	一	三	八	一	三	二	一	二	一
一	三	一	一	三	三	一	七	二	一	六	一	一	二	五	一	四	四	一	六	一
一	九	一	一	六	一	一	二	一	一	二	一	一	二	五	一	六	三	一	三	二
一	三	一	一	九	一	一	九	二	一	四	一	一	六	七	一	七	二	一	五	三
一	九	一	一	三	三	一	二〇	二	一	九	一	一	六	三	一	四	一	一	四	二

忠清北道			京畿道			總數				
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人		
1	3	1	1	5	2	1	2	4	男	六月
1	6	1	1	7	3	1	1	4	女	月
1	1	1	1	5	2	1	2	4	男	七月
1	3	1	1	7	8	1	1	4	女	月
1	3	1	1	5	9	1	2	3	男	八月
1	1	1	1	5	1	1	2	3	女	月
1	2	1	1	5	1	1	2	4	男	九月
1	1	2	1	5	0	1	2	3	女	月
1	2	2	1	4	1	1	2	3	男	十月
1	5	1	1	5	4	1	2	4	女	月
1	1	1	1	5	4	1	2	3	男	十一月
1	2	1	1	7	1	1	2	3	女	月
1	4	1	1	5	6	1	2	4	男	十二月
1	2	1	1	5	9	1	2	5	女	月

同

上

(其の二)

咸鏡北道			咸鏡南道		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
1	2	5	1	2	2
1	9	9	1	1	4
1	2	5	1	1	5
1	4	6	1	1	6
1	5	4	1	1	8
1	2	3	1	1	7
1	7	2	1	1	3
1	8	6	1	1	6
1	7	3	1	1	4
1	8	5	1	1	7
1	4	4	1	1	7
1	7	4	1	1	4
1	7	1	1	1	3

平安南道			黃海道			慶尙南道			慶尙北道			全羅南道			全羅北道			忠清道南		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
10	3		7	1		12	3		4			4	1		5	2		2		
2	3		4	3		6	9		4	2		1	2		4	3		1	1	
15	1		12	1		10	9		2	2		2	5		8			7	1	
3	9		1	1		2	8		2			2	2		7	1		2	2	
10	3		3			3	3		4	5		5	7		8	1		5	2	
24	2	1	7	2		6	0		5	5		1	4		4			3		
7	1		3	2		8	2		1			6	1		3	3		3	1	
3			9	2		3	0		3	1		2	1		3	1		2		
150	5		12	2		10	12		3	2		6	9		8	1		3	2	
16	2		6			0	6		8	2		7	2		1	2		3	4	
16	3		1			3	3		6	1		5	1		4	7		2	1	
25	7		5	1	1	1	4		5			2			3	4		3		
16	2		15			8	7		4	5		6	3	1	7	3		5	2	
25	5		7	1		6	0		6	1		3	5		6	2		1	2	

咸鏡北道			咸鏡南道			江原道			平安北道		
外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人	外國人	朝鮮人	内地人
	四	三		二	四		五			元	一
	七	二		九	五		八			〇	三
	八	四		〇	三		八	一		四	一
	〇	四		二	四		五			三	一
	六	五		七	四		三			二	一
	五	一	二	六	四		九			〇	二
	六	一		八	三		三	一		三	一
	五	二		〇	二		四	一		七	
	七	六		三	四		四	一		五	
	四	六		五	四		八	一		三	一
	八	二		六	六		九	二		四	一
	二	二		七	四		二	一		九	
	二	四	一	六	〇		九	一		六	三
	九	五		九	七		三	二		七	七

## 人口動態

昭和十一年

婚姻. 離婚. 配偶数  
(昭和八年 ~ 昭和十二年)

5.00	18.96
------	-------

5.61	7.24
------	------

6.35	10.19
------	-------

7.47	11.76
------	-------

7.22	8.44
------	------

6.49	24.78
------	-------

6.68	34.76
------	-------

6.26	13.50
------	-------

8.99	34.38
------	-------

9.22	44.90
------	-------

8.75	23.57
------	-------

5.23	10.13
------	-------

5.02	12.43
------	-------

5.47	7.61
------	------

8.35	25.41
------	-------

8.84	37.80
------	-------

7.84	12.39
------	-------

7.23	15.64
------	-------

8.64	24.58
------	-------



## 婚姻及離婚調

(昭和十二年)

文書課

## 第一婚 姻

一、總數 朝鮮に於ける昭和十二年の婚姻は一二六、九一七件であつて婚姻率は人口千に付五・六八件に當り一日平均三四一件である。之を前年に比較すると婚姻數に於て七四八件を増加せるも婚姻率は〇・〇四件を減少した。

最近五年間に於ける婚姻率の趨勢を観ると昭和八年の六・〇九より翌九年は五・七五、昭和十年は五・六四に漸減し翌十一年は稍恢復して五・七二となつたが本年は再び減少に轉じた。

年次	人口總數	總數	内地人	朝鮮人	外國人	人口千人に對する婚姻率
昭和八年	一〇七九、三三二	二六、六四四	二二、四五	二四、四〇	一九	六・〇九
同 九 年	一一、二五、八二七	二二、三三三	二二、三三	二九、〇四	三六	五・七五
同 十 年	一二、八九、二八〇	二二、四二六	二二、九二	二二、二四六	七八	五・六四
同 十 一 年	一二、〇四、七八六	二二、一六九	二二、〇七	二二、六九三	六九	五・七二
同 十 二 年	一二、五五、四八五	二二、九七七	二二、八三	二四、六一	二三	五・六八
前年に比し増(△)減(○)	三〇七、六四九	七四八	△ 二四	九一八	△ 四六	△ 〇・〇四
内 鮮 外 人 別 に 於 ける 婚姻は内地人二、二八三件、婚姻率は三・六三件、朝鮮人二二四、六一一件、婚姻率五・						

七五件、外國人は二三件、婚姻率〇・五三件である。之を前年に比較すると内地人に於ては婚姻數一二四件、婚姻率〇・三二件を各減少し、朝鮮人にありては前者は九一八件を増加せるも後者にありては〇・〇四を減少した。外國人は兩者共に激減を示してゐる。

## 二、道別

昭和十二年に於ける婚姻を道別に觀ると、慶北の二三、五八八件が最も多く、京畿の一二、六二九件、黃海の一一、九五九件之に亞ぎ、平北・慶南・江原・全南・咸南は何れも一萬を超へ、最も少いのは咸北の四、二九二件で、忠北の五、一四九件及忠南の七、八一四件が之に亞いでゐる。

尙人口千人に對する婚姻率は黃海の七・一八件が最も高く、江原の七・一六件及平北の六・九二件が之に亞ぎ、最低は全南の四・二八件、之に亞いで慶南の五・〇六件及咸北の五・一〇件等低い方である。

各道の婚姻率を前年に比較すると増加したもの六箇道、減少したもの七箇道で、増加の最も著しいのは黃海の〇・三四件及平北の〇・三一一件で、減少の最も著しいのは慶南の〇・五二件で咸南の〇・二二件が之に亞いでゐる。

道別	婚姻數		人口千人に對する婚姻率	
	昭和十二年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十一年
全 鮮	二六、九一七	二六、二六九	七四・八	五七・二
京 畿	一一、二六九	一一、二五三	一一・六	五・二四
忠 清 北 道	五、二四九	五、二四一	一九・二	五・九六
忠 清 南 道	七、八一四	七、四七一	三三・三	五・一九
				五・〇四
				〇・〇九
				〇・〇七
				〇・一五

全羅北道	八二六〇	八三四四	△	八四	五三三	五四二	△	〇二〇
全羅南道	一〇五三	一〇〇六一		四六二	四二六	四二六		〇三
慶尙北道	一三五八八	一四〇四五	△	四五七	五五五	五七二	△	〇一七
慶尙南道	一一六一	一二三四六	△	一〇八五	五〇六	五五八	△	〇五二
黃海道	一一九五九	一一二〇一		七五八	七二七	六八三		〇三四
平安南道	八七九三	八四三三		三七〇	五九八	五八七		〇二
平安北道	一一三七一	一〇七九〇		六五二	六九二	六六一		〇三二
江原道	一一〇五四	一一〇九六	△	四二	七二六	七二六	△	〇二〇
咸鏡南道	一〇三三三	一〇三六六	△	一四三	六二五	六四七	△	〇三三
咸鏡北道	四二九二	四二四二		五〇	五二〇	五二二	△	〇二

### 三、年齢別

昭和十二年に於ける婚姻者を年齢階級に依り先づ夫に就て觀ると内地人は二十五歳—二十九歳の五七・八%が最も多く三十歳—三十四歳の一九・二%及二十歳—二十四歳の一二・八%が之に亞ぎ、朝鮮人は二十歳—二十四歳の三八・三%が最も多く、十七歳—十九歳の三一・九%及二十五歳—二十九歳の一三・四%が之に亞いでゐる。即ち朝鮮人は内地人に比し婚姻最盛期が一階級低い。即ち内地人は二十歳—三十四が總婚姻數の九割を占むるに反して朝鮮人は二十九歳迄が九割三分を占めてゐる。

内地に於ける昭和十一年の比例を觀ると二十五歳—二十九歳の四六・六%が最も多く、二十歳—二十四歳の二三・二及三十歳—三十四歳の一五・二%が之に亞いでゐる。即ち朝鮮に於ける内地人夫の婚姻年齢は内地に於ける夫よりは婚姻最盛期たる二十五歳—二十九歳の割合が遙かに高く且つ三十歳—三十四歳

が之に亞ぐも内地にありては二十歳——二十四歳が最盛期に亞いでゐる。朝鮮人に於ては内地に於ける夫より婚姻最盛期が一階級低く、二十四歳迄の婚姻が内地に於ては僅かに二割四分なるに比し八割を占めてゐて、早婚の傾向が極めて苦しい。内地人、朝鮮人及内地（昭和十一年）別の夫年齢別百分比を示すと次の如し。

總 數	内地人		朝鮮人		内地（昭和十一年）	
	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
一七歳未満	二二八三	一〇〇〇	二四、六一	一〇〇〇	五四九、二六	一〇〇〇
一七—一九歳	二	〇・一	二、一六三	九・八	五、〇三二	〇・九
二〇—二四歳	二〇	〇・九	三九七九六	一六・九	一七、三六〇	三・二
二五—二九歳	二九二	一二・八	四七、七二三	一九・四	二五、八四九	四・六
三〇—三四歳	一、三三〇	五七・八	一六、六九五	一・五	八、三六三	一・五
三五—三九歳	四九	一・九	四、五四	一・五	三、四六	五・九
四〇—四九歳	一、四	四・六	一、七九三	一・一	二、八四三〇	五・二
五〇—五九歳	七二	三・二	一、四一六	一・一	二、六六六	二・一
六〇歳以上	一〇	一・〇	五三	〇・四	四、九六九	〇・九

此の比例を既往五年間に就て觀ると内地人は昭和八年に於て、二十五歳——二十九歳の五〇・三%、三十歳——三十四歳の二〇・九%、二十歳——二十四歳の一七・二%及三十五歳——三十九歳の六・〇%の順位を示し、以後各年共大體同順位を續けてゐるが二十五歳——二十九歳が漸次増加してゐたが本年は前年に比し

一・一%の減少を示し、三〇歳——三十四歳は昭和十年迄は減少の一途を辿りしも昭和十一年より増加に轉じた。他は年に依り多少の高低はあるも概して稍減少の傾向を示してゐる。朝鮮人は昭和八年に於て二十歳——二十四歳の三三・一%、十七歳——十九歳の三一・七%及十七歳未満の一四・〇%の順位であつたが翌九年より十七歳未満者は激減に轉じ二十五歳——二十九歳が二三・三%で第三位を占め以後同順位を保つてゐる。而して二十歳——二十四歳及二十五歳——二十九歳は漸増し、十七歳——十九歳は一進一退を示し、十七歳未満は減少を續けてゐる。

之等を内地の状況と比較して觀ると内地に於ては二十五歳——二十九歳及三十歳——三十四歳の兩階級は逐年増加し漸次晩婚へ移動しつつあるに對し、朝鮮に於ける内地人は略同傾向を示せるも、朝鮮人は之より低く二十歳——二十四歳に密集せんとしてゐる。内地人朝鮮人及内地に於ける年齢階級別夫の割合を示すと次の如し。

# 内地人

昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	總數	十七歳未満	十九歳	二十歳	二十五歳	三十一歳	三十五歳	四十九歳	五十九歳	六十歳以上
1000	1000	1000	1000	1000	0.1	0.5	1.2	5.3	20.9	6.0	3.7	1.1	0.2
0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.8	1.5	1.7	5.3	1.9	4.2	3.0	1.2	0.3
0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1.3	1.6	1.8	5.6	1.6	4.7	3.3	1.2	0.2
0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.5	1.3	1.9	5.8	1.7	4.7	3.8	1.2	0.2

## 朝鮮人

## 内地

同十二年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	同十二年
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
01	09	28	58	192	46	33	10	04		
總數	未十七歲	十七歲	十九歲	二十一歲	二十五歲	三十一歲	三十五歲	四十一歲	四十九歲	五十九歲以上
1000	140	37	21	31	11	42	19	14	5	1
1000	28	33	34	39	44	53	59	60	53	33
1000	26	34	35	35	36	39	41	42	44	45
1000	20	34	35	35	36	39	41	42	44	45
1000	98	39	35	35	35	35	35	35	35	35
昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	同十二年	同十二年	同十二年	同十二年	同十二年	同十二年
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
14	13	10	9	?	?	?	?	?	?	?
269	257	246	246	246	246	246	246	246	246	246
432	436	450	466	466	466	466	466	466	466	466
152	153	154	152	152	152	152	152	152	152	152
60	59	58	59	59	59	59	59	59	59	59
53	53	51	52	52	52	52	52	52	52	52
33	32	33	32	32	32	32	32	32	32	32
09	08	09	09	09	09	09	09	09	09	09

次に妻の方では内地人は二十歳——二十四歳の六一・九%最も多く、二十五歳——二十九歳の一八・〇%及十五歳——十九歳の一四・七%之に亞ぎ、朝鮮人は十五歳——十九歳の七三・〇%最も多く、二十歳——二十四歳の一四・五%及十五歳未満の七・七%が之に亞いでゐる。即ち朝鮮人は内地人に比し婚姻最盛期が一

階級低く、又内鮮人共妻の婚姻最盛期は夫に比し一階級低く、尙最盛期に於ける妻の婚姻割合は夫に比し著しく高い。内地に於ける昭和十一年の状況を觀ると二十歳——二十四歳の五五・〇%最も多く、二十五歳——二十九歳の一九・九%及十五歳——十九歳の一三・二%が之に亞いでゐる。即ち朝鮮に於ける内地人の婚姻は内地に於ける妻よりも婚姻最盛期たる二十歳——二十四歳の割合が著しく多く、朝鮮人は婚姻最盛期が一階級低く、二十歳未満の婚姻は内地に於ては僅かに一割三分なるに比し朝鮮人は八割一分を占めて早婚の傾向が著しい。

	内地人		朝鮮人		内地(昭和十一年)	
	實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
總數	二二八三	一〇〇〇	二四六一	一〇〇〇	五九四一六	一〇〇〇
十五歳未満	八	〇四	九五二	七七	一五	〇〇
十五—十九歳	三五	二四七	九〇九七	七三〇	七二四九二	一二三
二十—二十四歳	一四三	六二九	一八二六	一四五	三〇一九四八	五五九
二十五—二十九歳	四二	一八〇	三七〇二	三〇	一〇九六二三	一九九
三十—三十四歳	六七	二九	一三二二	一〇	二九六六〇	五〇
三十五—三十九歳	二五	一一	五五	〇四	一四、七六七	二七
四十—四十九歳	一六	〇七	三九八	〇三	一三、五九六	二五
五十—五十九歳	五	〇二	一二	〇一	五、五四	一〇
六十歳以上	二	〇一	七	〇〇	一、五〇一	〇二

又此の比例を既往五年間に就て観ると内地人は昭和八年に於て二十歳——二十四歳の五八・八%、二十五歳——二十九歳の一七・六%十五歳——十九歳の一六・六%の順位で以後各年共大體同順位を續けてゐるが二十歳——二十四歳は昭和十年迄は激増せしも翌年より漸減に移り、二十五歳——二十九歳は漸増せしも本年は減少し、十五歳——十九歳は漸減を續けてゐたが本年は増加に轉じた。

朝鮮人は昭和八年に於て十五歳——十九歳の六八・四%、二十歳——二十四歳の十五・八%、十五歳未満の九・九%の順位で以後同順位を保ち、十五歳——十九歳は増加の割合著しく、二十歳——二十四歳は減少を續けてゐたが昭和十二年は増加に轉じた。十五歳未満は稍減少を續けてゐる。

之等を内地に於ける状況と比較して観ると内地に於ては二十歳——二十四歳及二十五歳——二十九歳は漸増し、十五歳——十九歳が漸減して、漸次晩婚へ移動しつつあるに對し、朝鮮に於ては内地人は二十歳——二十四歳に、朝鮮人は一階級低く十五歳——十九歳に集中せんとする傾向がある。

### 内地人

	總數	十五歳未満	十五歳—十九歳	二十歳—二十四歳	二十五歳—二十九歳	三十歳—三十四歳	三十五歳—三十九歳	四十歳—四十九歳	五十歳—五十九歳	六十歳以上
昭和八年	1000	00	166	568	176	42	14	11	03	1
同 九 年	1000	04	159	627	150	36	09	12	02	01
同 十 年	1000	04	131	643	175	25	10	11	00	00
同 十 一 年	1000	07	127	626	186	39	10	09	02	1
同 十 二 年	1000	04	147	619	180	29	11	07	02	01



## 朝鮮人

## 内地

昭 和 八 年	同 九 年	同 十 年	同 十 一 年	同 十 二 年	内地	昭 和 八 年	同 九 年	同 十 年	同 十 一 年	同 十 二 年	内地
總數	總數	總數	總數	總數	總數	總數	總數	總數	總數	總數	總數
未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲	未十五歲
十九歲	十九歲	十九歲	十九歲	十九歲	十九歲	十九歲	十九歲	十九歲	十九歲	十九歲	十九歲
二十歲	二十歲	二十歲	二十歲	二十歲	二十歲	二十歲	二十歲	二十歲	二十歲	二十歲	二十歲
二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲	二十五歲
三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲	三十四歲
三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲	三十九歲
四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲	四十九歲
五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲	五十九歲
六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上	六十歲以上
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
九	八	八	八	七	七	九	八	八	八	七	七
六八四	七〇七	七二二	七二六	七三〇	七三〇	六八四	七〇七	七二二	七二六	七三〇	七三〇
一五八	一五二	一四〇	一四〇	一四五	一四五	一五八	一五二	一四〇	一四〇	一四五	一四五
三六	三一	三〇	二九	三〇	三〇	三六	三一	三〇	二九	三〇	三〇
一二	一二	一〇	一〇	一〇	一〇	一二	一二	一〇	一〇	一〇	一〇
〇六	〇五	〇五	〇五	〇四	〇四	〇六	〇五	〇五	〇五	〇四	〇四
〇四	〇四	〇四	〇四	〇三	〇三	〇四	〇四	〇四	〇四	〇三	〇三
〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

更に夫妻相互の年齢を組合せて観ると内地人は夫の二十五歳——二十九歳と妻の二十歳——二十四歳との婚姻が最も多く、總数の四割二分を占め夫の三十歳——三十四歳と妻の二十歳——二十四歳の一割及夫妻共二十歳——二十四歳の七分が之に亞ぎ、朝鮮人は夫の二十歳——二十四歳と妻の十五歳——十九歳の二割九分最も多く、夫の十七歳——十九歳と妻の十五歳——十九歳二割七分、夫の二十五歳——二十九歳と妻の十五

歳——十九歳及夫の十七歳未満と妻の十五歳——十九歳の各八分が之に亞いである。

内地に於ける昭和十一年の状況を観ると二十五歳——二十九歳の夫と二十歳——二十四歳の妻との婚姻が最も多く、總数の三割二分を占め、之に亞いで夫妻共二十歳——二十四歳の一割五分、夫妻共二十五歳——二十九歳の九分の順位となり、朝鮮に於ける内地人に比較すると夫二十五歳——二十九歳と妻二十歳——二十四歳の婚姻の割合が低く、朝鮮に於て第二位を占むる夫三十歳——三十四歳と妻二十歳——二十四歳が内地では五位にあり、夫妻共二十歳——二十四歳が朝鮮に比し非常に高く二位を占めてゐる。

朝鮮人は内地に比し一階級低く且十七歳——十九歳の夫と十五歳——十九歳の妻の婚姻率が非常に高い。

現住内地人婚姻年齢別表

妻の年齢	夫の年齢	總數	夫の年齢										
			十七歳未満	十七歳以上二十歳未満	二十歳以上二十五歳未満	二十五歳以上三十歳未満	三十歳以上三十五歳未満	三十五歳以上四十歳未満	四十歳以上五十歳未満	五十歳以上六十歳未満	六十歳以上	總數	總數
總數		二二六二	二	二〇	二九二	一三〇	四九	一〇四	七二	二四	一〇		
十五歳未満		八	一	一〇	三	五	一	一	一	一	一		
十五歳以上二十歳未満		三五	一	一〇	九七	一九三	三三	二	一	一	一		
二十歳以上二十五歳未満		一四三	二	七	一六八	九六	二七	三〇	九	二	二		
二十五歳以上三十歳未満		四二	一	三	二	一五六	一五〇	五三	三三	一	三		
三十歳以上三十五歳未満		六七	一	一	三	八	二〇	二二	六	一	一		
三十五歳以上四十歳未満		二五	一	一	一	一	一	四	二四	四	三		
四十歳以上五十歳未満		一六	一	一	一	一	一	一	七	七	一		

現住朝鮮人婚姻年齢別表

妻の年齢	夫の年齢	總數	夫の年齢									
			十七歲未滿	十七歲以上二十歲未滿	二十歲以上二十五歲未滿	二十五歲以上三十歲未滿	三十歲以上三十五歲未滿	三十五歲以上四十歲未滿	四十歲以上五十歲未滿	五十歲以上六十歲未滿	六十歲以上	
總數	總數	二四、六一	二、一六三	三、九七八	四、七二三	一、六九五	四、三五四	一、七九三	一、四二六	五、三三	一、四六	
十歲未滿		九、五五二	二、一四八	三、一七四	三、三三二	七九〇	一、三九	三五	一八	一四	三	
滿十五歲以上二十歲未滿		九〇、九七	九、四八八	三、三六〇	三、五六六	九、九八〇	一、五九七	四、三	一、六二	三三	三	
滿二十歲以上二十五歲未滿		一八、二六	四、六五	二、八一	八、二九四	四、三七六	一、四三七	四、七	二、四三	三二	五	
滿二十五歲以上三十歲未滿		三、七〇二	五〇	一、九一	五、一三	一、四四七	七六	四、一五	二、九	五四	七	
滿三十歲以上三十五歲未滿		一、三二	七	一、五	三、四	九六	四、〇七	二、五六	三、〇七	九一	八	
滿三十五歲以上四十歲未滿		五、六	四	一	五	五、	三、九	一、五一	二、三〇	九七	一四	
滿四十歲以上五十歲未滿		三、九八	一	一	一	一	六	二、六	一、五三	一、六八	四、三	
滿五十歲以上六十歲未滿		一、二二	一	一	一	一	三	三	一、四	四、九	四、三	
滿六十歲以上		二、七	一	一	一	一	一	一	一	七	二〇	

## 四、法定婚姻年齢未滿者の婚姻

昭和十二年に於ける朝鮮人婚姻當事者の中、法定婚姻年齢未滿者は、

即ち夫の十七歲未滿及妻の十五歲未滿の者は夫一二、一六三人、妻九、五五二人、計二、七一五人で、婚姻當事者總數の九分に當つてゐる。之を前年に比較すると實數に於て二、三四八人増加し、百分の減少を示して、尙既往五年間に就て觀ると昭和八年は一割二分で其の後逐年減少を顯してゐる。而して各年

其夫は妻より稍高率である。

	總數			夫			妻		
	實數	婚姻者百に付	實數	婚姻者百に付	實數	婚姻者百に付	實數	婚姻者百に付	
昭和八年	二九、七五一	二二〇	一七、四四一	一四〇	一二、三二〇	九九			
同 九 年	二五、八六六	二〇九	一五、二七三	一二八	一〇、五六三	八九			
同 十 年	二四、七五三	二〇二	一四、〇四一	一一六	一〇、七二二	八八			
同 十 一 年	二四、〇六一	九七	二三、六五〇	一一〇	一〇、四一一	八四			
同 十 二 年	二二、七五	八七	二二、一六三	九八	九五、五二	七七			
全 鮮	二二、七二五	八七	一二、一六三	九八	九五、五二	七七			
京 畿 道	一、四七五	六一	五九一	四九	八八四	七三			
忠 清 北 道	一、六六六	一六三	八八一	一七二	七八五	一五四			
忠 清 南 道	一、五七〇	一〇二	八一五	一〇六	七五五	九八			
全 羅 北 道	七七一	四七	三八二	四七	三九〇	四八			

次に昭和十二年に於ける法定年齢未満者の婚姻總數に對する割合を道別に觀ると忠北の一割六分を最高とし平南の一割五分及平北の一割三分之に亞ぎ、其の他忠南・黃海及江原も全鮮平均以上を示してゐる。之に反して低いのは慶南三分を始めとし、全北は五分で、其の他京畿・全南・慶北・咸南及咸北は何れも全鮮平均以下を示してゐる。

次に昭和十二年に於ける法定年齢未満者の婚姻總數に對する割合を道別に觀ると忠北の一割六分を最高とし平南の一割五分及平北の一割三分之に亞ぎ、其の他忠南・黃海及江原も全鮮平均以上を示してゐる。之に反して低いのは慶南三分を始めとし、全北は五分で、其の他京畿・全南・慶北・咸南及咸北は何れも全鮮平均以下を示してゐる。

全羅南道	一二六九	六・一	四六三	四五	八〇六	七八
慶尙北道	一六二一	六・〇	一〇四八	七八	五七三	四三
慶尙南道	七三四	三・三	三六二	三三	三七二	三四
黃海道	二五五七	一〇・八	一四四五	一二二	一一二	九四
平安南道	二七四八	一五・八	一七三〇	一九九	一〇一八	一一七
平安北道	二二〇三	一二・九	一七四七	一五五	一一五六	一〇二
江原道	二〇八六	九五	一一七〇	一一五	八一六	七四
咸鏡南道	一六七八	八・五	一〇九六	一一一	五八二	五九
咸鏡北道	六三六	八・〇	三三三	八・三	三〇三	七六

第二 離婚

離婚

一、總數 朝鮮に於て昭和十二年に行はれた離婚は内地人四九件、朝鮮人五、一一〇件、外國人三件、計五、一六二件で一日平均一四件に當り人口千人に付〇・二三件である。之を前年に比較すると實數に於ては二一七件、割合に於ては〇・二件を何れも減少した。尙婚姻千に付四〇・七件で前年に比し一・九件を減少した。

最近五年間に於ける人口千人に對する離婚の割合を觀ると漸次減少してゐる。

總數	内地人	朝鮮人	外國人	人口千人に付
五、八七三	一一五	五、七五七	一	〇・二二

昭和八年

同	九	年	五、二七〇	八五	五、〇五〇	二	〇・一四
同	十	年	五、二七三	八六	五、二七六	一	〇・一四
同	十	年	五、二七九	一〇〇	五、二七八	一	〇・一四
同	十	年	五、二六二	四九	五、二一〇	三	〇・一三
前年に對比し増(△減)			△ 二二七	五一	△ 一六八	二	△ 〇・〇一

## 二、道別

昭和十二年に於ける離婚を道別に觀ると最も多いのは慶南の六六七件で、全南の六二五件、慶北の五一五件、平北の五〇八件之に亞ぎ、最も少いのは咸北の六三件で忠北の二三二件、全北の二六九件及忠南の二八五件が之に亞いでゐる。尙人口千人に對する離婚の割合を觀ると、最高は平北の〇・三一一件で慶南の〇・三〇一件之に亞ぎ、最低は咸北の〇・〇七件で全北の〇・一七件が之に亞いでゐる。各道の離婚率を前年に比較すると増加したもの三箇道、減少したもの十箇道で、増加の最も著しいのは慶北の〇・〇三件で、減少の最も著しいのは咸南の〇・〇五件である。

	離婚數				人口千人に對する離婚率			
	昭和十二年	昭和十一年	比較増(△減)		昭和十二年	昭和十一年	比較増(△減)	
全	五、二六二	五、二七九	△ 一七	〇・一四	〇・一四	〇・一四	△ 〇・〇一	
京	四、五〇〇	四、八五	△ 三五	〇・一八	〇・一〇	〇・一〇	△ 〇・〇一	
忠	二、三三二	二、五一一	△ 一八	〇・一六	〇・一七	〇・一七	△ 〇・〇一	
忠	二、八五	二、九七	△ 二二	〇・一八	〇・一〇	〇・一〇	△ 〇・〇一	
全	二、六九	三、三六	△ 六九	〇・一七	〇・一三	△ 〇・〇四		

### 三、年齡別

昭和十一年に於ける離婚の年齢階級別百分比例を先づ夫に就て觀ると内地人は二十五歳——二二

十九歳のものが最も多く、總數の二八・六%を占め、三十歳——三十四歳の二四・五%、四十歳——四十九歳の二二・五%、二十歳——二十四歳の一〇・二之に亞ぎ、朝鮮人は二十五歳——二十九歳及二十歳——二十四歳の二六・七%最も多く、三十歳——三十四歳の一五・四%が之に亞いでゐる。之を婚姻の場合と比較して観ると、内鮮人其婚姻の多い年は離婚も亦多くなつてゐる。

總數	十七歲未滿	十七歲以上	實數		百分比		朝鮮人
			實數	百分比	實數	百分比	
			四九	一〇〇・〇	五、一〇	一〇〇・〇	
			一	一	一三	二・三	
			一	一	四一六	八・二	

二十歳—二十四歳	五	一〇・二	一、三六五	二六・七
二十五歳—二十九歳	一四	二八・六	一、三六六	二六・七
三十歳—三十四歳	一二	二四・五	七八六	一五・四
三十五歳—三十九歳	三	六・一	四八一	九・四
四十歳—四十九歳	一一	二二・五	四〇五	七・九
五十歳—五十九歳	三	六・一	一二六	二・五
六十歳以上	一	二・〇	五二	一・〇

次に妻に就て觀ると、内地人は二十歳—二十四歳が最も多く總數の四〇・八%を占め二十五歳—二十九歳の二二・五%、三十歳—三十四歳の一二・三%之に亞ぎ、朝鮮人は二十歳—二十四歳の三一・一%最も多く十五歳—十九歳の二五・四%、二十五歳—二十九歳の二〇・一%が之に亞いでゐる。之を婚姻の場合と比較して觀ると内鮮人共に離婚の多い年齢は婚姻の多い年齢より稍上位になつてゐる。

總數	内地人		朝鮮人	
	數	百分比	數	百分比
十五歳—十九歳	一	一〇〇・〇	五、一一〇	一〇〇・〇
二十歳—二十四歳	三	六・一	一、三〇一	二五・四
二十五歳—二十九歳	二〇	四〇・八	一、五九二	三一・一
三十歳—三十四歳	一一	二二・五	一、〇二六	二〇・一
六十歳以上	六	一二・三	五〇四	九・九



三十五歳—三十九歳	四	八・二	二六四	五・二
四十歳—四十九歳	三	六・一	二〇三	四・〇
五十歳—五十九歳	一	二・〇	四三	〇・八
六十歳以上	一	二・〇	一六	〇・三

更に夫妻相互の年齢を組合せて觀ると、内地人は、夫の二十五歳—二十九歳と妻の二十歳—二十四歳の二割二分最も多く夫の三十歳—三十四歳と妻の二十歳—二十四歳及夫の三十歳—三十四歳と妻の二十五歳—二十九歳の各一割が之に亞ぎ、朝鮮人は夫妻共に二十歳—二十四歳及夫の二十五歳—二十九歳と妻の二十歳—二十四歳最も多く何れも一割二分を占め、夫の二十歳—二十四歳と妻の十五歳—十九歳の一割一分が之に亞いでゐる。

内地人

妻の年齢	夫の年齢	總數	未滿十七歳	十七歳—二十四歳	二十五歳—三十四歳	三十五歳—三十九歳	四十歳—四十九歳	五十歳—五十九歳	六十歳以上
總數		四九		五	一四	一二	三	一一	三
十五九歳未滿		一							
十五—十九歳		三		一	一				
二十—二十四歳		二〇		四	二	五			
二十五—二十九歳		一一			二	五			
三十—三十四歳		六			一	一	三		
三十五—三十九歳		四					二	二	一

## 朝鮮人

四十—四十九歳	三
五十—五十九歳	一
六十歳以上	一

妻ノ年齢	夫ノ年齢	總數	十五歳未満	十五歳—十九歳	二十—二十四歳	二十五—二十九歳	三十—三十四歳	三十五—三十九歳	四十—四十九歳	五十—五十九歳	六十歳以上
總數	總數	五二〇	一二三	四一六	一三六五	一三五六	七六六	四八一	四〇五	二六	五
十五歳未満	數	一六一	七	三四	六八	二五	一七	一	五	三	一
十五—十九歳	數	一三〇一	七四	二八〇	五六九	二八九	五三	三三	九	三	一
二十—二十四歳	數	一五九二	一六	八九	六二二	五九〇	一七八	七六	二五	三	一
二十五—二十九歳	數	一〇二六	一三	一三	一〇三	三六三	三三	二六	七〇	六	一
三十—三十四歳	數	五〇四	一	一	八	六九	一八四	一六	八九	一四	一
三十五—三十九歳	數	二六四	一	一	五	二〇	三六	九二	九一	二	一
四十—四十九歳	數	二〇三	一	一	一	一〇	六	二	二〇六	五	六
五十—五十九歳	數	四三	一	一	一	一	一	一	一〇	二〇	三
六十歳以上	數	一六	一	一	一	一	一	一	一	二	一四

## 第三、配偶數

一、總數 昭和十二年末に於ける配偶數は内地人一三一、五一〇組、朝鮮人四、七二六、一四四組、外國

人五、六七〇組、計四、八六三、三三四組で人口千人に付有配偶者は四三五人で前年末に比し、實數に於ては五二、八二二組を増加したが人口千人に對する有配偶者の割合は一人を減少した。最近五年間に於ける有配偶者の割合を観ると概して漸減の傾向がある。

昭和	年	配 偶 数				人口千人に付有配偶者
		總 數	内 地 人	朝鮮 人	外 國 人	
昭和	八 年	四、六六三、六六七	一、三、九二九	四、五四四、六六三	五、〇七五	四四九
同	九 年	四、六九二、八三五	一、七、〇八九	四、五六九、九〇四	五、八四二	四四四
同	十 年	四、七九八、七三〇	二、三、一八八	四、六六八、九三二	七、六一一	四三八
同	十一年	四、八〇、五〇二	二、七、五七〇	四、六七四、五四六	八、三八六	四三六
同	十二年	四、八六三、三三四	二、三、五二〇	四、七二六、一四四	五、六七〇	四三五
前年比較増(△減)		五、一八三	三、九四〇	五、一五九八	△ 二七六	△ 一

**二、道 別** 昭和十二年末に於ける人口千人に對する有配偶者の割合を道別に觀ると最高は忠北の四六〇人で、江原の四五六人が之に亞ぎ、最低は慶南の四〇九人で全南の四二〇人が之に亞いでゐる。各道の有配偶者を前年末に比較すると増加したものは平北の一人、忠南の一人で、京畿・忠北は増減がなく、他の各道は何れも減少してゐる。

總 數	配 偶 數				人口千人に對する有配偶者數
	昭和十二年	昭和十一年	比較増(△減)	昭和十二年	昭和十一年
總 數	四、八六三、三三四	四、八〇、五〇二	五、一八三	四、八六三	四、八〇、五〇二
				△ 一	

總數	內地人	朝鮮人	外國人	總數	內地人	朝鮮人	外國人	總數	內地人	朝鮮人	外國人
總數	三六,九一七	二,二八三	二,四八二	二五,一〇〇	四九	五,一〇〇	三,四八三	一三,五〇〇	四,七六六	五,六六〇	五,六六〇
京畿道	一三,六三九	五三三	一三,〇六五	二	四〇〇	三	四六	一	五,九九七	三,七六〇	五,九九七
忠清北道	五,一四九	一五	五,一四四	一	三三	一	二〇八,八八九	一	一,八八一	二〇六,九六四	四四
忠清南道	七,八一四	一三七	七,六七七	一	二五	一	三三,三六八	一	五,五六一	三三,六二九	八八
江原道	三,五二〇	一	三,五二〇	一	一四〇	一	四六	一	四六	四六	一
平安北道	二,七二六	一	二,七二六	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
平安南道	二,九〇一	一	二,九〇一	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
黃海道	三,七〇〇	一	三,七〇〇	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
慶尙南道	四,五四九	一	四,五四九	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
慶尙北道	五,三二六	一	五,三二六	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
全羅南道	五,五六一	一	五,五六一	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
全羅北道	三,九一三	一	三,九一三	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
忠清南道	三,三三六	一	三,三三六	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
忠清北道	二,〇八八	一	二,〇八八	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
京畿道	五,九五七	一	五,九五七	一	一七〇	一	四六	一	四六	四六	一
總數	三六,九一七	二,二八三	二,四八二	二五,一〇〇	四九	五,一〇〇	三,四八三	一三,五〇〇	四,七六六	五,六六〇	五,六六〇

婚姻離婚及配偶表 (昭和十二年末)

婚

姻

離

婚

年

末

現

在

配

偶

數

全羅北道	八、三六〇	二七	八、一五三	—	二六九	—	二六七	—	三三九、一三一	七、〇九	三三、九六	二四
全羅南道	一〇、五三三	二三	一〇、五九九	—	六五	五	六二〇	—	五五、六一	九、六三	五〇、九〇六	八二
慶尙北道	三、五八八	一九	三、四六九	—	五五	五	五二〇	—	五三、二六五	一一、〇九	五二、一三六	七〇
慶尙南道	二、二六二	二〇	二、〇九〇	—	六七	一七	六五〇	—	四四、六九	三〇、七二	四三、八七〇	五〇
黃海道	二、九五九	六九	二、八八八	二	四九	—	四八九	—	五七六、〇三四	四、七〇	三七、一三	二八一
平安南道	八、七九三	一〇三	八、六九〇	一	三四九	三	三四六	—	三九、九〇一	八、〇二	三二、五四	三四八
平安北道	二、三七三	七四	二、二九二	六	五八	一	五〇六	—	三七、六四	五、〇七	三四、五〇	三、〇六七
江原道	二、〇五四	四六	二、〇〇八	—	四五	一	四〇四	—	三五、〇三	三、五七六	三四、四〇九	二八
咸鏡南道	一〇、三三三	三七	九、八四三	三	三〇五	二	三〇三	—	三三、三四	一〇、八三	三四〇、九九三	四九八
咸鏡北道	四、三九三	三二	三、九三三	七	六三	二	六一	—	一七、八六	二〇、五四	一六六、六五	五九七

備考

一、居住者に付法令に依ると否とに拘はらず（内縁關係は有配偶とし妾は之を認めず）調査せり  
 二、男子を本位として調査せり但し入夫婦姻及婿養子縁組の場合は女子を本位とせり

# 人口動態

昭和十三年

出生・死亡

(昭和13年～1月～9月分)  
～4月～6月分,

or 以上の統計は、統計調査の結果  
(昭和13年10月1日現在)

以下

5.67 13.98

7.93 30.80

8.62 43.96

7.13 16.45

3.95 14.54

4.19 20.40

3.70 8.65

8.22 33.38

8.50 48.17

7.93 18.51

6.64 22.23

6.92 31.78

6.34 12.28

4.73 29.76

5.07 45.36

4.40 14.13

10.29 34.41

10.56 45.90

10.02 22.58

# 資料

## 朝鮮人の出生及死亡(昭和十三年)

國勢調査課

尙一月乃至六月即ち本年上半期に於ける累計は出生 四三九、一一六人、死亡 二二〇、二三三人で自然増加は 二二八、八九三人である。

	出	生		死	亡		自然増加
		男	女		男	女	
四 月	總數	七四〇七七	三八、三九四	三三、六八三	一七、七五七	一四、九一六	四、四〇四
五 月	總數	六二四〇〇	三三、六三二	二九、七七八	一七、九七五	一五、一七九	二、九二六
六 月	總數	四四七六六	二四、二〇〇	二〇、五六六	一七、五八六	一五、〇二九	二、一五二
計	總數	一八二、四四三	九五、二二六	八六、〇二七	九八、四四二	五三、三八	四五、二四
一月乃至三月計	總數	二五七八七三	一三、一七三	一四、七〇〇	※ 一一、七八一	六、〇〇八	五、一七六
一月乃至六月累計	總數	四三九、一一六	二三八、三八九	二二〇、七七七	※ 二二〇、三三三	一二三、三三六	九六、八八六
一月乃至三月計が前回供覧の計數と符合せざるは届出期間を経過して届出られたるものあるに因る。							
一月乃至六月累計が前回供覧の計數と符合せざるは届出期間を経過して届出られたるものあるに因る。							
※男女合して總數に符合せざるは總數中に男女不詳を一人含むに依る。							



前年同期の内地に於ける内地人の出生は四四四、七一〇人同じく死亡は二八一、七五六人で自然増加は一六二、九五四人であつた。

今朝鮮に於ける出生及死亡並に自然増加状態の大體の地位を明かにする爲に之を國勢調査人口と共に内地と比較して見ると次の通りである。

昭和十年國勢調査人口	四月乃至六月		自然増加
	出生	死亡	
内地	六九、二五四、一四八	四四四、七一〇	二八一、七五六
朝鮮	二二、八九九、〇三八	一八一、二四三	九八、四四二
内地千に付朝鮮	三三一	四〇八	三四九
内地千に付朝鮮	三三一	四〇八	三四九

内地に於ける出生死亡及自然増加は昭和十二年四月乃至六月、同じく朝鮮は昭和十三年四月乃至六月である。

即ち朝鮮の人口は内地の三割三分一厘なるに比し出生は四割八厘死亡は三割四分九厘。自然増加五割八厘となつて何れも其の割合多く殊に出生の多いことは死亡の多いにも拘らず之を相殺して尙自然増加の大となつて現はれ朝鮮に於ける人口増加力の著しく大となることを示してゐる。

昭和十三年四月乃至六月に於ける朝鮮人の出生及死亡（現在地別）（其の一）

全	朝鮮	出生		死亡		計
		總數	男女	總數	男女	
全	朝鮮	一八二、四三三	九五、三二六	八六、〇三七	九八、四四二	五三、三三八
						四五、二四四

再	本	全	群	大	開	仁	京	府	咸	咸	江	平	平	黃	慶	慶	全	全	忠	忠	京
	府	州	山	田	城	川	城	總	鏡	鏡	原	安	安	海	尚	尚	羅	羅	清	清	畿
	府	府	府	府	府	府	府	數	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道	道
	一五六	一三九	二一八	一八七	四八八	五〇五	三二二三	八九一七	八〇七〇	一四、三八九	一四、五五六	一七、六四〇	一五、三三九	一四、八二五	一六、二二三	一八、五三三	一六、四三二	八〇五二	一二、一六	六九四五	一八、二五五
	七七	六七	六六	九二	二五〇	二五二	一六七〇	四、六六八	四、一八四	七、六四三	七、六七二	九、三三六	七、九六九	七、七九六	八、五二八	九、八二〇	八、五七	四、三四九	六、二九七	三、六七八	九、五〇七
	七九	七三	五三	九五	二三八	二五三	一五四三	四、二四九	三、八八六	六、七四六	六、八八四	八、四〇四	七、二七〇	七、〇一九	七、六八五	八、七〇二	七、八四四	三、七〇三	五、八一九	三、二六七	八、七四八
	一五七	一〇〇	二二七	二一五	二七四	三九三	二二四六	六、三三七	四、三五一	六、四〇五	九、五二〇	一一、一九三	七、四五〇	六、五〇〇	九、一九七	一〇、五五四	八、二七	四、三九〇	五、三六六	四、三九三	一〇、九八五
	八九	五七	六九	五五	一五六	二二九	一一三二	三、四六五	二、三三〇	三、五四五	五、〇五七	五、九二八	三、九四三	三、六〇〇	四、九五七	五、六八九	四、四九三	二、四一八	二、九八一	二、四七三	五、八八四
	六八	四三	四八	五〇	二一八	一七四	一〇、五	二、七二	二、〇二二	二、八六〇	四、四六三	五、二六五	三、五〇七	二、九〇〇	四、二四〇	四、八六五	三、六四四	一、九七二	二、三七五	一、九〇〇	五、一〇一

全 忠 忠 京 全  
羅 清 清  
北 南 北  
道 道 道 道 鮮

揭  
羅 清 咸 元 新 鎮 平 馬 釜 大 光  
津 津 興 山 義 南 壤 山 邱 州  
府 府 府 府 州 浦 府 府 府 府

同

總數	出		總數	死	
	男	女		男	女
七四〇七七	三八三九四	三五六七三	三三六六三	一七、七五七	一四、九一六
六八八八	三五五四	三三三四	三三〇四	一、八四五	一、五五九
三、一二三	一六二〇	一四九三	一五四六	八六八	六七八
四九八三	二五〇四	二四九	二、〇二七	一、二三八	八八九
三三二〇	一七九二	一五五八	一五二八	八四三	六七六

上 (其の二)

一四二	六八	七三	六五	三六	二九
二二七	二五	一〇二	二〇〇	二六	八四
二五九	三三	二七	一四一	七三	七二
二四三	二九	二四	一七一	一〇三	六九
二五五	三三	二三	一七九	八五	九四
三四二	一九一	一五一	一六七	八七	八〇
一、一〇一	六九二	六〇九	八三九	四九九	三七〇
二六七	九〇	七七	二二二	七一	六二
五九一	三二	二八〇	四九七	二八四	二二三
四〇〇	二五	一八五	三三三	二〇六	一二七
一七五	九八	七	一七	七〇	四七

再										咸	咸	江	平	平	黃	慶	慶	全	
馬	鑒	大	光	木	全	群	大	開	仁	京	府	鏡	鏡	安	安	海	尙	尙	羅
山	山	邱	州	浦	州	山	田	城	川	城	總	北	南	北	南	道	道	道	道
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	數	道	道	道	道	道	道	道	道
四六	二四〇	一四四	七二	七四	五七	四六	六二	一七一	一七九	一〇五	三三二	三三五	五五九七	五五四五	七二六九	五九三六	六〇一四	八四七八	七二五一
二五	二六	七二	四四	三六	二七	二六	二六	八三	一〇一	五八一	一七三六	一六八八	三〇〇二	二八一九	三六九九	三二二〇	三三五四	四三七二	三六八三
二二	一四	七二	二七	三六	三〇	二〇	三六	八八	七八	五二四	一五七六	一五三七	二五九五	二七二六	三四七〇	二八二六	二八六〇	四一〇六	三五六八
五〇	一五九	一〇一	四七	五三	三三	三二	五〇	八六	一五	七〇三	一九七〇	一三二一	二二〇六	二八六〇	三四三六	二二三九	二二六五	三八四七	三〇五二
二七	九一	六〇	二五	二八	一九	一八	二八	五六	六九	三八八	一一一九	七〇三	一一七三	一五〇六	一八〇九	一一九〇	一一〇九	一七〇七	一六六四
三三	六八	四二	三三	二五	一四	一三	三三	三〇	四六	三三五	八五一	六〇八	九三三	一三五四	一六二七	一〇四九	九五六	一四六五	一三八八



元	新	鎮	平	馬	釜	大	光	木	全	群	大	開	仁	京	府	咸	咸	江	平	平
新	義	南	壤	山	山	邱	州	浦	州	山	田	城	川	城	總	鏡	鏡	原	安	安
府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	數	道	道	道	道	道
六八	七八	一〇四	四三二	五一	一七九	一三〇	五七	四〇	四四	三三	七二	一六五	一六八	一〇八七	二,九一九	二,五六七	四,九三三	四八一〇	五,七四八	五,三二九
三五	四七	六〇	三二二	二九	八九	六八	二七	二七	一九	一六	三七	九三	七七	五五七	一,五一八	一,三三〇	二,五六九	二,五七九	二,九八八	二,七五三
三	三三	四四	二二	三三	九〇	六三	三〇	三三	二五	一五	三五	七三	九一	五三〇	一,四〇一	一,二三七	二,四三四	二,三三二	二,七五〇	二,五六六
五	四七	五三	二九一	四七	一六八	一三三	三四	五四	三三	三九	三〇	七八	一三四	七八〇	二,〇九六	一,三九五	二,〇九九	三,三六一	三,八七一	二,六七二
九	二	三	一六三	二五	九六	七八	二四	三四	六八	三三	八	四二	七二	四一八	一,一五六	七四二	一,二六五	一,七四三	二,〇七〇	一,四二七
三	六	三	二九	三三	七三	四	一〇	三〇	一五	七	三	六	六	三六二	九六八	六五三	九四	一,五一九	一,八〇一	一,二五五

威 江 平 平 黃 慶 慶 全 全 忠 忠 京 全  
鏡 原 安 安 海 尙 尙 羅 羅 清 清 畿  
南 道 北 南 道 南 北 南 北 道 道 道 鮮  
道 道 道 道 道 道 道 道 道 道 道 道

羅 清 咸  
津 津 興  
府 府 府

同

上 (其の四)

出		生		死		月	
總數	男	女	總數	男	女	男	女
四四,七六六	二四,二〇〇	二〇,五六六	三二,六二五	一七,五八六	一五,〇三九	一六	二四
四,九六六	二,六六七	二,二九九	四,〇三三	二,一五三	一,八七九	三五	三三
一,五五五	八四八	六七七	一,二八〇	七五五	五四五	一七	九
二,七五五	一,四八三	一,二三二	一,六二三	八七七	七三六		
一,七九八	一,〇二六	七八二	一,三九〇	七五七	六三三		
三,三二二	一,七四八	一,四七三	二,一九三	一,一九六	九九七		
四,〇一八	二,二二七	一,八〇一	三,二二六	一,七三三	一,四八四		
三,九三三	二,一一八	一,八一五	二,九四四	一,五八五	一,三五九		
三,五八五	一,九五六	一,六二九	二,二六八	一,二五六	一,〇二二		
三,九八四	二,〇九六	一,八八八	二,五三九	一,三三六	一,二〇三		
四,七三三	二,五三九	二,一八四	三,八九六	二,〇四九	一,八四七		
四,二〇一	二,二七四	一,九二七	三,三九八	一,八〇八	一,五九〇		
三,七九九	二,〇七二	一,七二七	二,二〇〇	一,一〇七	九三三		

揭										再										咸
羅	清	咸	元	新	鎮	平	馬	釜	大	光	木	全	群	大	開	仁	京	府	鏡	
津	津	興	山	義	南	壤	山	山	邱	州	浦	州	山	田	城	川	城	總	北	
府	府	府	府	州	浦	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	數	道	
元	七	六	七	六	九	三五八	七	一七二	二六	四	四	三	四	五	一五二	一五八	一〇二	二六六	二二七八	
一四	三	四	五	六	五〇	二〇一	六	九	五	六	四	二	四	九	七五	七	五三	一四四	一、一六六	
五	七	七	五	九	五	一五七	四	六	五	〇	六	七	七	四	七	八	四八九	一二七二	一、一三	
二	八	五	七	六	五	二七〇	五	一七〇	二〇	五	五	四	四	五	一〇	一四	七六三	二二七一	一、一六四六	
二	五	三	四	七	七	二九	九	七	六	三	七	〇	九	九	五	六	四二五	一二八	八九五	
〇	七	五	六	五	三	二二	七	七	四	五	三	四	八	六	五	六	三四八	九八三	七五	





※男女合して總數に符合せざるは總數中に男女不詳を一人含むに依る。

四月乃至六月計と彙に公表せる一月乃至三月計とを合計して一月乃至六月累計に符合せざるは届出期間を經過して届出られたるも

[illegible]

府は昭和十三年首現在とす、昭和十三年一月一日以降六月末日迄に府の區域の變動したるもの左の如し、平壤府に大同郡大同江、古平、龍山、林原及西川各面の一部を夫々編入（四月一日）

# 資料

## 朝鮮人の出生及死亡

(昭和十三年七月乃至九月)

國勢調査課

昭和十三年より新に實施せる朝鮮人口動態調査規則に基き調査したる昭和十三年七月乃至九月の朝鮮に於ける朝鮮人の出生及死亡の概数は次表の如く即ち出生は男八五、一六〇人、女七四、三一〇人計一五九、四七〇人、死亡は男五三、二六三人、女四四、二一六人計九六、四七九人で兩者の差増即ち人口の自然増加は六二、九九一人である。之を前期即ち四月乃至六月の三箇月間に於ける出生一八一、二四三人、死亡九八、四四二人自然増加八二、八〇一人と比較すると出生は二二、七七三人、死亡は一、九六三人、自然増加は一九、八一〇人を何れも減少した。

尙一月乃至九月迄に於ける累計は出生六〇〇、二九〇人、死亡三〇七、四九六人で自然増加は二九二、七九四人である。

31

七

月

出 生		死 亡		自然増加	
總 數	性 別	總 數	性 別	男	女
八五、一六〇	男	五三、二六三	男	二七、〇九七	一四、四七九
七四、三一〇	女	四四、二一六	女	一九、八一〇	一七、四六六

八 月	五七、〇七	五〇、七三	二六、九七	三三、一九二	一八、〇五	一五、八七	二四、三五
九 月	五五、〇三	六、〇九	三〇、九四	二、七五	二七、一六	一四、五九	二二、三六
計	一一九、一〇	八五、一六	七四、三三	九六、四九	五三、二六	四四、二六	六三、九一
一月乃至三月 計	二五七、八七	一三、七五	三三、七三	※	二、六一	六〇、〇八	五、六三
四月乃至六月 計	八二、四三	九、二六	八六、〇七	九、四三	五、三八	四、一四	八、〇一
一月乃至九月累計	三三九、三〇	三三、〇一	二八、六九	※	三七、四六	一六、〇六	一四、四九
							三九、七九

一、一月乃至三月計及四月乃至六月計が前回供覧の計數と符合せざるは届出期間經過して届出られたるものあるに因る。

二、男女合して總數に符合せざるは總數中男女不詳一人含むに因る。

前年同期の内地に於ける内地人の出生は四八五、四八三人同じく死亡は三三二、九〇四人で自然増加は一六二、五七九人であつた。

今朝鮮に於ける出生及死亡並に自然増加状態の大體の地位を明かにする爲に之を國勢調査人口と共に内地と比較して見ると次の通りである。

昭和十年國勢調査人口		七 月 乃 至 九 月		自 然 増 加	
内地	六九、二五四、一四八	出 生	死 亡		
朝鮮	二、八八九、〇三六	四八五、四八三	三三三、九〇四	一六二、五七九	
内地千に付朝鮮	三三二	一五九、四七〇	九六、四七九	六三、九九一	
内地に於ける出生、死亡及自然増加は昭和十二年七月乃至九月、同じく朝鮮は昭和十三年七月乃至九月である。		三八	二九八	三八七	

右の如く朝鮮の人口は内地の三割三分一厘なるに對し本期間の出生は三割二分八厘、死亡は二割九分八厘とな

り何れも其の割合僅少であるが殊に死亡が少い爲自然増加の割合は著しく大きくなつてゐる。

昭和十三年七月乃至九月に於ける朝鮮人出生及死亡（其の一）

道 名	七 月 乃 至 九 月 計				七 月			
	出 生		死 亡		出 生		死 亡	
	總 數	男 女	總 數	男 女	總 數	男 女	總 數	男 女
全 鮮	一五九,四七〇	八三,一六〇	一四,三三〇	六,四九七	五,三三三	四,四三六	一七,〇九七	一四,四七〇
京 畿 道	一九,五九四	一〇,五五五	九,三三九	二,一五九	六,〇三三	五,三三六	三,八七六	二,〇九七
忠 清 北 道	六,三六六	三,五二五	三,八二一	三,八二一	一,七六六	一,六九七	一,八八八	一,六八六
忠 清 南 道	一,五八六	六,三六六	五,三六六	六,〇三三	三,三六六	三,三六六	一,〇七九	八八六
全 羅 北 道	七,三六八	四,〇八四	三,三三四	四,四九四	二,五八八	一,九六六	一,九七〇	一,四九七
全 羅 南 道	一三,四八八	六,七六八	五,六九〇	七,六九〇	四,二六六	三,八八二	二,一七三	一,一三三
慶 尙 北 道	一五,六五五	八,六四四	七,〇六一	三,〇九八	五,九三三	五,〇二六	四,四六六	一,五七七
慶 尙 南 道	一六,〇七七	八,五八八	七,四九八	九,八九四	五,三三三	四,九三三	二,四四三	一,四八三
黃 海 道	一三,二四四	六,八四四	六,九三〇	七,四九八	三,九六八	四,〇九八	二,四四三	一,一七〇
平 安 南 道	一三,四九五	七,〇九七	六,四五六	六,四九一	三,四四四	三,〇六七	三,二〇〇	一,一六七
平 安 北 道	一五,七六二	八,一七二	七,六六五	八,三三三	四,四九八	三,九〇三	三,〇八五	一,四三三
江 原 道	一一,九七〇	六,一五五	五,四五六	七,七七七	四,三三八	三,四六九	二,五五九	一,四〇九
咸 鏡 南 道	一〇,〇六九	五,六四九	四,九六〇	七,四七八	四,二一九	三,五五九	二,〇三三	一,一三三
咸 鏡 北 道	五,六四九	三,一四八	二,八〇一	四,四六六	二,四四三	二,〇六三	一,四八八	八二六

再																		
府	京	仁	開	大	群	全	本	光	大	益	馬	平	鎮	新	元	咸	清	維
總	城	川	城	田	山	州	浦	州	邱	山	山	壤	南	義	山	興	津	津
數	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府
八、五五〇	三、六七	四、四四	四、四六	一、七五	一、九	一、四一	一、四九	一、八四	一、四四	一、四四	一、四九	一、三九	一、六五	一、四一	一、四〇	一、三九	一、七	八、
四、四四	一、七四	二、四七	三、三三	九一	七	八六	七	一〇	一八	一八	八五	六五	一	一	一六	二九	一〇三	四二
三、九五	一、六三	三、〇七	一、九三	八	四八	五五	七	八三	一七	一六	六	五	二六	一〇八	七六	一一〇	九四	四五
六、九七	二、八七	四、三	五、五	一、三	二八	九五	二四	三三	二六	九三	二	八二	一八	一九〇	一八六	三三	三二	八九
三、五五	一、〇〇	三、六	一、五	七	七	五	六	三	一六	三	四	四	二八	一〇〇	二九	二〇	二〇	四四
三、〇四	一、〇七	一、七	一、五	五	五	四〇	四	六〇	一六	二	八	四	八	八	七	一〇	一〇	四五
二、九三	一、〇〇	一、五七	一、三	四	四	四	四	六	二	一	五〇	六六	八	七	六	七	六	七七
一、四〇	五九	八七	六	五	四	三	三	五	四	九	四	一八	四	七	八	三	三	二
一、六二	四九	七〇	五	五	六〇	三	二	三	空	空	三	一八	四〇	七	三	元	元	一五
二、〇六	七六	一、七	一、〇	四	四	七	八	七	二〇	一	亮	二	六	五	四	四	九	五
一、四八	八七	八三	五	三	三	一七	二	三	五	四	七	一	四	五	〇	六	八	一七
九	三九	四	四	一四	一三	一〇	一五	四	四	六	二	一	三	六	一七	一八	三	八

道 名		八 月		九 月		
		出 生	死 亡	出 生	死 亡	
總 數	男 女	總 數	男 女	總 數	男 女	
全 鮮	五,五七〇	三,七三三	一,八三七	一,八三六	三,七三三	一,八三六
京 畿	六,九四〇	三,七六八	三,一七二	一,七九四	六,九四〇	三,一七二
忠 清 北 道	二,四六六	一,三五四	一,一七二	七六六	二,四六六	一,一七二
忠 清 南 道	四,一九九	二,六九九	一,九九九	一,三三三	四,一九九	一,九九九
全 羅 北 道	二,七七八	一,四三三	一,三五六	八六三	二,七七八	一,三五六
全 羅 南 道	四,六四四	二,五五五	二,〇九〇	一,五五五	四,六四四	二,〇九〇
慶 尙 北 道	五,八七三	三,六六一	二,二六二	一,七五五	五,八七三	二,二六二
慶 尙 南 道	五,八〇八	三,〇〇〇	二,七〇八	一,九三三	五,八〇八	二,七〇八
黃 海	四,九六八	二,六三三	二,三三五	一,四九九	四,九六八	二,三三五
平 安 南 道	四,七六六	二,五九九	二,一六七	一,一九九	四,七六六	二,一六七
平 安 北 道	五,五五三	二,八八九	二,六六四	一,四八八	五,五五三	二,六六四
江 原	四,四九二	二,二四三	二,二四九	一,四〇〇	四,四九二	二,二四九
咸 鏡 南 道	三,四三三	一,八九七	一,五三六	一,〇四〇	三,四三三	一,五三六
咸 鏡 北 道	一,八七九	九八六	一,四八一	七九一	一,八七九	九八六

同

(共二)

八

月

九

月





道 名		上 (集の三)				死 累 計			
		一 月 乃		九 月		男		女	
		出	生	死	亡	男	女	男	女
總 數		男	女	總 數	男	女	男	女	女
全 鮮	道	六〇,三九〇	三,四九一	六六,六九九	※	三〇,七四六	一六,〇六六	一四,一四三	一四,一四三
京 畿	道	六三,九〇六	三,三二六	六七,二三二	三,四四七	一八,四三三	一六,〇二五	一六,〇二五	
忠 清 北	道	三三,七八四	二,六六六	三六,四五〇	一,三六八	七,五三一	六,一五〇	六,一五〇	
忠 清 南	道	四二,一三五	二,七四四	四四,八九一	一,八三八	一〇,〇九三	八,二八九	八,二八九	
全 羅 北	道	二八,五七七	一,五三二	三〇,一〇九	一,四六四	八,一三三	六,五二六	六,五二六	
全 羅 南	道	五四,二五一	二,八六一	五七,〇六六	二,四七六	一三,六二〇	一一,一四四	一一,一四四	
慶 尙 北	道	六三,八九九	三,九三二	六七,八三一	三,九八八	一八,三三五	一五,六六三	一五,六六三	
慶 尙 南	道	五八,二二三	三,〇三二	六一,二六五	二,九六四	一五,八〇五	一三,八三五	一三,八三五	
黃 海	道	四八,九五三	二,五四五	五〇,四九八	二,三五一	一二,二二三	一〇,三九五	一〇,三九五	
平 安 南	道	四七,九五八	二,四八六	五〇,〇四四	二,三〇七	一二,四四八	一〇,六一九	一〇,六一九	
平 安 北	道	五五,〇七八	二,八五一	五七,八五九	三,〇五四	一六,〇九五	一四,四一九	一四,四一九	
江 原	道	四四,九七二	二,三六六	四七,三三八	二,七四〇	一四,八〇五	一二,六〇三	一二,六〇三	
咸 鏡 南	道	四九,三〇七	二,三八七	五一,六九四	二,二四八	一四,八〇五	一二,六〇三	一二,六〇三	
咸 鏡 北	道	二四,四八七	一,三七四	二五,八六一	一,三〇一	六,九六〇	六,〇五一	六,〇五一	
京 府 城 總 府 數		一一,二二七	一五,八六三	一四,二二四	七,一五四	一〇,五九八	八,七四八	八,七四八	
			五,八七三	五,三四四		三,八〇九	三,三四五	三,三四五	

※

# 朝鮮人の出生及死亡 (昭和十三年十月乃至十二月)

國勢調査課

朝鮮人口動態調査規則に基き調査したる昭和十三年十月乃至十二月の朝鮮に於ける朝鮮人出生及死亡の概数は別紙の如く即ち出生は男一〇〇、一五九人、女八九、六五八人、計一八八、八一五人、死亡は男四一、六五五人、女三三、九九二人、計七五、六四七人で兩者の差増即ち人口の自然増加は一一四、一六八人である。

之を前期即ち昭和十三年七月乃至九月の出生一五九、四七〇人、死亡九六、四七九人、自然増加六二、九九一人に比すると出生に於て三〇、三四五人を増加し死亡に於て二〇、八三二人を減少したる結果自然増加に於ては五一、一七七人を増加した。尙昭和十三年一月乃至十二月一箇年の累計は出生七九二、九九六人、死亡三八四、一九六人、自然増加四〇八、八〇〇人である。

	出 生		死 亡		自然増加
	男	女	男	女	
十 月	五三、九九四	二九、一〇八	二五、六一一	一三、〇〇六	一〇、六五五
十 一 月	五九、六三三	三三、七三七	二四、四五三	一三、五〇六	一〇、九四六
十 二 月	六六、一八六	三九、三四四	二七、六四四	一五、一四三	二二、四四一
計	一八九、八二五	一一〇、一五九	七五、六四七	四一、六五五	一二四、一六六
十一月乃至十二月累計	五九、六三六	四六、五八八	二六、一九六	一七、八六八	四八、八〇〇
一十月乃至十二月計と前同供覧の一十月乃至九月の累計とを合計して一月乃至十二月累計に符合せざるは届出期間を経過して届出せられたるものあるに因る。					

二 男女合して總數に符合せざるは總數に男女不詳一人を含むに因る。  
尙詳は次表の通りである。

昭和十三年十月乃至十二月に於ける朝鮮人の出生及死亡（現在地別）

	十月乃至十二月計						十一月					
	出			死			出			死		
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
全 鮮	二八八、八五五	一〇〇、二五九	八九、五六六	七五、四四七	四、四五五	三三、九九三	五三、九九四	二九、〇八八	二四、八六六	三、六六一	一三、〇〇六	一〇、六〇五
京 畿 道	二、五九九	一一、四八八	一〇、一七一	八、四九一	四、六六一	三、八三〇	六、〇五三	三、二七六	二、七五五	二、六三七	一、四八八	一、一九九
忠 清 北 道	七、八七六	三、八五〇	三、四三七	三、三三三	一、七七七	一、五二六	一、九〇三	一、〇三六	八、六六六	一、〇二八	五、四四三	四、七六六
忠 清 南 道	二、四九二	七、三六四	六、三三八	四、六〇〇	二、五五〇	二、〇五〇	三、八三七	二、一七二	一、七三〇	一、四九六	八、三三七	六、三三三
全 羅 北 道	九、二二二	四、九〇〇	四、一三三	三、八八一	二、一八七	一、六九四	三、三五四	一、三三二	一、〇三三	一、一七四	一、一七四	五、一三三
全 羅 南 道	一四、三六五	七、七三二	六、六三三	五、五五七	三、一八五	二、四七二	三、八七二	二、一五四	一、七七八	一、八二二	一、〇二五	七、九六六
慶 尙 北 道	三〇、三三九	一〇、七六六	九、四五三	八、七三八	四、七五五	三、九三三	五、八三八	三、一六五	二、六三三	二、九八一	一、六五八	一、三三三
慶 尙 南 道	二二、二二六	三〇、九六九	三〇、一五七	七、五五六	四、一五〇	三、四〇六	五、六六五	三、二六五	三、六〇〇	三、四九四	一、三七二	一、一三三
黃 海 道	一五、五〇九	八、二四九	七、四四〇	五、七五四	三、〇九八	二、五五六	四、七五五	三、三七五	三、〇〇〇	一、七八一	九、三三三	八、五九九
平 安 南 道	一四、七三六	七、六三二	七、一〇五	五、三三七	三、八八〇	三、四七二	四、八八〇	三、五五八	三、三三三	三、五三三	八、五三三	六、八一
平 安 北 道	一七、六六九	九、一九三	八、四七六	七、一〇三	三、四四六	二、一五六	五、四五四	三、八二二	三、六二九	一、九二八	一、〇八一	八、四四七
江 原 道	一四、六八四	七、八三八	六、八五六	六、七五四	三、六九三	三、〇六一	三、八六二	二、〇六七	一、七九五	二、〇五八	一、一三三	九、三六六
咸 鏡 南 道	二、三三七	六、九五四	六、三三三	五、六三三	三、一八〇	二、四三三	三、九三三	二、〇八五	一、八四七	一、七七五	九、八三三	七、九三三
咸 鏡 北 道	六、七三九	三、六五五	三、一五四	三、九三九	一、六七三	一、二六六	一、九七四	一、〇九六	八七八	九、五三三	五、三六六	四、七三七

再																		
府總數	京城府	仁川府	開城府	大田府	群山府	全州府	木浦府	光州府	大邱府	釜山府	馬山府	平壤府	鎮南浦府	新義州府	元山府	咸興府	清津府	羅津府
九、八四四	三、九四四	五、九七	五、五四	一、七六	二、九	一、五四	一、六八	三、二八	八、〇三	八、〇〇	一、八六	一、七〇	三、三	二、七七	二、六四	三、〇四	二、三	八、三
五、一〇八	一、七六五	二、八〇	二、七五	一、〇〇	六、六	八、八	九、四	一、三〇	四、一九	四、五五	九、三	五、九五	一、八三	一、九	一、四〇	一、七〇	一、二一	四、五
四、九六	一、六三	二、八七	五、九	一、七	六、三	六、六	七、四	一、〇八	六、四	五、九五	九、三	五、七五	一、四〇	一、三八	二、三四	一、五四	一、二二	五、八
五、〇九	一、八一	二、九	三、七	八、四	八、一	七、四	九、五	八、〇	四、八〇	四、五一	七、五	六、〇一	一、六一	一、二二	一、六七	一、七〇	一、七八	六、一
二、八九七	九、八〇	一、五八	二、九	七、七	五、三	四、三	五、六	四、七	三、五四	三、四六	四、三	三、七	八、九	六、三	二、四	一、〇九	一、〇八	七、七
三、三三	八、三	一、四二	二、八	七、七	六、八	三、三	五、九	五、	三、六	三、〇三	五、〇	三、七	七、	五、	五、	六、	七、〇	四、
三、六三	一、一〇七	二、〇三	一、七四	六、七	四、〇	四、八	五、	六、	二、五一	二、五〇	七、	四、六	一、一〇	九、五	九、	一、〇七	七、	六、
一、六八	五、三	九、五	九、	四、〇	一、五	五、〇	四、	九、	一、〇	一、八	三、	二、〇八	五、	五、	五、〇	六、	七、	一、五
一、五四	五、四	一、〇八	八、二	二、七	二、五	一、八	一、八	五、	一、三	一、三	四、〇	三、〇〇	五、	五、	四、	四、	六、	一、三
九、八	三、三	六、〇	九、	一、九	一、九	二、	一、八	三、	一、八	一、七	一、八	一、九	八、	九、	六、	五、	六、	一、三
八、〇	二、六五	五、二	九、	九、	一、五	二、	一、	二、	八、四	八、一	二、	九、	三、	一、八	一、五	二、七	二、六	八、

同

上

(其〇一)

同

上

(其〇二)

再	開城府	仁川府	京城府	府總數	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尙南道	慶尙北道	全羅南道	全羅北道	忠清南道	忠清北道	京畿道	全鮮	十月				十一月			
																			總數	男	女	總數	男	女	總數	男
	一七四	一八六	一,〇八五	三,一四八	二,三三三	四,三三六	四,六〇三	五,六五八	四,五四三	五,二二〇	六,七四七	六,〇〇四	四,三〇二	二,八三六	四,〇七九	二,三六五	六,九三〇	五九,六三三	二七,七三七	二七,九四六	二四,四五三	一三,五〇六	一〇,九六六	七六,一三八	五九,三三四	三六,八三四
	九五	九〇	五五	一,六四	一,二二五	三,三三一	二,五〇七	三,〇三五	二,三六二	二,六四〇	三,九六六	三,五五五	二,四八八	一,五三三	二,三八	一,二六五	三,六四五	三,七三七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七
	七九	九六	五二四	一,四六四	一,〇六六	二,〇二五	二,〇九五	二,六三三	二,一八一	二,四八〇	三,三五一	二,七五一	一,九五四	一,三五四	一,八四一	一,一三〇	三,二八五	三,二八五	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七
	七一	八一	六二	一,六七七	九五四	一,八五六	二,一九	二,九四四	一,五六六	一,七四三	二,四四〇	二,八三四	一,七八九	一,三五六	一,四七〇	一,〇六七	二,九四	二,九四	二,九	二,九	二,九	二,九	二,九	二,九	二,九	二,九
	三	四一	三九	九〇	五九九	一,〇六〇	一,一七一	一,四四三	九二二	九三六	一,四四四	一,五〇七	一,〇一九	七四六	八二二	五八四	一,五〇四	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六	一,五〇六
	五九	四〇	五九	七七	三六	七六	九八	一〇三	七四	八七	一〇六	一三七	七〇	六〇	六八	四三	一,二八〇	一〇,九六六	七六,一三八	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	一八六	一七八	一,三三〇	三,三七四	二,五三四	五,〇四九	六,三〇〇	六,五六	五,三三三	六,〇四四	八,七二四	八,八六七	六,三三一	三,九三三	五,五七六	二,九〇〇	八,五三六	七六,一三八	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四	二六,八三四
	八八	九五	六二	一,七三六	一,二七四	二,五五八	三,二五四	三,三四七	二,七四一	三,〇四四	四,四〇八	四,五五八	三,三〇〇	二,一七	二,九〇九	一,四四一	四,四二五	三六,八三四	五九,三三四	三六,八三四	二六,八三四					

全  
鮮

總數	死	二七、五四
	男	一五、四三
女	亡	一二、四二

總數	出	七三、九九六
	男	四一、六五八
女	生	三二、六八八

總數	死	※三八四、九六
	男	二〇八、三七
女	亡	一七五、八六八

同 上 (其の三)

揭														
羅津府	清津府	咸興府	元山府	新義州府	鎮南浦府	平壤府	馬山府	釜山府	大邱府	光州府	木浦府	全州府	群山府	大田府

死	二〇	八〇	一〇一	七五	九三	六六	三四四	四九	二七五	二六七	七四	五五	四七	五八
男	一五	四〇	四七	四〇	四七	五三	一五	三〇	二六	一六	四一	二七	二八	二九
女	一五	四〇	五四	三〇	四六	一三	一九	一九	一〇六	一〇六	三三	二八	一八	二九
出	二〇	四九	六三	四六	六六	五〇	一五〇	一八	一三〇	一六	四一	三三	三五	三七
男	一一	三三	四二	二九	二八	二六	八七	二一	九七	七	五	一六	二〇	三三
女	九	一八	二一	一七	一八	二四	六三	七	三三	九	一六	七	五	五
死	三五	七〇	九六	九〇	八九	一二七	二八八	六五	二九五	二八五	七六	六三	五三	五四
男	一五	三四	五八	四四	四三	七五	一九三	三一	一五一	一三八	四〇	三三	三〇	二六
女	一〇	三六	三八	四六	四七	五二	一九五	三四	一三四	一四七	三六	二〇	二三	二八

京畿道	三,060	一,七九	一,五二	八五,七〇〇	四四,七七	四二,〇二三	四三,〇二三	三三,三三	一九八,九〇
忠清北道	一,二六八	六二	五五七	三二,一二四	一六,五八七	一四,五四七	一六,九七三	九,二八九	七,六八三
忠清南道	一,六六一	九一〇	七六〇	五四,七五	二九,〇六三	二五,六六八	三三,〇三三	二,六三三	一〇,三五九
全羅北道	一,三三三	七〇	五七	三七,九八三	三〇,五五五	一七,四七八	一八,五六一	一〇,三三四	八,三七
全羅南道	二,〇七七	一,一五一	九〇六	六八,八八四	三六,一九三	三三,六九三	三〇,四八三	一六,八五四	一三,六九
慶尙北道	二,九三三	一,五五〇	一,三三三	八四,四九九	四四,九五三	三九,五四七	四二,七九三	三三,〇四	一九,六八九
慶尙南道	二,六三三	一,四四五	一,一八七	七九,八〇三	四一,六二	三八,一八一	三七,三六	二〇,〇〇四	一七,三八四
黃海道	二,三三〇	一,三三〇	九九〇	六四,五五	三三,五五五	三三,〇四七	二八,三九	一五,五三八	一三,〇八一
平安南道	二,二二	一,二二七	一,〇三二	六三,八三	三三,六四	三〇,二二七	二八,四六七	一五,五七八	一三,〇八九
平安北道	二,七〇	一,五三三	一,二五七	七二,九六	三七,八六三	三五,〇七三	三七,六九九	二〇,九二	一七,六八
江原道	二,五七七	一,四〇〇	一,一七七	五九,七八五	三三,五元	二八,三四六	二四,三四八	一八,五四七	一五,〇〇〇
咸鏡南道	一,九四	一,一八	八四六	五八,七〇九	三〇,八七九	二七,八三〇	二七,三六七	一五,〇〇七	一三,六〇
咸鏡北道	一,〇五一	五七八	四七四	三一,三五四	一六,四二	一四,九四九	一六,〇四五	八,六六六	七,三九九
府總數	一,八〇三	一,〇〇九	七九三	四〇,四三八	二一,九七七	一九,四一一	二四,七〇〇	一三,五八七	一一,一二三
京城府	六六	三〇	二七六	一四,八四〇	七,七七七	七,〇六八	九,〇〇九	四,八四	四,一九五
仁川府	一〇六	五七	四九	二,二六一	一,四八	一,一二三	一,四五八	八二	六四七
開城府	六六	三六	四〇	一九九五	一,〇四八	九四七	一,〇三五	五九九	四六六
大田府	元	一六	一三	八三七	四三	四四	四四七	二七	一六六
群山府	三	一四	八	五六五	三八	二五七	四四〇	二六	一七八
全州府	三〇	一八	一三	六六九	三三三	三六	三八二	二九	一六三
木浦府	三四	一三	一一	七二八	三八七	三四一	四七六	二七	一〇五



※

男女合して線数に符合せざるは總數中に男女不詳一人を含むに因る。  
十月乃至十二月計と藝に公表せる一月乃至九月累計と合計して一月乃至十二月累計に符合せざるは届出期間を経過して届出せられ  
たるものあるに因る。

府は昭和十三年首現在とす。昭和十三年一月一日以降十二月末日迄に府の區域の變動したるもの左の如し、開城府に開豊郡、青郊、  
中西及嶺南各面一部を夫々編入（四月一日）大邱府に達成郡、海城面全部及城北、達西各面の一部を夫々編入（十月一日）平壤府に  
大同郡、大同江、古平、龍山、西川、林原各面の一部を夫々編入（四月一日）鎮南浦府に龍岡郡、大代面一部を編入（四月一日）

掲																			
光州府	元	一八	二	八五五	四四	三八九	四五	二三	一七二	光州府	元	一八	二	八五五	四四	三八九	四五	二三	一七二
大邱府	一六	八三	六	二、三二	一、二四	一、〇〇〇	一、四八〇	八〇九	六七一	大邱府	一六	八三	六	二、三二	一、二四	一、〇〇〇	一、四八〇	八〇九	六七一
釜山府	一四	八三	六	三、二〇〇	一、〇六	一、五二七	二、一六五	一、三三	九四三	釜山府	一四	八三	六	三、二〇〇	一、〇六	一、五二七	二、一六五	一、三三	九四三
馬山府	元	一八	二	七七八	三八八	五五〇	四五〇	三五三	一九八	馬山府	元	一八	二	七七八	三八八	五五〇	四五〇	三五三	一九八
平壤府	二五	一六	二六	五、三三	二、七四	三、四八八	三、〇八八	一、七〇	一、五六	平壤府	二五	一六	二六	五、三三	二、七四	三、四八八	三、〇八八	一、七〇	一、五六
鎮南浦府	五	二七	六	一、三九九	七七	六二	七〇三	五九三	三〇	鎮南浦府	五	二七	六	一、三九九	七七	六二	七〇三	五九三	三〇
新義州府	七	二	一四	一、一九	六五	五六四	六七三	五五五	三八	新義州府	七	二	一四	一、一九	六五	五六四	六七三	五五五	三八
元山府	六	元	二	一、〇五	五九	四五六	七九	四四三	二八六	元山府	六	元	二	一、〇五	五九	四五六	七九	四四三	二八六
咸興府	五	四〇	一三	一、二二	六八	五四三	六八九	五九六	二九三	咸興府	五	四〇	一三	一、二二	六八	五四三	六八九	五九六	二九三
清津府	充	四三	二六	一、〇四	六四	四九〇	七七四	四四〇	五三四	清津府	充	四三	二六	一、〇四	六四	四九〇	七七四	四四〇	五三四
羅津府	三〇	一三	七	四六	三五	二二六	二九七	一五	一四二	羅津府	三〇	一三	七	四六	三五	二二六	二九七	一五	一四二

# 人口動態

昭和十四年

出生、死亡

昭和十四年 1月～3月

6.62 19.44

6.96 26.38

6.26 12.14

6.94 28.33

7.19 38.06

6.68 18.19

8.40 29.95

9.47 42.67

7.24 16.28

10.41 38.33

11.08 51.82

9.73 24.69

9.30 20.18

9.51 27.58

9.09 12.86

9.60 26.69

10.12 39.40

9.97 13.55

16.88 54.31

# 朝鮮人の出生及死亡

(昭和十四年一月乃至三月)

國勢調査課

新南道	五六、七〇・六	六、四三、六一	六、五三、八七九	五六、七〇・六	六、四三、六一	六、五三、八七九
慶尙北道	三、五八・七	三、四、三〇〇	△七、四八四、一〇三	三、五八・七	三、四、三〇〇	△七、四八四、一〇三
慶尙南道	三、五八・八	三、四、三〇〇	△七、四八四、一〇三	三、五八・八	三、四、三〇〇	△七、四八四、一〇三
黃海道	一四、六七・四	一、七六、七〇一	九、六六・三	一四、六七・四	一、七六、七〇一	九、六六・三
平安南道	四、八三・七	六、三六、四九	六、一七、九七三	四、八三・七	六、三六、四九	六、一七、九七三
平安北道	一、九〇・八	二、七、四八九	九、六六・三	一、九〇・八	二、七、四八九	九、六六・三
江原道	五、一五・四	三、八三、〇九	七、六五、九三	五、一五・四	三、八三、〇九	七、六五、九三
咸鏡南道	三、〇	三、三六	三、九四	三、〇	三、三六	三、九四
咸鏡北道	三、〇	三、三六	三、九四	三、〇	三、三六	三、九四
合計	二、五二・五	一、八五、五〇一	二、九六、二五三	二、五二・五	一、八五、五〇一	二、九六、二五三

昭和十四年一月乃至三月の朝鮮に於ける朝鮮人の出生及死亡の概数は別紙の如く出生二六五、二二〇人、死亡一〇六、八六四人で兩者の差増即ち人口の自然増加は一五八、三五六人である。

之を前年同期即ち昭和十三年一月乃至三月と比較すると出生は八、九一二人を増加し死亡は四、一六五人を減少したので、差引自然増加に於ては一三、〇七七人の増加となつた。

尙出生並死亡の月別男女別男女の割合及一日平均出生及死亡は左の如くである。

總數	一 月	二 月	三 月	昭和十四年一月乃至三月に於ける朝鮮人の出生及死亡 (現在地別) (其の一)			
				總數を前年同期に比し (△減)			
總數	男	女	付女百に均出生	總數	男	女	付女百に均死亡
二五、三〇〇	一三、一五五	一二、一四五	一〇七・一	二六、八六四	一五、六三三	一〇、九四三	一、一八七・三
八九、四九九	四七、〇三四	四二、四五四	一〇・八	五、四九九	一九、六〇〇	一六、八四九	一、一七六・一
八四、〇〇八	四三、一五七	四〇、八五一	一〇五・六	三、七六五	二七、一七〇	二四、六二五	一、一五五・三
九、七五三	四七、〇三三	四四、七四一	一〇五・一	六、六三〇	三〇、八四三	二七、七七八	一、一四四・一
八、九三二	四、九三五	三、九六七	〇・五	四、一六五	一、九八九	二、一七六	△一・一

昭和十四年一月乃至三月に於ける朝鮮人の出生及死亡 (現在地別) (其の一)

全 鮮	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
全 鮮	二五、三〇〇	一三、一五五	一二、一四五	二六、八六四	一五、六三三	一〇、九四三	二六、八六四	一五、六三三	一〇、九四三	二六、八六四	一五、六三三	一〇、九四三
京 畿 道	二六、五七〇	一三、六三七	一三、九四三	二一、五六一	六、二七〇	五、三一一	九、三〇一	四、七四四	四、四五七	三、九二九	三、二四四	一、八〇五
忠 清 北 道	二〇、八五三	五、六三三	五、三三三	四、七四五	三、五九	三、三〇二	三、五〇二	一、八七五	一、六七	一、六二五	八四五	七五〇
忠 清 南 道	一八、八六六	九、八八七	八、九八一	六、三二八	三、四七	三、八七	三、三三五	二、八九六	二、一七九	二、一七九	一、一五九	一、〇一〇
全 羅 北 道	一三、一九一	六、八八〇	六、三三	四、九六一	二、七六六	二、一九五	四、五五五	二、四三七	二、二二八	一、七七八	九六	七三
全 羅 南 道	一四、三三五	七、四四一	七、二四四	八、七四四	四、七七三	三、九七〇	七、六六六	四、〇一九	三、六六七	三、八八一	一、五九二	一、一八九
慶 尚 北 道	一三、四三〇	六、五〇〇	六、九三〇	一、九三〇	六、五〇八	五、四三三	二、〇、三三三	五、四八六	四、八三七	四、〇六七	三、三七七	一、八〇〇
慶 尚 南 道	一四、七八九	一四、七三五	一四、〇六四	二、八二八	六、三三九	五、五八九	二、〇、一九一	五、三七二	四、九三〇	三、七〇五	一、九二四	一、七九

	二 月						三 月						前年同期 出生 死亡		
	出生			死亡			出生			死亡					
	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女	總數	男	女
全	鮮八四、〇〇八	四三、一五七	四〇、八五一	三、九七五	二七、一七〇	二四、六五五	六、七五五	四七、〇三三	四四、七四一	三六、三三〇	二〇、八四三	一七、七八八	三六、六三八	二七、七八八	二四、九〇〇
京畿道	八、四四九	四、三三三	四、〇四四	三、四四四	二、九一二	一、五二二	八、九七〇	四、五八八	四、四三二	四、一五八	二、三三四	一、八二四	四、九一八	二、四四四	二、四七四
忠清北道	三、四六六	一、七六一	一、六八八	一、五五五	七四九	六五五	三、九三三	一、九六八	一、九六五	一、四四五	九四九	八〇〇	二、四六六	一、二六六	一、二〇〇
忠清南道	六、一〇四	三、三三六	二、八八八	一、八八一	一、〇三八	八五三	六、六三三	三、四〇六	三、二二七	二、一八三	一、二六〇	九八	一、七三三	九八	九八
全羅北道	四、三三〇	二、三九九	二、〇三二	一、四四一	八三三	六五五	四、三三三	二、三九九	二、〇三二	一、七八三	九八	七九	四、三三三	二、三九九	二、〇三二
全羅南道	七、五五五	三、八七八	三、七七七	二、六五五	一、四七七	一、一七八	七、五五五	三、八七八	三、七七七	二、六五五	一、四七七	一、一七八	七、五五五	三、八七八	三、七七七
慶尙北道	九、八四四	五、一三三	四、七一一	三、四四四	一、九三三	一、五一一	九、八四四	五、一三三	四、七一一	三、四四四	一、九三三	一、五一一	九、八四四	五、一三三	四、七一一
慶尙南道	九、三九九	四、八二六	四、五七三	三、四四四	一、八三三	一、六一一	九、三九九	四、八二六	四、五七三	三、四四四	一、八三三	一、六一一	九、三九九	四、八二六	四、五七三
黃海道	六、七六七	三、三三三	三、四四四	二、七七七	一、三三三	一、四四四	六、七六七	三、三三三	三、四四四	二、七七七	一、三三三	一、四四四	六、七六七	三、三三三	三、四四四
平安南道	五、九四九	三、〇九九	二、八五〇	二、三三三	一、一三三	一、二〇〇	五、九四九	三、〇九九	二、八五〇	二、三三三	一、一三三	一、二〇〇	五、九四九	三、〇九九	二、八五〇
平安北道	三、五五五	一、七七七	一、七八八	二、〇〇〇	一、一三三	八六六	三、五五五	一、七七七	一、七八八	二、〇〇〇	一、一三三	八六六	三、五五五	一、七七七	一、七八八
江原道	一九、三三三	一〇、〇八八	九、二四四	九、二四四	四、一三三	五、一一一	一九、三三三	一〇、〇八八	九、二四四	九、二四四	四、一三三	五、一一一	一九、三三三	一〇、〇八八	九、二四四
咸鏡南道	一九、一六六	一〇、〇三三	九、一三三	九、一三三	四、一三三	五、一一一	一九、一六六	一〇、〇三三	九、一三三	九、一三三	四、一三三	五、一一一	一九、一六六	一〇、〇三三	九、一三三
咸鏡北道	九、九九九	五、一六六	四、八三三	四、八三三	二、〇〇〇	二、八三三	九、九九九	五、一六六	四、八三三	四、八三三	二、〇〇〇	二、八三三	九、九九九	五、一六六	四、八三三

(其の二)

平安北道	六,五九	三,五五	三,六八	一,七六	一,四七	一,八二	四,五四	三,五二	一,八六	一,六四	三,五五	一,七四
江原道	五,六〇	三,〇九〇	二,八七〇	一,四七	一,三六	六,八一	五,四四	三,一元	三,四八	一,七〇	一,五八	九,九七
咸鏡南道	六,〇八	三,〇六	三,〇〇	一,〇九	一,〇五	六,四四	五,四八	三,一五	三,八八	一,五〇	一,六六	七,四六
咸鏡北道	三,二〇	一,六六	一,五五	九	五	二,八六	二,八六	一,七四	一,五七	八七	五五	一〇,六三
再揭 (其の二)												
府總數	二二,〇九	六,八三	六,五七	六,五五	三,六八	三,八五	四,四三	三,五九	三,六三	三,三二	一,三五	九,九
京城府	四,一〇	三,三三	三,〇一	三,五五	二,九八	一,〇七	一,〇七	八四	七九	六三	四三	三六
仁川府	六八	三〇	三八	二五	二	二	二六	一〇	一五	七	五	五六
開城府	五九	三六	三八	六九	二六	二	二〇	一〇	一〇	一〇	六	四
大田府	二五	二	二九	五	五	七	九	四	四	三	〇	三
群山府	一六	一〇	六	二〇	三	八	七	三	三	三	八	二
全州府	三三	二	一〇	五	五	七	九	五	四	四	〇	一四
木浦府	三〇	二	一〇	一五	七	八	八	四	三	四	七	一七
光州府	三六	一七	一〇	一〇	六	四	八	四	四	三	二	二
大邱府	一,一三	五九	五三	五	四〇	二四	四	二二	二八	二〇	一七	八
釜山府	一,〇二	五三	四八	六	四	二八	五〇	三〇	二八	一八	一〇	八
馬山府	二六	一四	一七	九	四	四	一〇	六〇	四	二	一	一

海州府	三〇	一八	一五	一六	六	七	一〇	一五	四	五	六	元
平壤府	一、五九九	八四三	七五七	六三一	三九九	二九三	二八二	三三三	二六〇	三九	二七	一〇三
鎮南浦府	四〇	二四	一六	一九	二	六	一五〇	八	六	七	五	五
新義州府	四〇	三三	一八〇	二六三	九〇	七	一四七	八五	六	七	三〇	七
元山府	三三	一七	一六	一六	二	一	一八	八〇	六	九	五	〇
咸興府	三三	一八	一三	二七	二	六	一五	七	七	六	四	五
清津府	六八	一五	一五	二八	二八	九	一五一	八〇	七	六	四	三
羅津府	一六	八	八	八	八	四	三	三	三	二	一	〇
同 上 (其の二)												
府總數	三、三九	二、〇四	一、九六	一、九七	八七	二、二九	二、〇六	三、三七	一、三三	二、二九	六、三五	
京城府	一、三九	六五〇	六〇九	七六	三三	一、四六	一、二七	八三	四八	四、四六	二、三〇	
仁川府	一八	一四	八〇	七	六	二五	一三	一〇	六	六九	五五	
開城府	一七	一〇	八四	八	四	一七	一〇	五	五	六四	五九	
大田府	七	七	三	三	一	五	四	五	一	一八	一六	
蔚山府	九	四	九	六	三	五	三	四	一	一三	三	
全州府	六	三	三	三	二	六	三	三	一	一三	三	
木浦府	五	三	三	三	二	六	三	三	一	一三	三	



光州府	七九	四〇	九	五	七	六	八	五	〇	七	三	一四	二四八	一三
大邱府	三四	一九四	一七〇	一七三	九	五	五五	一九	一七四	二〇二	一五	六六	五八	一
釜山府	三五	一六一	一五四	三九	一四	九	五七	一〇	一三七	二二	一〇〇	一〇三	五四二	一
馬山府	七四	三	五	六	三	六	九〇	四	一三七	三	一〇〇	一〇三	五四二	一
海州府	一〇二	五	四	六	七	七	一〇三	五	四八	九	一	一	一	一
平壤府	五二	三三	二四八	一四	八	八一	五六	三六七	二四九	二八	一九	一〇九	一、四〇〇	七五四
鎮南浦府	二六	六	五	五	八	一七	一五四	九	五九	七	四	六	一七九	一八九
新義州府	一五	七	四	四	九	一	一三	六	五四	八	三	一七	一八二	一九一
元山府	一〇〇	五	五	五	三	二	九四	四七	五四	六	四	一四	一五五	一五四
咸興府	九〇	五	四	五	三	三	一六	六	五四	五	六	一四	一五五	一七九
清津府	二四	五七	五七	六	五	元	二三	六	五〇	六	六	九	一七九	二三八
羅津府	三	三	四〇	三	二	三	九	五	五四	六	六	二	二三八	六

備考 府は昭和十四年首現在とす。

備考 府は昭和十四年首現在とす。